ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	青山　雅哉

１．教育の責任

・器楽演習Ⅰ（鍵盤楽器）　・器楽演習ⅠＡ（ピアノ）　・器楽演習ⅡＡ（ピアノ）　・音楽表現ⅠＡ（ピアノ・歌）
・音楽表現ⅡＡ（ピアノ・歌）　・キーボードハーモニーⅠ　・キーボードハーモニーⅡ
・ソルフェージュⅠ　・ソルフェージュⅡ　・器楽特殊演習ⅠＡ（ピアノ）　・器楽特殊演習ⅡＡ（ピアノ）
・器楽合奏Ⅰ（和楽器を含む）　・器楽合奏Ⅱ　・器楽合奏Ⅲ　・器楽合奏Ⅳ
・その他　音楽専修GTでのピアノレッスン

２．教育の理念・目的

総合的な音楽理解と音楽表現力を深め、音楽教育の場における柔軟な教育力、高度な実践力さらに豊かな人間力を身に付けた教育者の養成を目指している。

３．教育の方法

器楽演習、音楽表現等の授業ではピアノを中心にした基礎的な演奏や弾き歌いの技術と表現について学生個々の力に応じた指導を行っている。ソルフェージュでは聴音による音への感性を高め、初見演奏での読譜能力向上を目指している。キーボードハーモニーではメロディーへの伴奏付けやコードによる即興演奏により音楽創作への基礎的理解と技術力の獲得を目指している。器楽合奏では実践を通した気づきを各学生が発表していくことで指導方法への理解を深めるようにしている。器楽特殊演習では音楽演奏の実践を計画し、そのための練習内容を学生達が互いに検討していくことでその効果や指導方法への理解を深め、さらに音楽演奏の実践を通して音楽への総合的な能力の向上を目指している。全ての授業において現場で必要とされる音楽力の育成、向上を目標として毎回授業内容に即した課題を時間外学習として提示し、次回の授業においてその準備を前提にした授業展開を行うことで時間外学習の徹底を図っている。また、中・高（音楽）教諭への志望者へは音楽専修のGTとしての取り組みとして個別にピアノレッスンを行っており、志望学生への音楽教育者としてのさらなる能力獲得へ向けて支援をしている。

４．教育の成果

学生個々のレベルや能力に合わせた指導方法により学生各自の学修意欲の向上がみられる。一方、音楽について基礎的理解や技術への学修に大変時間を要す学生には個別に対応してはいるが、その効率的な指導方法については今後の課題としている。

５．今後の目標

学生個々のレベルや能力に入学前からの音楽経験上の違いによる開きがあり、共通した教育では一律に学びの機会とはならない面を改善をしていく。そのために学生達が互いに教え取り組んでいく環境を整えていくことで、共通した教育力を身に付けていく機会としていきたい。音楽専修学生への学修成果や目標設定へ効果を期待し、ピアノグレード制への検討を進めていきたい。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・器楽演習課題曲グレード表　・授業成果としての演奏録音

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	大西　雅博

1．教育の責任

⑴ 担当科目

2021年度　担当科目一覧表

授業科目名	開講学期	科目区分	対象学年
指揮法	前　期	専　門	３年生
人間教育学ゼミナールⅡ（応用）	通　年	専　門	４年生
基礎ゼミナールⅡ	通　年	専　門	２年生
教職表現力演習Ⅰ	通　年	専　門	１年生
教職表現力演習Ⅱ	通　年	専　門	２年生
卒業研究	後　期	専　門	４年生
器楽合奏Ⅰ（和楽器を含む）	通　年	専　門	１年生
器楽合奏Ⅱ	通　年	専　門	２年生
器楽合奏Ⅲ	通　年	専　門	３年生
器楽演習ⅠＢ（管打）	前　期	専　門	１年生
器楽演習ⅡＢ（管打）	後　期	専　門	２年生

⑵ 学生支援

①　マーチングバンド部顧問として、学生の募集活動及び入学後の指導を行うとともに、就職についてもサポートしている。

②　教職・保育課程委員長として、介護等体験、教育実習先の開拓、コロナ禍における実習に対応し、サポートしている。

③　音楽専修長として、専修内をまとめるとともに、より一層の発展を目指し、広報活動・就職活動に力を入れている。

④　学部運営委員として、各専修との調整を図りながら、学生ファーストの精神の下、運営に取り組んでいる。

2．教育の理念・目的

子供たちにとって、先生は新人も熟練も関係なく、全てがプロの教師でなければならない。若い教師にしか出来ないことは多々考えられるが、若いから出来ないという甘えは、教育現場では許されないと考える。失敗が許され、修正が出来るのは、学生である今しかない。より実践的な体験を通して、プロとしての厳しさと自覚を持たせたい。他人の意見を真摯に受け止めるとともに、失敗を素直に認めることにより、自らの成長に役立たせたい。学生だから、これくらい出来れば良いという評価ではなく、社会人としていかに有るべきかを基準に、人間力の向上を目指したい。

3．教育の方法

授業においては、実際の現場でどのようなことが起こり得るかを想定しながら、実践的な学修を行っている。人前で話すことに慣れるため、模擬授業はもちろんのこと、様々な場面で意見を述べるよう設定している。また、他人の意見を受け入れる姿勢を養うため、他人から評価される場面も多く作っている。自分も他人のために意見を述べ、自分のために他人の意見を吸収するというサイクルを何回も繰り返すことにより、「話す」ことへの慣れや自信を身に付けさせている。そして「話す」から「伝える」「教える」ことへ発展させるためには、それに裏付けされた「技術」が必要であることに着目させ、自ら高い技術を身につけようとする姿勢を養っている。特に音楽は、実践的な技術が問われる場面が多いため、圧倒的な知識と技術が必要であることを、強く認識させている。まずは先生が生き生きと歌う、そして子供たちがその姿に影響され、歌うことの楽しさを知る。歌わせる技術ではなく、楽しさを伝えるためには、自身の高い技術が必要であることを自覚しなければならない。

4．教育の成果

⑴達成出来た

・指揮法について、毎回高度な選曲にチャレンジし、自ら進んでより高い水準を目指す意欲が見受けられた。

・人前で、ゆっくりと大きな声で話すことが出来るようになり、言葉の大切さが理解できたと思われる。

・オンライン授業となり、作曲の進行が遅れていたが、短期間に集中して取り組む姿勢が見られ、遅れを取り戻した。

・歌唱が苦手な学生が多いが、積極的に人前で歌うことにより、自信とともに技術も向上している。

⑵達成出来なかった

・音楽の専門的な知識を幅広く習得することが出来ていない。（音楽史、音楽理論、音楽ジャンル、演奏法等）

・弾き語りの技術が低い。歌とピアノそれぞれは上達しているが、その二つを同時に演奏する技術が不足している。

５．今後の目標	
⑴短期的目標	・学生の向上心を高めるための指導法について、さらに研究する。
	・授業における課題の出し方や内容について精査し、より効率の良い方法を研究する。
	・学生一人ひとりのニーズに合わせた指導を実践し、個人の力を高める。
⑵長期的目標	・幅広い音楽のニーズに応えられる教育環境の整備を進める。
	・音楽を通して、地域社会との連携を図り、社会とともに発展できる環境づくりに努める。
・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）	
	・マーチングバンド部の実績
	・音楽専修の実績
	・ブランディング企画書

マーチングバンド部における実績

【入部者数】

2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
23 名	21 名	30 名	23 名	16 名	28 名	30 名	18 名

2022 年
(20)名

【就職先】

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
教員（幼保含む）	7 名	5 名	5 名	5 名	3 名
公務員	3 名	1 名	3 名	1 名	1 名
企業、その他	13 名	15 名	22 名	17 名	11 名

	2022 年
教員（幼保含む）	名
公務員	名
企業、その他	名

【大会結果】

	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
関西大会	ステージ全国	ステージ全国	金賞 1 位	金賞 1 位	金賞 1 位	金賞 1 位	金賞 1 位
全国大会		審査員特別賞	銀賞 10 位	銀賞 7 位	銀賞 7 位	銀賞 7 位	G.P.賞

	2021 年
関西大会	
全国大会	

【社会貢献】2014 年～2021 年

＊クリスマスコンサート（仙台市仮設住宅）＊学校法人奈良学園 50 周年記念式典＊奈良学園大学学歌作曲＊王子町ミルキーウェイ＊平群町時代祭行列＊こおりやま音楽祭“楽”＊三郷町給食センター新築記念式典＊三郷町新道路開通記念式典＊登美ヶ丘フェスタ＊飛鳥リレーマラソン＊三郷町 2 デイウォーク＊三郷キャンパスお花見会＊大和川清掃ボランティア＊鳥取商業高校吹奏楽部演奏会ゲスト＊奈良学園幼稚園夕涼み会＊2000 人の吹奏楽ゲスト＊赤い羽共同募金オープニングセレモニー＊日本人間教育学会シンポジウム＊エコパマーチングフェスティバルゲスト＊天満警察署防犯パレード＊名古屋マーチング＆バトンウェーブゲスト＊王子町吹奏楽祭＊第 32 回国民文化祭なら 2017＊まつり in ハワイメインパレード＊KCN テレビ出演

音楽専修における実績

【入学者数】

2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
7 名	１０名	１８名	15 名

【就職先】

	2022 年
教員（幼保含む）	3 名
公務員	0 名
企業、その他	2 名

【社会貢献】

2018 年	・三郷町 PV「きらきら星」作成・り～べるカレッジ和＆輪コンサート
2019 年	・子供フェスティバル出演（近鉄百貨店）
2020 年	・三郷町 PV 第 2 弾「Get Through」制作
2021 年	・音楽でつながろう in NGU（新型コロナ感染症の影響で中止） 代わりに、登美ヶ丘カレッジ「室内楽の調べ」として、教員が開催。
2021 年	・ブランディング広報の取り組み「Get Through ～あなたと共に～」。音楽専修の学生とマーチングバンド部による路上ライブを計画。 （新型コロナの影響で未実施）

学長	副学長	受付

ブランディング企画書

令和 3 年　3月　9日

タイトル	Get Through ～あなたと共に～
企画者 **〇印は責任者**	〇 大西 雅博、青山雅哉、辻井直幸、森瀬智子、知念奈巳監督、
趣旨	音楽を通じて、沈んでいる世の中に元気を提供したい。
企画内容	コロナ禍で沈んでいる街中で路上ライブを展開し、道ゆく人々に元気を提供する。音楽専修とマーチングバンド部の学生を中心に、1名から5名程度の少人数での演奏を企画し、街頭で演奏を披露する。その際、大学名の分かるようなセッティングにする。
スケジュール	４月：警察署への申請→奈良駅・三郷駅・王寺駅・役場等への承諾申請 ５月：メンバー選出→企画・選曲→練習・演出 ６月：実施可能
予算額	・「Get Through ～あなたと共に～」ののぼりの製作費（2万円程度） ・学生と楽器の移動費（公用車が使用可能であれば、０円）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	金山 憲正

１．教育の責任

担当授業科目
・人間教育学
・教育と日本の伝統文化
・教育方法・技術論

女子バスケットボール部顧問

２．教育の理念・目的

・広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟した学生を育てる
・教育に対する使命感と情熱をもち、子どもと教育的な関係を築く力もった学生を育てる
・教育の専門家として各教科の内容及び指導法を実践的に深め身につけた学生を育てる
・個々の子どもを理解し一人ひとりを生かすとともに集団を指導する力を身につけた学生を育てる
・日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につけた学生を育てる

３．教育の方法

・各教科の内容及び指導法に関しては、アクティブラーニングや問題解決型の学習展開を目指すための必須条件となる各教科の教材に対する深い
　理解を求めて徹底的な教材研究に取り組む必要性とそれによる学習効果を認識させるようICTを活用した講義を行う。
・学生の多様な学び方に対応できるよう授業用のHPを作成し、教材研究の素材や実践事例およびExcelやパワーポイントを用いて作成した作品例
　など必要な情報を提供し、自学自修の取り組みができるような環境作りをしている。
・日本の伝統文化に触れ理解する機会として、講義においては伝統芸能や工芸および建築物などに関するビデオ映像やパンフレット等の資料を
　HPにアップしいつでも閲覧できる状態にしているとともに講義でも効果的に活用するようにしている。
・自身のICT技能を高めるため各種の研修会に参加すると共にIR情報を授業においてもその活用を推進していくことをめざしているのでIRに関す
　る研修会にも積極的に参加している。

４．教育の成果

・講義で教材研究の重要性を具体的な事例をあげアクティブラーニング形式や参加型の授業展開で行ったため、講義後のレポートから多くの学生
　が教え込んでしまえば簡単な内容に思えるものでも子どもに考え気づかせる授業をするには教材の裏に潜んでいる多くの事柄を指導者がしっか
　り理解していないと実現できないことが理解できたことがうかがえた。
・HPに関してはかなりの学生が利用しているが現在の段階では誰がいつアクセスしたのか把握できるプログラムにはなっていない。

５．今後の目標

・HPにアクセスした学生名、回数、時間等が把握できるよう改良し学生一人ひとりの学修への取り組み状況を把握し、講義の進め方の参考とし
　て活かしていきたい。
・指導資料の中に学校現場の実際の授業展開が学べるビデオ映像を充実させ、学生に教育現場における授業展開のイメージを抱かせる機会を増や
　していきたい。
・１を教えるためには10を知っておかねばならないことを学生に強く感じ取らせることができる具体的な事例を整備していきたい。

● 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・学生評価アンケート（前期：人間教育学）

評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。 集計	31	11	0	0	0	4.74
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。 集計	18	14	8	2	0	4.14
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。 集計	28	12	2	0	0	4.62
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。 集計	31	8	3	0	0	4.67
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。 集計	33	6	3	0	0	4.71
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。 集計	32	7	3	0	0	4.69

・授業用金山個人HP： kanayama52.net/kyoikuhoho.html

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	桑原　祐子

１．教育の責任

本学において担当するのは、中学校・高等学校の一種免許を取得を目指す中等国語専修の学生の教育である。国語学に関する科目（国語学入門・国語学Ⅰ・国語学Ⅱ）を担当している。日本語はどのような言語なのか、どのような特質があるのかを、形態・意義・職能の三つの観点から考える授業を行っている。更にそれらがどのような有機的な繋がりを持ってるのか、どのように変化してきたのかということを、具体的な言語現象を取り上げて、学生自身が考える授業（語学文学総合演習Ⅰ国語学・国語学特論）を進めている。その過程で、音声言語・文章表現に関する知識、運用能力の習得も目指している（教職表現力演習Ⅰ）。

他に、教養科目として古都「奈良」の地域性を生かした「奈良学」を担当している。奈良は、日本で初めて恒久的な都市が建設された地域であり、国際都市と仏都の二つの要素が多くの文化財を生み出した場である。これらの歴史的事象を、具体的な文物を通して知識を蓄え、世界の中の日本を見出す授業を展開している。

また、国際交流ために中国の大学生が留学生として一年間在籍するので、彼らに対する日本語教育も行っている（日本語表現）。

２．教育の理念・目的

①江戸時代から連綿と続き、明治以降西洋の言語学の方法を取り入れながら蓄積されてきた国語学（日本語学）の研究成果を土台とすること。②とどまることのない言語の変化や様々な言語現象を、いかに客観的に捉え分析するかということ。③自らの研究に基づいた授業を展開すること。以上の3点を教育理念としている。言語および言語文化について学生自身が具体的な問題意識を持つことを目的としている。

これまでの研究成果を学ぶことや知識を蓄えることは、問題意識を生み出す土台となると考えている。大学教育の根幹は、自らの研究を通して授業を展開し、授業者自身が常に新しい観点と問題意識を示すことにあると考えている。

３．教育の方法

科目によっては毎時間、少なくとも一つのセクションが終わる度に、初見カードの提出を求め、必ずそこに示された疑問・質問に答える時間を作っている。特に、国語学入門など、新しい学問領域の科目については、授業の初めにその時間に学ぶ内容を「問」の形で示し、最終的にその問いに学生自らが答えるように工夫している。口頭のみならず、文章化して解答させることで、課題に対する思索を深めさせるようにしている。

「語学文学総合演習Ⅰ（国語学）」では、学生一人ずつ研究発表をさせているが、発表までの2週間の間に、数回マンツーマンで指導を行っている。古辞書の引き方、資料の読みかた、研究の方法、問題の捉え方、レジメの書き方など、細かく指導を行っている。この指導の回数が、研究発表の出来不出来に大きく影響している。ここで、卒業研究のヒントを得る学生も少なからずいる。

「奈良学」においては、高等学校までの歴史では学ぶことのない事柄を話題とすることを心がけている。できるがぎり現存する文化財をパワーポイントや動画などを駆使して視覚にうったえながら、その背景にある歴史を学ぶようにしている。これらの知識や新しい知見が、歴史を学ぶだけでなく、「歴史に学ぶ」ことにつながることを望んでいる。

「国語学入門」ではセクション毎に復習問題を課しているが、ここでの小さな積み重ねが、知識の蓄積に役立っている。

４．教育の成果

所見カードをこまめに書く学生は、最終的な試験・レポートの結果もよい。どれだけ問題意識を持って授業に臨むかということが重要であることはここに如実に現れている。視覚にうったえるような教材を使用することによって、知識の定着がはかられているように思われる。

５．今後の目標

入門科目以外では、近年の国語学の研究成果をより一層入れた授業を試みたい。現状では、基礎的な内容の理解と問題の発見に終始しているので、新たな視点での研究の可能性をも視野に入れたい。このような新しい視点をもって考えることが、生きた言葉を対象とした国語という科目を担当する教師としての自覚と資質向上が図れると考える。

外来語やネット用語が日常的に氾濫している現代、それに対する見識が、国語の教師には求められる。その時、単なる好き嫌いや世間が望む意見ではなく、長い歴史の流れの中で個々の事象を捉えること、俯瞰的に物事を捉えることのできる人材を育てたい。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

国語学入門・国語学Ⅰ・国語学Ⅱ・語学文学総合演習Ⅰ（国語学）・奈良学のシラバスを参照されたい。

自身の研究の中心である、正倉院文書の研究会（正倉院文書を読む会）を月に1回行っている。また、上代文献を読む会も、上代文献の注釈書作成を目指して月に1回の研究会を重ねている。

全国規模の学会としては、正倉院文書研究会・木簡学会・萬葉学会などに参加している。

国立歴史民俗博物館の共同研究員として、産学連携の研究プロジェクトに参加している。

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	住本　克彦

１．教育の責任

私は本学において、人間教育学部の専門教育科目のうち、教育実習事前事後指導（小）、人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）、教育実習Ⅰ（小）、教育実習Ⅱ（小）、教職実践演習（幼・小）、以上必修科目。教職入門Ａ（初等）、教職入門Ｂ（中等）、生徒指導・進路指導論Ａ（初等）、生徒指導・進路指導論Ｂ（中等）、教育社会学Ａ（初等）、教育社会学Ｂ（中等）、以上選択科目等、主に教職科目を担当している。専門である「教育学」「生徒指導」「進路指導」「学校カウンセリング」等を活かし（参加型・体験型での事例検討、ＩＣＴ活用、開発的カウンセリング技法導入　等）、主体的・対話的で、深い学びの実現が図れるような授業展開を常に意識しながら、主に学生に、教育実践力を養うような学びを実践している

２．教育の理念・目的

私は、本学の教育活動において、以下の３点を重視している。
1)人間的社会的に成熟した人を育て、教育に対する使命感と情熱をもち、子どもと教育的な関係を築く力を培う教育を展開する
2)教育の専門家として各教科の内容及び指導法を実践的に深め、個々の子どもを理解し一人一人を生かすとともに集団を指導する力を身につける教育を実践する
3) 主体的に学ぶ意志、態度、能力などの自己教育力を持ち、他者と連携しチームとして活動できる力を身につける教育実践を遂行する

３．教育の方法

上述の教育理念を達成するため、次のような授業を行っている。
1)人間的社会的に成熟した人を育て、教育に対する使命感と情熱をもち、子どもと教育的な関係を築く力を培う教育を展開する
⇒ＮＩＥ（Newspaper in Education）導入で、社会常識を養わせる。また、最新の新聞記事から、現代の教育課題に向き合わせ、グループ学習の中で、教育のあるべき姿を追求する場（参加型・体験型での事例検討　等）を設定する。さらに、子どもとの教育的関係づくりのために、構成的グループエンカウンター技法を活用する
2)教育の専門家として各教科の内容及び指導法を実践的に深め、個々の子どもを理解し一人一人を生かすとともに集団を指導する力を身につける教育を実践する
⇒指導者自身が担当科目での指導内容の精選や、指導法の工夫（授業導入時でのねらいの確認や見通し学習、終末時の振り返り学習の実践　等）を示す。また、指導者は、常にカウンセリングマインドを持って、学生一人一人に向き合い、一斉指導、グループ学習、個別学習等、学習形態を工夫し、授業を活性化する。さらに、学生一人一人に本時の目標を定着させるために、また、本時の授業内容等が理解でき、その内容を深められたかを確認するためにも、担当科目毎に、毎時間終末時、レポート課題を課し、指導者が次回授業までに、個別に寄り添ったコメントを各レポートに丁寧に記入し、返却している
3) 主体的に学ぶ意志、態度、能力などの自己教育力を持ち、他者と連携しチームとして活動できる力を身につける教育実践を遂行する⇒自己教育力を持たせるため、まず学習意欲を高めさせる。そのため、体験的学習など学習の手段や方法を工夫する。次に、学習の仕方を習得させる。そのため、基礎的・基本的な知識・技能を着実に学習させてから、問題解決的・問題探究的な学習方法の場を設定する。さらに、自己教育力は、これからの変化の激しい社会における生き方の問題にかかわるものでもあり、学び続けるものこそ教える資格を持つ心構えを持たせるよう、指導者自身が学ぶ姿勢を持ち続ける。また、この自己教育力の要素を育てるためにも、指導者と学生間の双方向学習はもちろんのこと、参加型・体験型での事例検討の実施、インターネット利用などＩＣＴ活用、人間関係づくりに有効な構成的グループエンカウンターの活用など、授業内容・構成に創意工夫を凝らす

４．教育の成果

直近の「学生による授業評価」を以下に取り上げる。〔2021年度前期　奈良学園大学　FD・SD委員会実施の「学生による授業評価アンケート」から〕「教職入門B（中等）」（2021年度前期授業：月2限）人間教育学部2年7人･1年54人計61人受講。回答61人。回答率100.0%。15回中対面式6回、オンライン9回のハイブリッド形式による授業実施。5段階評価(5:そう思う～1:そう思わない)⇒結果：⑴この授業に積極的に参加していましたか。=4.79　⑵この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。 =3.72　⑶この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。=4.74　⑷教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。=4.87　⑸この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。=4.82　2021年度も、コロナ禍の影響もあり、オンラインと対面式のハイブリッド型の授業展開であったが、後期15時間学生授業アンケート結果は、「4.82（総合的に満足している：5段階評価）」であった。オンラインであっても、対面式であっても、ＮＩＥ活用、参加型・体験型事例検討、ＩＣＴ活用、開発的カウンセリング技法の活用等を導入し、授業内容や構成等を工夫しながら進めた結果と捉えている。各担当科目において、毎時間終末時のレポート課題への丁寧なコメント記入後のレポート返却は、今後も継続することの必要性は、指導者自身が、学生からのフィードバックにより、次回の授業内容の軌道修正ができることも効果があったものと考えられる

５．今後の目標

⑴ 短期的な目標

私自身の、市教育委員会「教育委員」、県いじめ問題対策連絡協議会「会長」、県こども家庭センター（児童相談所）「児童虐待等対応専門アドバイザー」、県立学校いじめ問題調査委員会「委員（学識経験者：日本生徒指導学会 推薦）、県教育委員会 県立高等学校「特別非常勤講師」、県教育委員会　県立学校人権教育サポート事業「心理検査活用リーダー研修講座　専門講師」等の教育実践を踏まえた学生指導を遂行することで、学生自身が、学校現場の様々な教育課題に適切に対応し、チームとして行動することができるようにさせる

⑵ 中・長期的な目標

私自身の、永年のスクールカウンセラー・スーパーバイザー等の教育相談実践活動を踏まえ、学生が、常に子どもの発達に応じた教育実践が構想・遂行できる力、子ども一人一人の内面を見つめ、共感的理解に努めることができる力、そして、他者と連携しながら問題解決に取り組む力を育成する。そのためにも、私自身が、常に組織の一員として、また、カウンセリングマインドを持った教師として、一人一人の学生に真摯に向き合い、心に寄り添った教育実践を心がけたい

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	善野　八千子

１．教育の責任

私は本学において、小学校一種免許取得に関わる専門科目及び演習科目を担当している。
中でも「教育行政学A（初等）」、「生活の理解」、「生活科指導法」、「人間教育実践力開発演習Ⅲ」「教育実習事前事後指導（小）」「教育実習」「教職実践演習」を教育している。
また、課外においては、教員を志望する学生の１・２年次生には基礎学力の定着のための学修方法の工夫や学習習慣の相談について指導している。さらに、３・４年次生に対しては、面接指導及び場面指導、模擬授業などの個別指導を意欲の継続や心のケアなど、年間を通して採用試験直前または当日まで、当該学生の要望に応えた指導を継続している。

２．教育の理念・目的

私は、本学の教育活動において、以下の３点を重視している。
1)教員免許を取得する学生としての人間力の向上
2) 教育現場で求められる教育実践力の育成
3) 社会に貢献し、時代の進展に対応する豊かな表現力の養成

３．教育の方法

上述の教育理念を達成するため、小学校教員１種免許取得に関わる「教育行政学A（初等）」及び「生活の理解」「生活科指導法」、並びに「人間教育実践力開発演習」では、次のような授業を行っている。
これらの科目では、実習及び学校現場で活用できる実践力や表現力の育成を目標としている。そのため、教育の現場で直接的な関わりの深い実践事例や教育課題を取り上げ、子どもの発達に応じた基本的な知識及び実践を交えて教授している。さらに、学校間接続や保護者対応への実践に結びつくよう図っている。
また、人間関係構築や相互評価を意図したグループワーク、毎回の授業時での教員または学生自身の体験と表現の場を設けるようにしている。
学生個々の理解力や学びの基礎力を考慮し、個別の理解度を確認するために、リフレクションシートへのコメントや優れた記述紹介により意欲や全体の質向上につなげている。さらに、毎回授業内容に即した課題を授業時間外の時間を利用して個人指導を継続している。
29年間の小学校教員及び管理職、教育委員会事務局主任指導主事として、特に生活科移行期から幼小接続カリキュラム改善に着手し、「教育行政」の実際と「学校経営」「学級経営」及び教員の資質向上等の研究に取り組んできた。これらの現場経験を生かし、教科等の知をどのような活動を通して学校教育現場の実際の課題解決と合致させる具体的な指導をする。
一点目は、ICT活用して、学校現場のニュースや法令から情報を表出させ、自分ごととして課題解決する展開である。二点目は、新たな知を創出する場面において、自己の変容を言語化させ自覚化を図る必要性を実感させる。とりわけ、教育を巡る今日的な課題及びその課題解決のための対応策についてアクティブラーニングをもとに学修を深める。
教育改善への取り組みとして、学内で開催されるFD研修には全て参加している。また、授業公開・見学も時間をやりくりして参加し、他の授業科目の進め方や学生の取り組み方等の参考点を探している。
教員個人としては、授業評価アンケートの結果を受けて、その期の授業について反省を加えている。また、毎年の年度末のシラバス提出時に、次期の授業内容・授業展開について、授業時における学生の反応も参考にしながら、新たに学会や研究論文から得た知見及び教育方法を更新したシラバスとなるよう努めている。

４．教育の成果

【2020年度後期授業評価アンケート】の結果においては、全ての質問項目が全体の平均値より高い結果が出た。
「生活科指導法（火）２限」では、29名の中29名（100%）が回答した「総合的な満足度4.83」は、全体平均と比較して満足度が高かったと言える。とりわけ、「受講マナーを守っていた」4.93は学習規律・生活規律を重視した低学年指導の実践力を自ら身に付けていくことになっている。「説明が分かりやすい」「教員の熱意や意欲が感じられる」が4.9と高い評価を得ているのもやりがいをもって伝わった実感がある。
これらの評価は、学生個別の指導が功を奏し、学生自身もそれを感じつつ、熱心に取り組んだことによるものだと考えられる。受講者一人一人に模擬授業をする機会を与えたことも、課外の予習に対して学生の理解や意欲の格差に寄り添った成果として、継続していきたい。さらに、今後も学生の主体的な学びを喚起する指導法を模索していきたい。
「生活の理解（火）４限」では、101名の中98名（97%）が回答した「総合的な満足度4.69」は、全体平均と比較して満足度が高かったと言える。今回オンライン授業と対面授業の工夫として、受講者101名を一斉としてではなく、毎回の発表チームを少人数（7～8名）で14グループに分割して指導した。課外にオンラインリハーサル及びメール指導を重ねたこともその一つであると考えられる。「生活の理解」は、体験重視である。「教員の熱意や意欲が感じられる」が4.86と高い評価を得ているのも学内環境や自然環境を生かしたフィールドワークが一つの要因と言えるだろう。今後も、予習課題で自ら調べ、授業内で体験活動を通した対話により理解を深めていくことを繰り返すことで必要な知識・理解を定着させていきたい。

５．今後の目標

6.今後の目標

1) 短期的な目標

①学生の主体的な学びの支援、②実習における実践力の育成、③科目間の連携（学修内容を他の科目で実践、応用できる力の育成）

2) 中・長期的な目標

人間力に根ざして常に探求心を持ち、体験に基づいた豊かな感性と知識・技術を持った学生の養成

実践に関わる科目では、社会の変化に対応した学びのあり方を探り、学生自身が文化や自然の魅力を探求し、五感を張り巡らして物事を捉える体験をすることによって感性が揺り動かされ、表現力や実践力に繋げてほしいと考えている。実践を通した教授内容によって学生の興味を喚起し、魅力ある体験の場が提供できるよう努力を重ねていきたい。

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

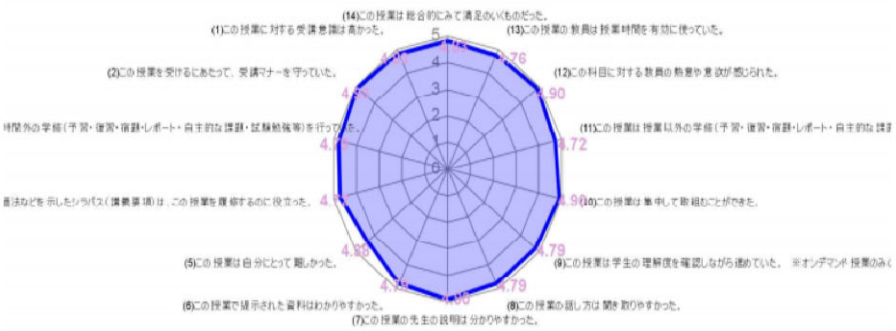
2020年度　　授業評価アンケート(集計表)

開講年度　2020年度　　火曜日2時限　　善野　八千子

生活科指導法

アンケート総数　29 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:あまりそう思わない	2:そう思わない	1:



ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	高岡　昌子

１．教育の責任

本学の建学の精神である「高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有する有能な人材を教育・養成し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献する」ということを常に意識して教育活動に携わっている。2021年度に担当する授業科目は、「保育原理」「保育の心理学Ⅰ」「保育の心理学Ⅱ」「子どもの理解と援助」「障害児保育」「教職実践演習（幼・小）」「子どもと人間関係」「子どもと人間関係の指導法」「教育実習事前事後指導（幼）」「保育所実習Ⅱ」「教育実習Ⅰ（幼）」「教育実習Ⅱ（幼）」「人間教育学ゼミナール（基礎）」「人間教育学ゼミナール（応用）」であり、これらの科目は全て保育者養成に関わる科目である。これらの担当授業では、高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有する有能な保育者を養成することを目指して、有益な指導を行うことができるように努めている。また私は、本学卒業生が、自己肯定感を持ち、自分の存在意義を確信し、社会に貢献していきたいと自ら思って、常に多角的に考えて、主体的に行動していくことができるように願って、それらの願いに効果的な教育的関わりができるように努力している。

２．教育の理念・目的

私は、「現実に立脚した学術の研究と教育を通じて、明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成を目指し、時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をつちかい、誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材を養成する」という本学の教育理念を重要視しており、子どもをとりまく社会における多様な問題を多角的に捉えて、柔軟に改善していくことのできる保育者を養成できるように日々努力している。
また私は、「奈良学園大学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎の上に広く一般教養を授けるとともに、社会で必要な実務能力を備え、自らの目標を達成するための実践力を有する人材を育成するために必要な教育・学術研究の遂行によって、社会の発展に寄与することを目的とする。」という本学の使命・目的も重要視しており、実践力があり実務能力を備えた保育者・教育者を養成をすることを目的として教育している。

３．教育の方法

1) 日本国憲法・子どもの権利条約・児童憲章・児童福祉法・学校教育法等について「保育原理」の授業で伝え、子どもの最善の利益を考慮した保育をできる保育者を育むために、各法律や条約が作られた経緯について理解を深められるように歴史的事実や事例を用いて指導している。
2) あらゆる子どもについて多角的に理解していくことのできる保育者を育むために、「子どもと人間関係」等の授業において討論しあうような時間をもつようにしており、すべての学生の意見を受け止めて、その多様性を認めるように心がけて発言するように努めている。
3) 「保育の心理学」や「保育の心理学Ⅱ」「子どもの理解と援助」等の授業を通して、人間発達について伝え、すべての人間がそれぞれの発達過程にいると捉えて、人間理解を深められるように教育する。
4) 担当する全ての担当授業において、内閣府や厚生労働省、文部科学省等による最新のデータを取り入れて教材をつくるように努めている。
5) 子どもに関わる社会問題や虐待事件等についても取り上げて、学生自身が考えて発表する機会をもつことができるようにしている。
6) それぞれの学生が自己実現していけるように相談にのり、進路指導をして、就職支援を行う。
7）学生一人ひとりが、自己肯定感を持ち、自分の存在意義を確信し、社会に貢献していきたいと自ら思って、常に多角的に考えて、主体的に行動していくことができるように願って、それらの願いに効果的な教育的関わりを積み重ねる。

４．教育の成果

2020年度においても、公立の保育職の採用試験に合格するように支援し、保育士資格をとる学生のうち33%が公立に合格し、2019年度同様、30%以上の合格率を維持できた。
授業評価アンケートの「この授業は総合的にみて満足のいくものだった」という項目において、2020年度後期の「保育の心理学」は4.5、「子どもと人間関係の指導法」は4.7、2021年度前期の「保育原理」は4.8、「保育の心理学Ⅱ」は4.7、「子どもの理解と援助」4.1、「障害児保育」は4.４であった。また授業評価アンケートの「教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか」という項目において、2021年度前期の「保育原理」は4.8、「保育の心理学Ⅱ」は4.7、「子どもの理解と援助」4.6、「障害児保育」は4.5であった。ZOOMでの授業をかなり円滑にできるようになってきたが、ZOOMになったり対面になったりして、対応に追われ、その変更を円滑にできたときには良かったが、その変更に無理があるという回もあり、その割には評価が維持できていたと感じている。授業最後の試験では、ActiveAcademyのアンケート機能で作成したオンラインテストを学生に送り、解答を入力していただいた後で、解答についての解説を行った。特に「保育原理」では、ActiveAcademyで40分が限度の時間であるため、前半テストと後半テストを分けて作成し、学生が入力した情報が消えてしまうことの内容に工夫したことで、不満につながらないようにできたと感じている。さらに、授業評価アンケートではわからない学習効果においては、特に「保育原理」でActiveAcademyのアンケート機能を用いたテストとフィードバック教材作成の労力と工夫の甲斐があり、学生はかなりよく勉強をしてくれたという手ごたえが感じられる結果であった。

５．今後の目標

対面指導だけでなくオンライン指導もどちらもを行うことが学習効果を一層あげることになると感じている。また、昨年度からオンラインの活用方法について学びを深めてきたことで、指導の幅もひろがってきたと実感している。2021年度においては、公立の保育所や幼稚園の採用試験を受ける学生が倍増するため、合格者も倍増するように指導を徹底するために、ActiveAcademyのアンケート機能で作成したオンラインテストを活用して就職支援も行っている。採用試験で出るような問題をActiveAcademyのアンケート機能で作成したオンラインテストにして学生に送り、解答を入力していただいた後で、解答についての解説を行うことで、学生に採用試験のための重要な内容を効果的に伝えることができた。今後は、公立採用試験において一層用いられることになると予想しているWebテスト（SPI3等）において、学生が自らの力を一層発揮できるように指導していきたい。そして、引き続き、オンラインと対面のどちらもを想定して効果的な教材研究を行っていきたい。
長期的には、保育者養成校として望ましいカリキュラムになるように再検討して、学生達がより効率的に深く学ぶことができるようにして、卒業生の保育者としての資質向上を目指していきたいものである。

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

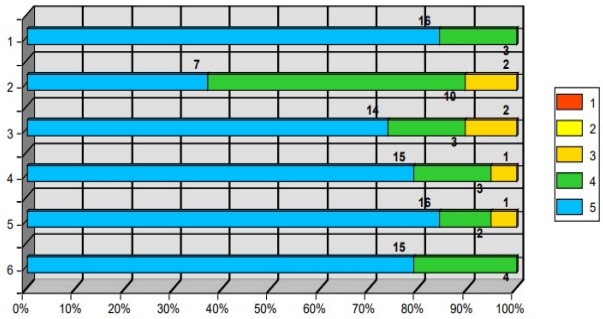
開講年度　2021年度　　水曜日2時限　　高岡　昌子

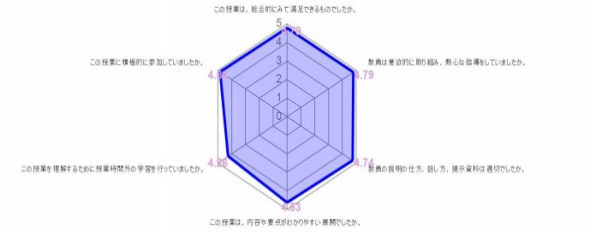
保育原理

アンケート総数　19 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	16	3	0	0	0	4.84
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	7	10	2	0	0	4.26
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	14	3	2	0	0	4.63
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	15	3	1	0	0	4.74
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	16	2	1	0	0	4.79
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	15	4	0	0	0	4.79





ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	中島　栄之介

１．教育の責任

・担当授業科目
特別支援教育総論、病弱者教育課程論と指導論、肢体不自由者教育課程論と指導論
特別支援A(初等）、特別支援B（中等）、現代教育課題B（特別支援）、教育社会学A（初等）、教育社会学B（中等）
基礎ゼミナールⅡ、人間教育実践力開発演習Ⅱ
人間教育学ゼミナールⅠ(基礎）　人間教育学ゼミナールⅡ(応用）卒業研究
・各種学修支援
キャリアセンター長
　キャリアセンター長として、教員採用試験、国家試験、就職支援についてキャンパス統合を機に全学での支援体制を構築していく
　センター室長と共に対策講座、リメディアル講座の連絡調整等を行っている。

２．教育の理念・目的

・自らの教育理念と目的
平成19年より始まった特別支援教育を通して「障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる」人材の育成を目指す。
「教育に科学とロマン」という本学のモットーの一つに基づき、最新の特別支援教育の成果を学校現場にいかすことのできる人材を育成する。
ICT機器などを用い、適切な支援機器や支援方法などを活用することのできる人材育成を目指す。
・価値観・信念
実務家教員として学校現場の様子を学生に伝えると共に、指導に当たっては科学的根拠に基づき特別支援教育の知識と技能を持った教員養成ににあたると共に学校現場の課題を見据えながら研究を進める。

３．教育の方法

・学生との接し方
多様な進路希望に対応するために、学部生としての必要な技能と知識を機会あるごとにふれるようにしている。
また、将来学校現場で働く（ボランティアを行う）ことについて考えながら学修するように意識させるようにしている。

・授業の工夫（授業の方法，内容等）；代表的な科目について述べるか，もしくは共通して実施していることを述べる
【基礎科目】教育社会学A(初等)・B(中等)、基礎ゼミナールⅡ、人間教育実践力開発演習Ⅱ
基礎科目に関しては、学修に対する基本的な考え方、知識、方法を習得することを目的とするために、資料を準備し演習を取り入れたり講義内で意見交換を行うなどの双方向で学生同士からの学びの機会を意識的に作るようにしている。また、積極的にインターネットやICT機器などの活用や技能を修得する機会を設ける。さらに必要に応じて、プログラミングなどの知識や演習も取り入れる。また、人間教育実践力開発演習Ⅱでは、学校支援ボランティアに参加し学校現場より学ぶ事を重視し学生同士の交流の機会から学びを深めたい。
【特別支援教育に関する総論】特別支援教育総論　特別支援A(初等)・B（中等）、現代教育課題B（特別支援）
平成19年に特別支援教育が始まり特別支援学校や特別支援学級以外でも特別支援教育に関する知識や技能が求められ必要とされている。そこで、特別支援教育に関する内容だけではなく、「障害」についての考え方、就学前・就学中・卒業後の生活、手帳や年金など各種の制度など幅広く「障害」について取り上げ基礎的な知識、考え方について学修を深めたい。
【特別支援教育の各論】病弱者教育課程論と指導論、肢体不自由者教育課程論と指導論
特別支援教育は、他職種(福祉･医療･保健・労働・行政等)と連携する機会が多い。そのため、特別支援教育に限らず、幅広く他職種の専門家と対等に連携できるようにするための知識も必要である。そこで、各論の内容はもちろん、各論を進めるにあたっての基礎知識にもふれながら授業を進めていきたい。障害特性や支援のニーズに合わせた教育課程の編成についての考え方、視点にもふれながら学修を進めていく。
【卒業研究】人間教育学ゼミナールⅠ(基礎）　人間教育学ゼミナールⅡ(応用）　卒業研究
卒業研究では、何らかの形で「障害」と関係することとしている。学生の興味や関心、将来の進路などにより幅広い内容を取り上げることを予定している。そのため、まず基本的な知識や方法を身に付けるため、課題を調べる、論文通読などを行う。各回のゼミでは課題と研究の交流について行い学修を進めていく。また、特別支援教育関係の研究室で合同ゼミを実施し研究内容を交流する。

・FD/SD活動等にかかわる内外の研修会への参加
学内で開催される研修会に参加し、授業の中に取り入れようとしている。

・自らの専門分野の成長
現在、大学院で専門分野について研究を行っている。
学会へも発表を行っている他、学会運営に携わっている。

４．教育の成果

・達成できたこと，できなかったこと（達成レベル）

教育の方法については、概ね実施することができている。遠隔授業などでは、実際の教科書（点字等）を提示することが難しかったこともあったが画像などの資料で対応することができた。資料については、ほぼ毎回、スライド資料を準備してきた。プログラミング教育についても小学校の学習指導要領に基づき短時間ではあるが入門程度の内容を実施することができた。

・授業アンケートの結果

授業アンケートについて、全体の評価を上回っているが、授業外の学習時間に課題がある。そこで、各授業ごとにインターネットなどを利用した課題を作成し実施することで、改善していきたい。

５．今後の目標

・短期的

情報が常に更新されていく分野であるので、スライドや授業資料などに最新の情報や時事の話題を入れていきたい。

授業時間外での勉強時間を確保するための課題を工夫する。

・長期的目標

自らの研究の成果を授業に取り入れることで、より実践的で学校現場に即した学修をなるようにしたい。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・いくつかの科目についてのシラバス

・各種学生支援の内容

キャリアセンターについて　http://www.naragakuen-u.jp/center/carrier.html

・研修会や学会への参加状況

・いくつかの科目についての授業アンケート等

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	根岸　章

１．教育の責任

1997年に京都大学大学院理学研究科数学専攻博士課程を指導認定退学後、2000年3月まで福井工業高等専門学校の一般科目教室数学担当で講師として在籍、2000年4月から奈良産業大学（現奈良学園大学）に在籍し、現在まで20年余り教育職員として在籍し学生教育に携わっている。この間、経済学部、情報学部、人間教育学部と専門分野の異なる学部に在籍したが、担当した科目は数学や数学に関連した分野の科目と、1年次から4年次までの各学年のゼミナール科目が主である。

現在は人間教育学部人間教育学科の数学専修で専修長を務め、数学の中でも解析学分野、確率統計分野の専門科目と1年次から4年次までのゼミナール科目を担当している。他の教員と連携し、1年から4年まで教員採用試験の合格を目指した教育と、就職後にも役立つような知識・研究態度を身に付ける教育を行っている。

2021年度担当科目

奈良学園大学人間教育学部専門科目

基礎ゼミナールI、人間教育学ゼミナールI（基礎）、人間教育学ゼミナールII（応用）、解析学基礎、解析学A（テーラー展開）、確率・統計基礎、解析学B（複素関数）、確率・統計応用、解析学I（ルベーグ積分）、解析学II（関数解析）、応用数学III（微分方程式）

同志社大学（非常勤）

数学入門、教科科教育法B（数学）、線形代数、数学2

２．教育の理念・目的

数学教育において重要なのは、数学の専門知識そのものより、抽象的な概念を理解し、それをもとにいろいろな問題を考え・表現することにあると思っている。中学・高校の数学で現れる多くの公式・定理にしても、それを暗記し問題に適用して解くことより、その公式・定理の表す内容の理解や、公式・定理間の関係を知ることの方がより重要である。その理解をもとに、問題を数式化・グラフ化等の表現で表したり、解答の論理的な展開を数式等を用いて表現するのである。

このような理念のもと、定理・公式のより深い理解を目的とした教育を行っている。

３．教育の方法

教育の方法としては、表現力を養うため、ICTの活用を重視している。

1) 授業で関数のグラフや表を表示するとき、Grapes等を活用している。また、その際にGrapesの簡単な使い方に触れるなどし、学生も活用していけるように配慮している。

2) 課題をネットで配信する際、Wordで数式機能を用いて作成したファイルを配布している。これによって、学生自身もコンピュータを用いてプリントを作成するように促している。

3) 対面授業の際には、その時間に取り組む問題を全て載せたプリントを配布し、終了時に提出させるようにしている。これによって、授業中の学生の取り組み方や理解度を確認している。

4) 「解析学基礎」において、各自10問以上の作問を義務付けている。これは、単に問題を作るだけではなく模範解答や備考、解説も自分たちで書かせ、それによってその問題に関連した数学内容の深い理解を促すようにしている。

授業時間外での学生との関り方としては、研究室での対応の他、メール、SNS等のネットでの対応も行っている。

学内におけるFD/SDの研修会については、ほぼ欠かさず出席してる。また、会員ではないが、数学教育学会の例会に毎年１，2回参加している。

４．教育の成果

Grapesの活用については、教育実習時に活用できたとの学生からの報告を受けている。また、オンライン授業時であるが、課題の解答をwordで作成して提出してくる学生も数名だがみられるようになった。「解析学基礎」の作問については、数名の例外を除き10問以上作成できるようになってきている。

2021年度前期担当科目である「確率・統計基礎」「解析学A」「確率・統計応用」の3科目についての授業アンケート結果は、平均はどの科目のどの項目も概ね4以上になっているが、一部の例外を除き、全体平均より低くなっている。

５．今後の目標

個人的な目標としては、授業アンケートの数値、特に満足度が全体平均を超えることを目標に授業改善を行っていく。

専修の目標としては、専修内での中学校・高等学校の教員志望を5割以上、小学校教員志望を合わせて7割以上となることを目標に教育を行い、その中で公立学校の教員採用試験合格が実数として2桁以上となるように学生の努力を促していく。

長期の目標として、本学出身の中学校・高等学校からの数学教員志望が増加し、本学に入学してくるような連携を行っていきたい。

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

2021確率統計基礎シラバス

2021解析学Aシラバス

2021確率統計応用シラバス

2021確率統計基礎アンケート結果

2021解析学Aアンケート結果

2021確率統計応用アンケート結果

講義科目名称： 確率・統計基礎　　授業コード： 12108

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
根岸　章			
月・2			
添付ファイル			
2021年度版「育成したい学生像」能力指標一覧.pdf			

授業の目標・概要	最近の中等教育において、「資料のまとめと活用」という項目は非常に重要視されている。この科目では、確率・統計の基礎的な概念を習得することを目的とする。こうした知識を身につけることで、資料のまとめ方や活用方法について、身近な問題として考え実践できる能力を身に付ける。
学習の到達目標	資料を整理するための表やグラフの描き方、見方を習得する。表計算ソフトを用いて表やグラフを作成する。データの特徴を表わす様々な特性値を知り、状況に合わせて使えるようになる。現代的な確率の諸概念である確率分布やその平均と分散を知る。
授業方法・形式	主として、講義形式で授業を行うが、授業中の課題（小テスト）や学生への問いかけによって理解度の確認をしつつ、授業への集中を促す。毎回課題レポートを課す。
授業計画	第1回　度数分布表 第2回　代表値 第3回　散布度 第4回　相関係数 第5回　回帰直線 第6回　中間まとめ 第7回　確率の公理とその性質 第8回　確率変数と確率分布 第9回　確率分布の期待値 第10回　確率分布の分散・標準偏差 第11回　2項分布 第12回　正規分布 第13回　正規分布の応用 第14回　チェビシェフの不等式 第15回　総合復習
成績評価の基準	授業中に行う小テストと課題レポート（宿題）を中心に評価し、授業に対する取組度、理解度をチェックしていく。（40%） 学期末試験において総合的な習熟度を確認する。（60%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
準備学習・復習及び授業時間外の課題	高等学校で学習する集合、確率、統計分野の復習は第1回の講義までにしておく。予習として、次の範囲の教科書を読む。課題レポートは表計算ソフトを用いることも多いので、表計算ソフトの使い方も復習しておく。
履修上のアドバイス及び留意点	数学専修の学生は必ず受講すること。
教材・教科書	『確率統計序論 第三版』道家暎幸他著、東海大学出版部

参考書	特になし

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（課題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他 その他アクティブ・ラーニング内容 授業でのICT活用 □双方向型授業に活用する □自主学習支援に活用する オープンな教材 □担当教員が作成したオープンな教材を、講義または自主学習で活用する □他大学等が提供するオープンな教材を講義で活用する □他大学等が提供するオープンな教材を自主学習で活用する 担当教員の実務経験 □ある 実務経験の内容

講義科目名称：　解析学Ａ（テーラー展開）　　授業コード：21106

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
根岸　章			
火・1			
添付ファイル			
2021年度版「育成したい学生像」能力指標一覧.pdf			

授業の目標・概要	高等学校の数学では曖昧であった極限と連続性を学びなおし、微分を改めて定義する。その過程を通じて論理的思考力を身につけ、厳密な定式化の重要性を理解する。 後半では、微分法の基礎となる諸概念・諸定理の意味を理解し、かつ初等関数に対してテーラー展開ができるようになることである。
学習の到達目標	高校時代までに習った数，関数の概念を見直し，厳密なとらえ方ができる。具体的な初等関数の性質について理解できる。初等関数のテーラー展開が計算できる。
授業方法・形式	主として、講義形式で授業を行うが、授業中の課題（小テスト）や学生への問いかけによって理解度の確認をしつつ、授業への集中を促す。毎回課題レポートを課す。
授業計画	第1回　実数とその性質 第2回　2項定理とその応用 第3回　数列と級数 第4回　関数の極限と連続性 第5回　関数の極限の性質 第6回　関数の微分とその性質 第7回　中間まとめ 第8回　高次導関数 第9回　微分法の平均値の定理 第10回　テーラーの定理 第11回　テーラー展開 第12回　積分の平均値の定理 第13回　微積分額の基本定理 第14回　曲線の長さ 第15回　線積分
成績評価の基準	授業中に行う小テストと課題レポート（宿題）を中心に評価し、授業に対する取組度、理解度をチェックしていく。（40%） 学期末試験において総合的な習熟度を確認する。（60%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
準備学習・復習及び授業時間外の課題	解析学基礎で学習した微分積分についての内容は良く復習し理解しておく。予習として、次の範囲の教科書を読む。課題レポートは必ず全問自分で解く。
履修上のアドバイス及び留意点	数学専修の学生は必ず受講すること。
教材・教科書	『微分積分概論[新訂版]』高橋泰嗣他著、サイエンス社

参考書	特になし

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（課題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他 その他アクティブ・ラーニング内容 授業でのICT活用 □双方向型授業に活用する □自主学習支援に活用する オープンな教材 □担当教員が作成したオープンな教材を、講義または自主学習で活用する □他大学等が提供するオープンな教材を講義で活用する □他大学等が提供するオープンな教材を自主学習で活用する 担当教員の実務経験 □ある 実務経験の内容

講義科目名称：　確率・統計応用　　授業コード：42107

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
根岸　章			
添付ファイル			
2021年度版「育成したい学生像」能力指標一覧.pdf			

授業の目標・概要	「確率・統計基礎」で学んだ諸概念の応用として、標本の考え方を知る。また、標本の利用として推定・検定によって、母集団の特徴を捉えるという方法について学習し、理解する。さまざまな学問分野におけるデータ処理の実践を行う。
学習の到達目標	統計学における「推定」という概念について理解する。統計学における「検定」という概念について理解する。
授業方法・形式	主として、講義形式で授業を行うが、授業中の課題（小テスト）や学生への問いかけによって理解度の確認をしつつ、授業への集中を促す。教科書の単元ごとに課題レポートを課す。
授業計画	第1回　標本分布とその統計量 第2回　標本平均の分布 第3回　いろいろな標本分布 第4回　推定量 第5回　点推定　その１（平均） 第6回　点推定　その２（分散） 第7回　仮説検定 第8回　母平均の区間推定 第9回　母比率の区間推定 第10回　母分散の区間推定 第11回　正規母集団の母平均の検定 第12回　母分散の仮説検定 第13回　２正規母集団の等平均・等分散の検定 第14回　適合度の検定 第15回　分割表の検定
成績評価の基準	授業中に行う小テストと課題レポート（宿題）を中心に評価し、授業に対する取組度、理解度をチェックしていく。（40%） 学期末試験において総合的な習熟度を確認する。（60%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
準備学習・復習及び授業時間外の課題	確率・統計基礎の復習は各自で済ませておく。予習として、教科書のその時間の該当ページを読み、例題に挑戦する。復習として、その時間で解かなかった練習問題および単元ごとの総合練習を自分で解く。
履修上のアドバイス及び留意点	数学専修の学生は必ず受講すること。それ以外の学生でもやる気がある者は歓迎する。
教材・教科書	『確率統計序論 第三版』道家暎幸他著、東海大学出版部
参考書	特になし

授業の特徴	授業で実践するアクティブ・ラーニング □PBL（課題解決型学習） □反転授業（知識習得を教室外、知識確認等を教室で行う授業） □ディスカッション、ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □その他 その他アクティブ・ラーニング内容 授業でのICT活用 □双方向型授業に活用する □自主学習支援に活用する オープンな教材 □担当教員が作成したオープンな教材を、講義または自主学習で活用する □他大学等が提供するオープンな教材を講義で活用する □他大学等が提供するオープンな教材を自主学習で活用する 担当教員の実務経験 □ある 実務経験の内容

2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

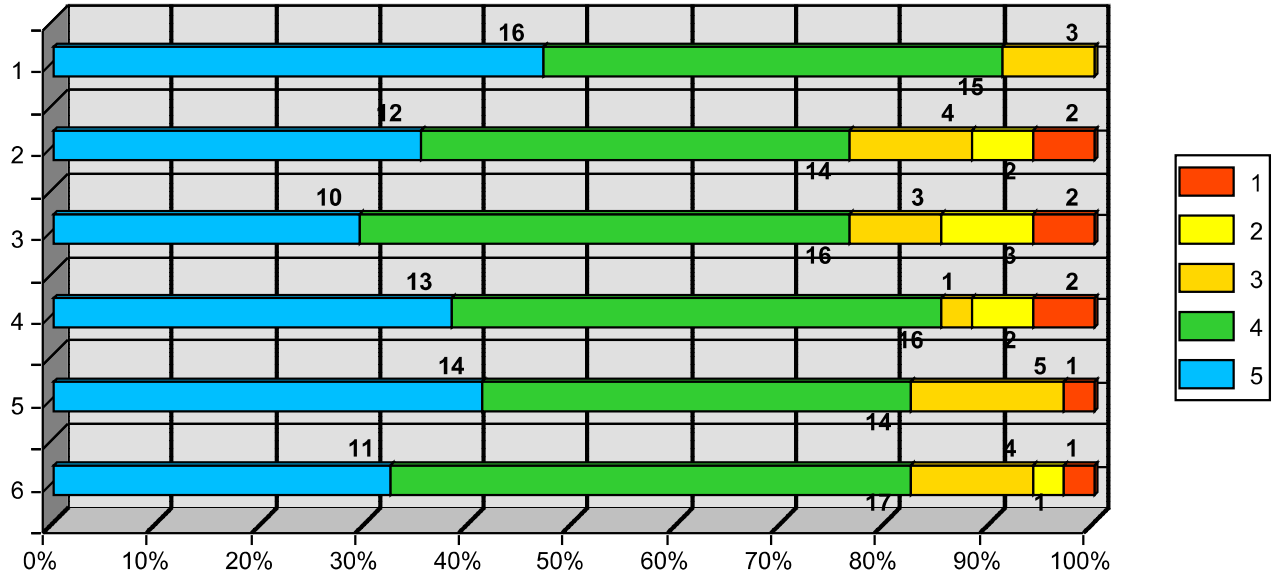
開講年度　　2021年度　　月曜日2時限　　根岸　章

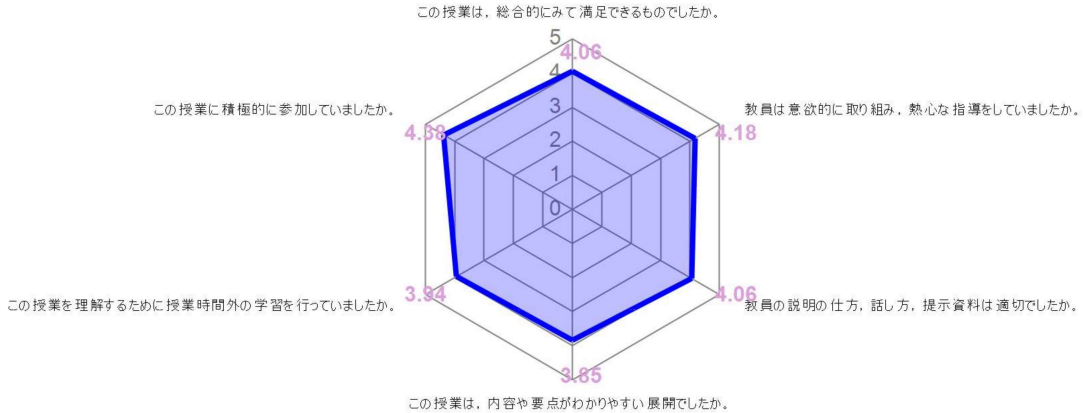
確率・統計基礎

アンケート総数　　34 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	16	15	3	0	0	4.38
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	12	14	4	2	2	3.94
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	10	16	3	3	2	3.85
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	13	16	1	2	2	4.06
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	14	14	5	0	1	4.18
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	11	17	4	1	1	4.06





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

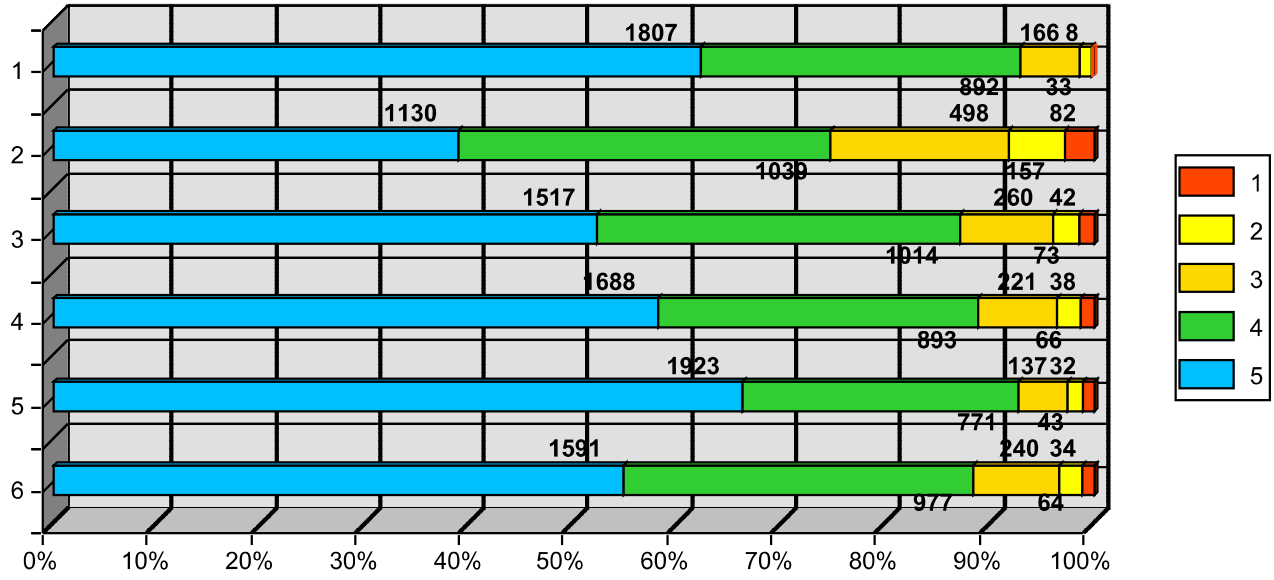
開講年度　　2021年度

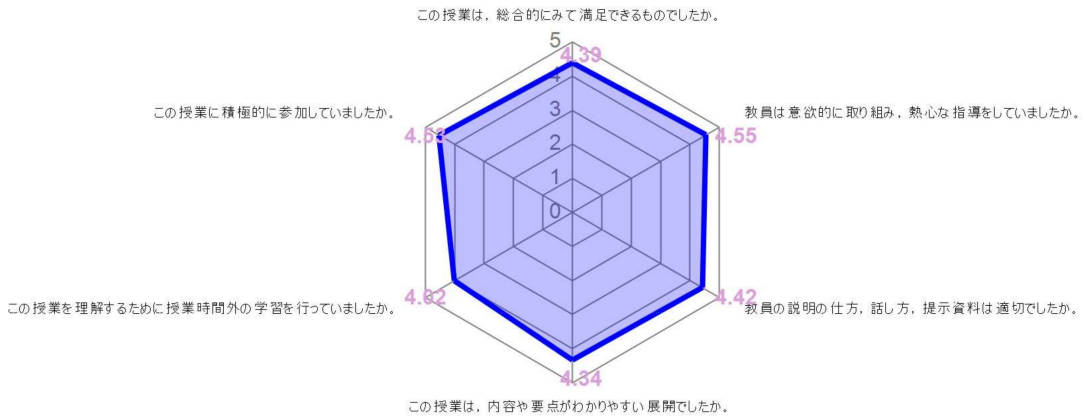
全体結果

アンケート総数　　2906 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	1807	892	166	33	8	4.53
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	1130	1039	498	157	82	4.02
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	1517	1014	260	73	42	4.34
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	1688	893	221	66	38	4.42
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	1923	771	137	43	32	4.55
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	1591	977	240	64	34	4.39





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

開講年度　　2021年度　　火曜日1時限　　根岸　章

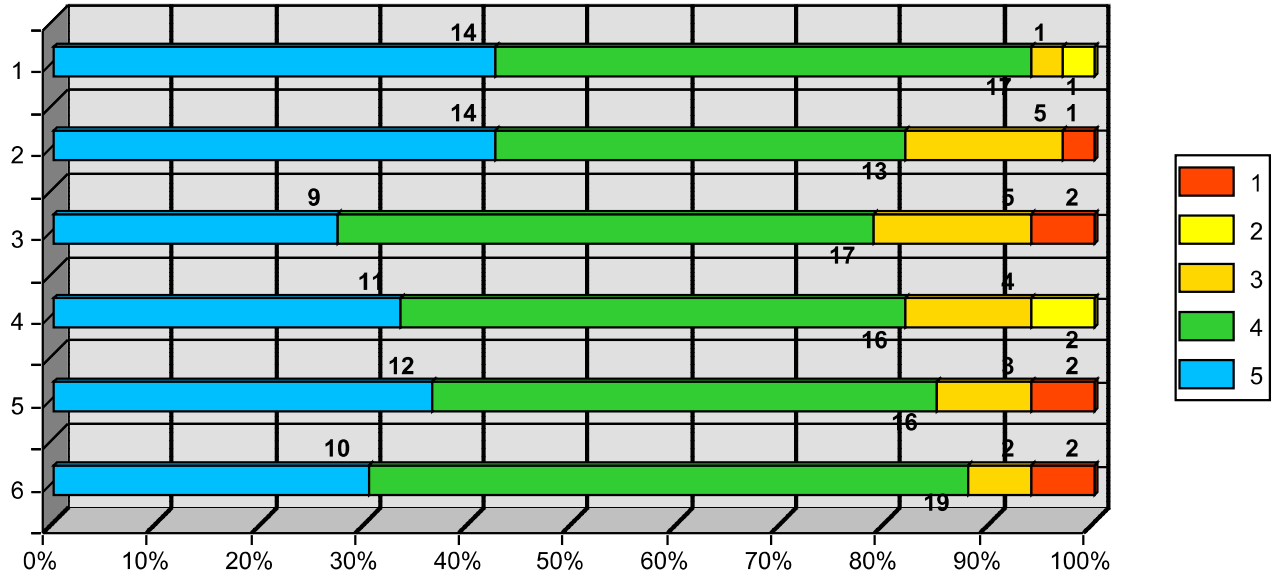
解析学A（テーラー展開）

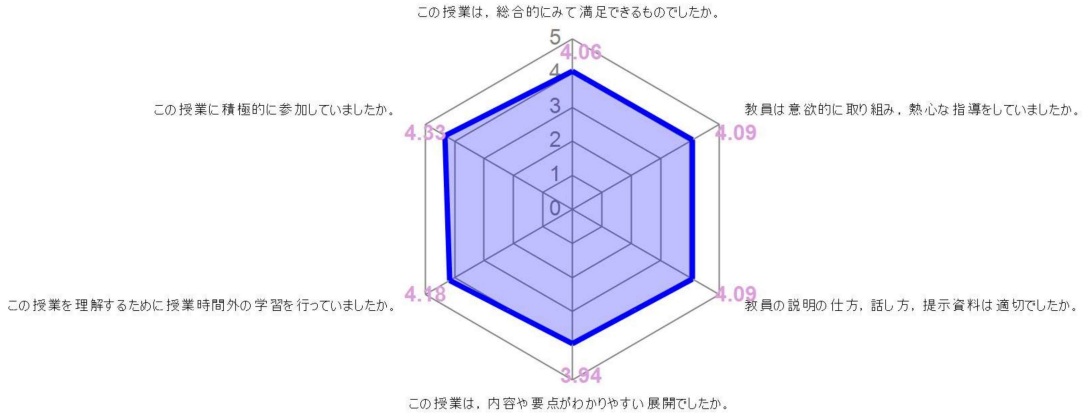
アンケート総数　　33 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

1．この授業に積極的に参加していましたか。
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。

評価	5	4	3	2	1	平均
集計	14	17	1	1	0	4.33
集計	14	13	5	0	1	4.18
集計	9	17	5	0	2	3.94
集計	11	16	4	2	0	4.09
集計	12	16	3	0	2	4.09
集計	10	19	2	0	2	4.06





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

開講年度　　2021年度

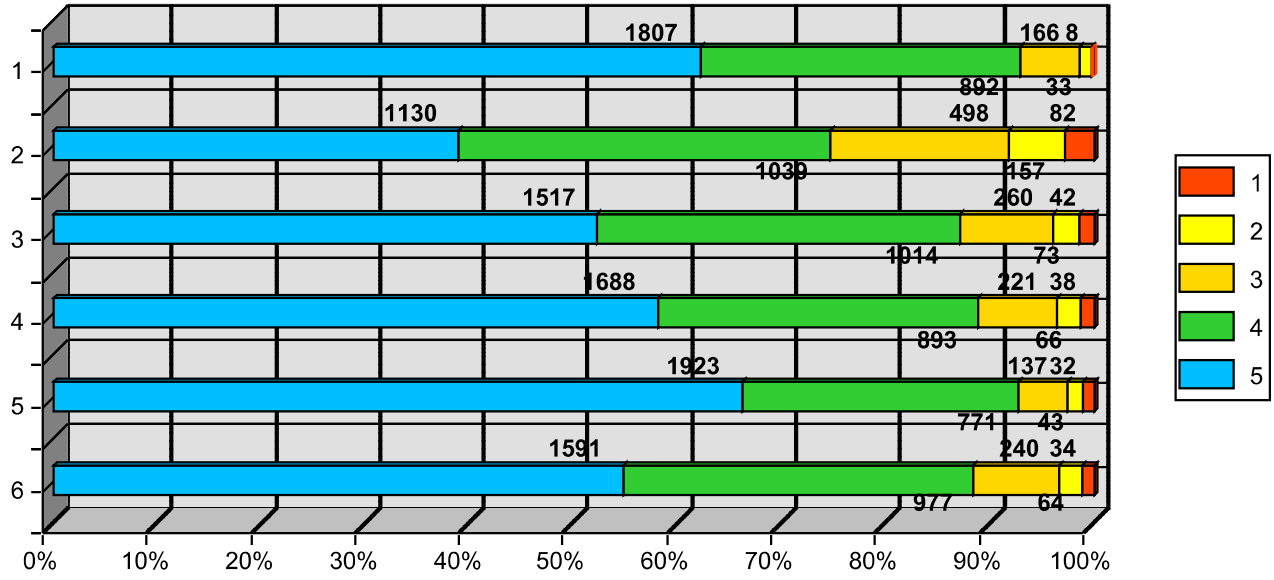
全体結果

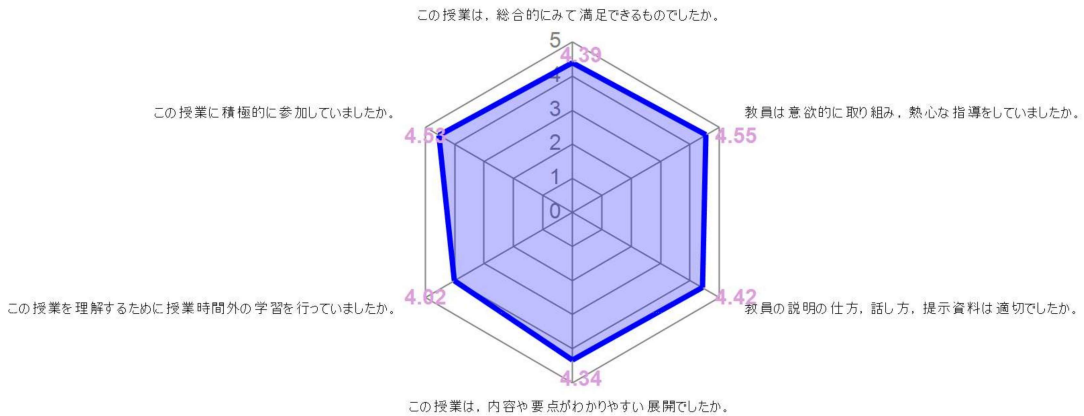
アンケート総数　　2906 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

1．この授業に積極的に参加していましたか。
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。

評価	5	4	3	2	1	平均
集計	1807	892	166	33	8	4.53
集計	1130	1039	498	157	82	4.02
集計	1517	1014	260	73	42	4.34
集計	1688	893	221	66	38	4.42
集計	1923	771	137	43	32	4.55
集計	1591	977	240	64	34	4.39





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

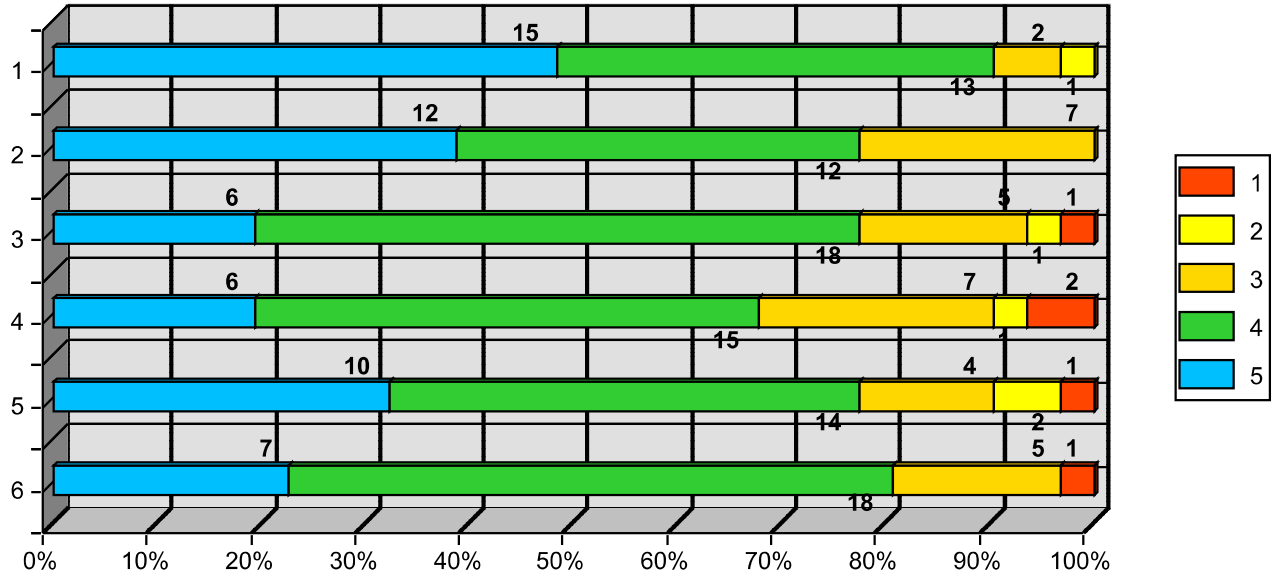
開講年度　　2021年度　　木曜日2時限　　根岸　章

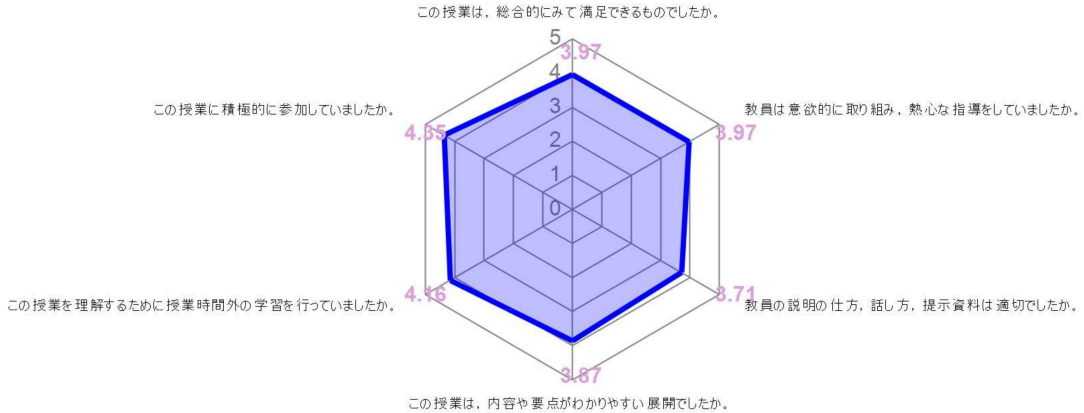
確率・統計応用

アンケート総数　　31 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	15	13	2	1	0	4.35
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	12	12	7	0	0	4.16
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	6	18	5	1	1	3.87
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	6	15	7	1	2	3.71
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	10	14	4	2	1	3.97
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	7	18	5	0	1	3.97





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

開講年度　　2021年度

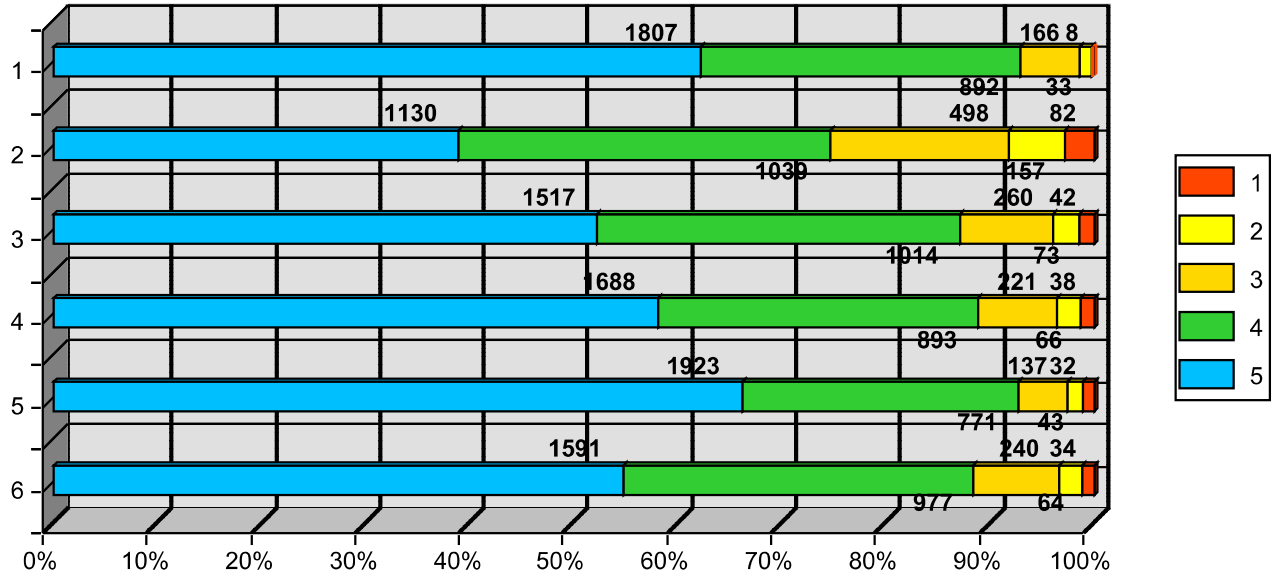
全体結果

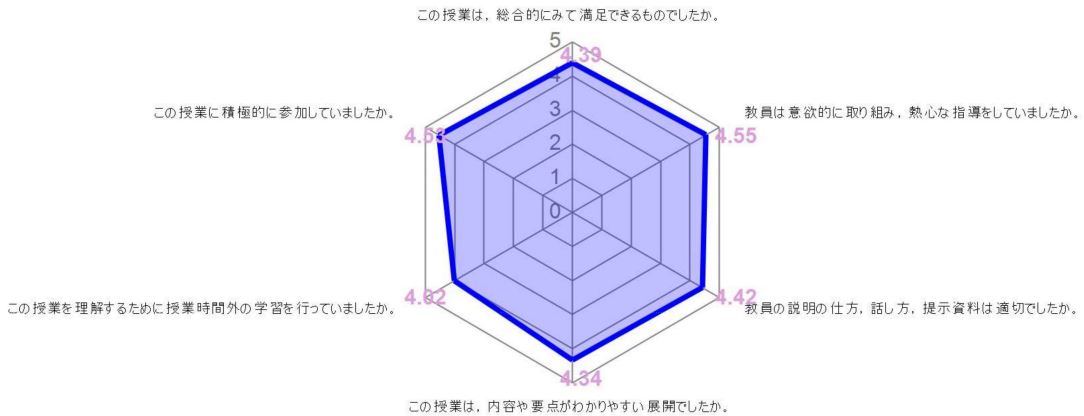
アンケート総数　　2906 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

1．この授業に積極的に参加していましたか。
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。

評価	5	4	3	2	1	平均
集計	1807	892	166	33	8	4.53
集計	1130	1039	498	157	82	4.02
集計	1517	1014	260	73	42	4.34
集計	1688	893	221	66	38	4.42
集計	1923	771	137	43	32	4.55
集計	1591	977	240	64	34	4.39





ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	松井　典夫

１．教育の責任

担当授業科目

教育課程論A（初等）／教育課程論B（中等）／子どもと表現（図工）／図工科指導法／子どもと表現の指導法／現代教育課題C（学校と安全）／特別活動及び総合的な学習の時間の指導法A／教育実習事前事後指導（幼小）／教育実習（小）

○教職実践演習

各種学生支援

・硬式野球部部長として、野球部学生のケア、指導を行っている。また、新規入部（入学希望者）の面談を全員実施している。

・3回生、4回生のゼミにおいて、教員採用試験対策を実施し、採用試験への合格へと進めている。

・カンボジア短期研修において、3つのプログラム（授業体験プログラム・炊き出しプログラム・命のディスカッションプログラム）を考案、実践している。

２．教育の理念・目的

○自らの教育理念と目的

「よき社会人」として、グルーバル・パースペクティブを持った教員を育成する。「教師であり続ける」力を育成する。

価値観･信念

教育はもっともイノベーションが起こりにくい。これは、「古き良き」価値から動かないからである。その視点に立ち、これからの時代を担う学生を育て、これからの時代の教育を見つめ、これからの時代の教師を育てていく。

３．教育の方法

○学生との接し方

学生は「ひとりの大人」である。学生を大人として尊重し、自主性を重んじて接していく。

授業の工夫（授業の方法，内容等）

「つまらない授業はしない」

○そのためには、理解を促進するプレゼンテーションを作成して授業を進めるとともに、専門的な知識、技能を持って学生の関心を喚起する。また、アクティブ・ラーニングを意識し、深く思考する場面を設定する。

FD/SD活動等にかかわる内外の研修会への参加

FD/SDに関する情報は積極的に収集している。

常に多くの文献、論文、先行研究に触れ、常に自身の研究を深め、広げていく。

４．教育の成果

○達成できたこと，できなかったこと（達成レベル）

概ね達成できている。

授業アンケートの結果

高い評価を得ている。

５．今後の目標

○短期的目標

2021年度前期の結果を受け、とくに授業前の予習の必要性を持った授業内容を構成していく。

長期的目標

当該教科における最新の動向も盛り込みながら，授業内容のより一層の充実を図っていく。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

○いくつかの科目についてのシラバス

本学Webサイトに公開されているシラバス、授業評価アンケートを参照。

○各種学生支援の内容

Active Academyに登録されている指導記録を参照。

○研修会や学会への参加状況

日本安全教育学会においては、2022年度の年次学会長を拝命している。

いくつかの科目についての授業アンケート等

本学Webサイトに公開されている授業評価アンケートを参照。

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	森　一弘

１．教育の責任

担当授業科目
・体育科指導法（２単位　3年配当　選択）　・体育実技の指導法（２単位　3年配当　選択）　・特別活動及び総合的な学習の時間の指導法A（初等）、B（中等）（２単位　3年配当　選択）　・特別活動の指導法A（初等）、B（中等）（２単位　2年配当　選択）　・人間教育実践力開発演習Ⅳ（２単位　4年配当　選択）　・人間教育学ゼミナールⅡ（4単位　4年配当　必修）　・卒業研究（4単位　4年配当　選択）
以上の科目を担当している。受講学生の中に将来、小学校・中学校の教員になりたいという希望を抱いている。私の専門である、小学校体育、総合的な学習の時間、特別活動などの指導法を中心に、科目の目的、指導内容、評価方法等を学び、子どもたちに、主体的に取り組んでいくことの意義を教えて欲しいと願っている。
特に体育科指導法・体育実技の指導法に関しては、責任を自覚し、体育科教育の本質を学生に伝えている。

２．教育の理念・目的

私の教育理念・目的を学部のディプロマポリシーに則り、次のような学生を育成したいと考えている。
教育理念として、体育科教育を主として考えると教師にとって必要な資質は、教科の指導力（内容・方法）、社会性の指導力、子どもへの情熱・愛情などである。これらの資質を、実務家教員として現場からの具体的取り組みを通して指導し、将来「子どものための学校づくり」を実践できる教育者を育てたい。
具体的な目的となるものは、次の７点である。
①広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟している
②教職に対する使命感をもち、児童生徒に教育的な愛を持って接することができる
③学校現場の様々な教育課題に適切に対応し、チームとして行動することができる
④子どもの発達に応じて授業を構想し指導を工夫する教育の専門家である
⑤自己の学習を振り返り、理論と実践を結びつけた研修を継続的にできる
⑥保護者や地域の人等、学校外の人等と広く連携する力を身につけている
⑦日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につけている

３．教育の方法

①広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟している学生の育成のために
授業内で対立する教育の概念、考え方とそれに関連する事例を提示して、学生がディスカッションし易いテーマを授業内容に選定する。

②教職に対する使命感をもち、児童生徒に教育的な愛を持って接することができる学生の育成のために
④子どもの発達に応じて授業を構想し指導を工夫する教育の専門家である学生の育成のために
指導計画を立てる時に、「できない子」「わからない子」に視点を当てさせ、具体的な声かけ、指導の方法を検討させる。また模擬授業終了後の検討会においても、評価Cへの子どもへの指導者としての言葉がけ、立ち居振る舞いを検討させる。そのことによって学生が自ら考え行動する姿勢を身につけさせる。

③学校現場の様々な教育課題に適切に対応し、チームとして行動することができる学生の育成のために
⑤自己の学習を振り返り、理論と実践を結びつけた研修を継続的にできる学生の育成のために
模擬授業を検討するチームを作り、学生間で対話的活動を取り入れディスカッションをしながら指導案を作成させる。また、模擬授業終了後リフレクションシートを全員に書かせ、交流する場面を取り入れていく。このことにより、仲間と課題を共有し、その課題を解決していこうとする姿勢を身につけさせる。

⑥保護者や地域の人等、学校外の人等と広く連携する力を身につけている学生の育成のために
実務課教員として、実際にあった保護者・地域の人々との活動や問題となった点を教材化し、学生に考えさせる。また、考え体験や具体的な取り組みを交流させ、他者のかなげを受け止めさせるような取り組みを行う。

⑦日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につけている学生の育成のために
運動会の歴史、徒手体操の歴史、学習指導要領の変遷などを教材として扱い、日本の体育教育の歴史を知らせることにしている。また、新スポーツ、新しい種目の紹介や実際に体験させ、多様性をテーマにした教材も用意していくことにしている。

４．教育の成果

体育科指導法学生アンケート結果	クラス	月曜１限	月曜３限	火曜３限
１．この授業に積極的に参加していましたか。		4.72	4.63	4.73
２．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。りやすい展開でしたか。		4.06	3.85	4.47
３．この授業は，内容や要点がわか利安い展開でしたか。		4.28	4.11	4.57
４．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。		4.44	4.26	4.53
５．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。		4.72	4.44	4.73
６．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。		4.61	4.33	4.67

2021年度前期　奈良学園大学FD・SD委員会実施の「学生による授業評価アンケート」の結果を左記に示しておく。アンケート対象科目が体育科指導のみであったことを断っておく。
対面授業から、遠隔授業に切り替わり体育という実技を伴う授業であったため、技能面の指導の仕方、水泳指導の具体に触れることができず、遠隔授業の限界を感じているところである。学生の評価からクラスによって評価点数にばらつきがあり、各クラスの構成員である学生一人ひとりに対応し、合理的な配慮をもっと手厚くしていくことが必要であると考えている。

５．今後の目標

・教員への志願者数を定員の６割以上にしていく。
・教員志願者の６割が教員採用試験に合格していく取り組みを行う。
入学定員を満たすためには、上記のように、教員採用試験に実数で40名程度が合格するような取り組みや、日々の授業において「教員になる意欲」を高めれれるような授業・実習・演習での指導を行いたい。また、教員採用試験合格の為の支援はもとより、教員以外の就職希望の学生に対してもキャリアセンターと連携して適切な指導助言を行っていく。

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・学生評価アンケート
・シラバス（公開）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	吉田　明史

１．教育の責任

本年度担当する授業は，以下の通りである。
・前期：数学の世界（２講座），数学入門，数学科教育法Ⅱ
・後期：数学科教育法Ⅰ，数学科教育法Ⅲ，教職実践演習，卒業研究
・通年：基礎ゼミナールⅡ，教育実習事前事後指導，人間教育学ゼミナールⅠ，人間教育学ゼミナールⅡ，教育実習

２．教育の理念・目的

私の教育の理念は，「自らがもつ資質・能力を最大限に生かし，学生の成長に向けて真摯に取り組むこと」である。そのためには，教育と研究の適切な両立を図り，研究で得た知見等を教育に生かせるようにすることが大切であると考えている。
もともと，中等教育における「わかる授業の創造」や保育者に必要な数学などを研究テーマにしてきたが，本学に赴任してからは学生のニーズを踏まえ，学生の成長を願って授業の改善・工夫に焦点化することが極めて大切であると考え，それを私の教育目的としている。

３．教育の方法

各授業では，ソフト「imakiku」を活用して毎回200字程度のリフレクションをスマホ入力させ，それをエクセルでまとめている。期末の評価にあっては，リフレクションの内容･記述量などを踏まえ，適切に評価している。また，対面授業で対応する時間が不足する場合にはオンデマンド型の教材を作成し，YouTubeで限定公開（公開期限も設定）している。
また，学生への連絡，提供する資料，課題，小テストについては，Google classroomを活用するほか，大学外に私個人の教材用WEBサイトを構築し，学生がIDとパスワードでWEB頁の資料の閲覧やダウンロードを可能にしている。
自らの専門分野の成長にかかわっては，日本数学教育学会や全国数学教育学会に必ず参加し最新の研究について情報を得るようにしている。また，FD/SD活動にかかわって，ICTを活用した授業の工夫などの研修･研究会・講習会にも積極的に参加し，自分の実践に生かせるようにしている。

４．教育の成果

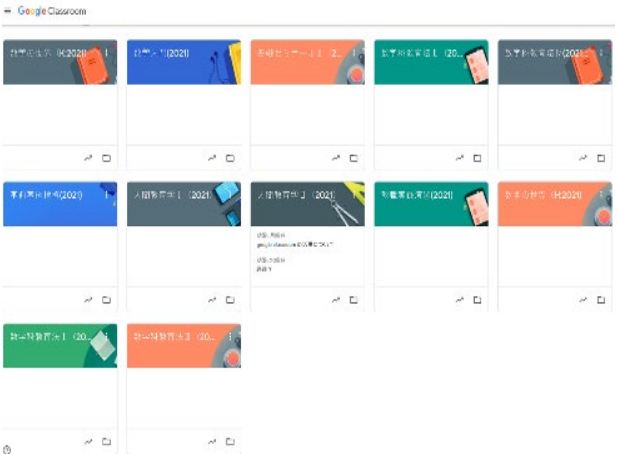
評価に当たっては，リフレクションを分析することによって日頃の学生の学修への取組が適切に把握できた。授業の工夫については，授業アンケートから見る限り，授業の進度や資料の提示について，まだまだ十分ではない部分があると認識しており，必要な改善を加えていきたい。
学外から得られた教育･研究情報については価値あるものを得られたと考えている。

５．今後の目標

学生の成長を一層図るために，授業の改善・工夫が重要であると考えている。本年度ですべての科目の設計を終えることになるが，次年度に向けてシラバスを見直すなど必要な改善を図っていきたい。
長期的には，オンデマンド型の学修が可能になるよう学びのポイントとなる部分で「10分未満のビデオ」を作成し，授業内容の復習が容易にできるようにしたい。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・シラバスは本学HPを参照
・本年度のGoogle classroom（右図）
・授業で活用するビデオの一部
https://youtu.be/fTfCHiNsf18（限定公開としています）



ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	安東　雅訓

１．教育の責任

担当授業科目

代数学基礎, 代数学A, 代数学B, 代数学I, 代数学II, 応用代数学, 基礎ゼミナールII, 人間教育ゼミナールI, 人間教育ゼミナールII, 教職表現力演習

各種学生支援

数学道場（2年）, 教採専門試験対策（ゼミ生）, 数学検定団体受験の実施（年2回程度）

２．教育の理念・目的

数学の点数を取るためには, 問題の解き方を覚える方法が簡単です. 定義や定理の意味は分からなくても, 使い方を分かっていれば良く, 理解するとは定理の使い方が分かることを指すのだと思っている学生もいるでしょう.

しかし, 教える立場となるためには, 解き方を教えられる, では足りず, 「なぜ正しいのか」, 「なぜ間違っているのか」の疑問に答えられる必要があり, 数学におけるその答えは最終的には定義であり, 論理です. 定義に戻れる, 定義を読める学生を育てることを目的としています.

３．教育の方法

数学において, 本当に定義を理解しているかについて, 外から判断することは難しいです. 理解していないことを本人や私が知るための方法として, 授業の中での演習発表とその解説・質疑応答, 例を作成させる演習問題があります. 教科書の一文や模範解答に対して, 演習発表等で自分で解説し, 質問されることで初めて「そこが疑問に思うべき部分である」ことに気付けるという場合が多くあります.

また, 3,4年のゼミや個別で質問に来た学生に対しては, 「なぜ？」の部分の答えは, 誘導はするものの, できるだけ学生に出させるような対応を心掛けています.

４．教育の成果

定期的に質問に来る学生に関しては, 言われなくても定義に戻るという習慣が身についてきた様に感じています.

５．今後の目標

演習問題の質疑応答に関しては, 本来はこちらが厳しい質問をしたい所ですが, 逆にフォローに回らなければならない現状があり, 今後いかにシフトしてくかが課題です. 例を作成させる演習問題については, 人によって解答が異なるため, 確認が面倒ではあるのですが, 今後も続けていくつもりです. ただし, 自分で例を考えるのではなく, ネット等で探してしまう学生も多いため, その点の対策は課題です.

- **必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）**

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	岩本　健一

１．教育の責任

・現在担当している授業科目は、社会福祉　社会的養護Ⅰ　社会的養護Ⅱ　子ども家庭福祉　施設実習Ⅰ　施設実習指導Ⅰ　子どもと人間関係　保育実践演習　基礎ゼミナールⅡ　人間教育学ゼミナールⅡである。
・広報委員である。

２．教育の理念・目的

・もともとは、神戸市役所ならびに滋賀県庁の福祉職の行政職員である。自分自身が、大学の福祉実習をきっかけに施設職員を目指すことになったので、実習が学生と現場の橋渡しになるとの確信を持っており、学生がイメージしやすい実習指導を展開することによって、学生の実習に対する不安を取り除き、意欲を持って実習に臨むことができるよう支援することを理念としている。
・さらに、保育士は福祉職であるので、子どもと接する技術を身に着けるとともに、子どもを取り巻く状況についての理解を深める必要がある。少子化といわれる現代社会の根底にある人々の意識を理解し、子育て家庭のニーズを把握することによってこそ、より良い支援を行う保育士になり得ると信じている。

３．教育の方法

・家庭に恵まれない子どもを支援する、社会的養護の現場は、生活の場であるので、子どもから何でも話してもらえる職員でなければならない。したがって、自分自身も学生から何でも話してもらえる教員を目指し、普段からの対話を心掛けている。
・保育士養成の福祉関連科目は、学年別に系統立ててある。１年生の社会福祉、２年生の社会的養護Ⅰ・Ⅱ、３年生の子ども家庭福祉、施設実習指導を経て、施設実習に至る。より良い支援が行える保育士には、実践力が必要だが、そのためには、確かな知識と技術が必要であるのは言うまでもない。したがって知識教科としての社会福祉、社会的養護Ⅰでは、基礎的な知識を確実に身に着けることから始める。それをベースに、演習教科である社会的養護Ⅱ、さらに学年が上がるにつれて、ケースに応じた対応を検討するといった授業に展開していく。
・学生との対話によって、それぞれの学生の個性を把握することに努め、それを参考に実習施設の配属につなげている。実習施設にもそれぞれ個性があるので、施設の個性に合った学生のマッチングを心掛け、どの学生も自分の個性を発揮した実習ができるように配慮している。
・大阪府社会福祉協議会主催の施設と養成校の連絡会には毎年必ず参加している。施設の職員との交流を深め、施設の現状を把握するとともに、実習先と就職先の開拓に努めている。

４．教育の成果

・保育士・幼稚園教諭を目指す学生は、本当に幼児が好きという学生とともに、望む職業が描けずに「とりあえず」志望する学生も一定数いる。そういった学生に、違った方向性を指し示すことができてきていると感じている。児童養護施設や乳児院などに就職する学生が増えてきており、また、就職せずとも施設に対する理解を持ってくれる学生が多くなったと感じている。（達成レベルは5段階の4）
・問題は、幼稚園専修というネーミングから、入学する学生に福祉や社会的養護に対するレディネス（心の準備）が低いため、もう少し平易な授業の展開を行う必要があると痛感している。

５．今後の目標

・短期的には、施設への興味を具体化させる「ボランティア」をルール化し、希望する学生をつなげていけるようにしたい。
・長期的には、チャイルドケアサポーターの資格と相まって、福祉的センスを身に着けた学生を多く実践現場に送り出せるようにしたい。ここでいう「福祉的センス」とは、教えるという上からの目線ではなく、子どもの声を聴くという横から目線での子どもへのかかわりのことを言う。

- **必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）**

講義科目名称 ：施設実習指導Ⅰ英文科目名称 ： 授業コード ：34110
開講期間 配当年 単位数 科目必選区分
後期３１　　選択
担当教員
岩本　健一
水・４
添付ファイル
* 2021年度版「育成したい学生像」能力指標一覧.pdf

授業の目標・概要
施設実習の目的や意義を理解し、施設のおける保育士の役割を学ぶとともに、施設における子どもの人権や最善の利益に対する配慮について理解を深める。入所者や家族のプライバシーの保護や守秘義務を理解し、専門職者としての態度について学ぶ。事前指導では積極的に実習に取り組む姿勢を養い、事後指導では実習中に学んだことを踏まえ、改めて自らの課題を明確にする。

学習の到達目標
1　児童福祉施設の意義・目的が理解できる。
2　福祉施設実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。
3　実習施設における利用児・者の権利擁護について理解できる。
4　事後指導を通して、新たな課題や学習目標を明らかにすることができる。
授業方法・形式
施設実習に参加するための準備教育である。実務経験を活かし具体的事例を紹介しながら、主に講義形式で授業を展開する。実習前の予備知識習得や実習後の振り返りでは「グループワーク」「プレゼンテーション」を取り入れる。

授業計画
第1回施設実習の基本姿勢を学ぶ
第2回施設実習の意味や学びを確認する
第3回施設における保育士について理解する
第4回自己分析と個人票作成・実習における諸手続き
第5回実習日誌の記入方法を学ぶ
第6回実習に臨む姿勢や注意点について学ぶ
第7回入所児童の理解を図る
第8回実習における様々な状況への対応について学ぶ
レポートの作成
第9回実習施設の種別の理解を図る（児童養護施設・乳児院・障害児入所施設等）
第10回実習施設の個別の理解を図る
第11回実習課題を設定する
第12回オリエンテーションの説明
第13回実習の心構えと目標設定を行う
第14回個別面談
第15回施設実習を振り返るレポートを作成する

成績評価の基準
提出物（60%）　授業への参加状況（40%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
準備学習・復習及び授業時間外の課題
毎時間レポートを課す。
履修上のアドバイス及び留意点
実習に準じる教科であるから、くれぐれも欠席はしないこと。
教材・教科書
守巧他「施設実習パーフェクトガイド」わかば社,2014.
参考書
その都度指定する

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	岡野　由美子

１．教育の責任

私は、本学において特別支援教育を担当している。また、実務教員であり小学校教員の経験もあることから、小学校教員養成にかかる各科目を担当している。具体的には、基礎ゼミナール１、現代教育課題A（不登校・いじめ）、教育実習事前事後指導、教育実習１・２、人間教育実践力開発演習Ⅳ、教職表現力演習Ⅱ、人間教育学ゼミナールⅠ・Ⅱ、特別支援教育総論、知的障害者の教育課程論・指導論、特別支援A・Bなどである。
また、学内の学生支援センター相談の相談員として週に1回程度の学生相談も担当している。

２．教育の理念・目的

1)教職を目指す学生の育成を目的とする。様々な教育課題を知り、それに主体的に取り組む実践的な力を育む。
2)すべての教育現場で実施される特別な支援を要する児童生徒への指導、支援についての知識をつけ、その多様性に対応する力をつけさせる。まずは自分自身を理解すること、そして独りよがりにならず、自他の違いを認め、お互いを尊重するということを日々の教育活動全般を通じて学生に伝えていく。
3)学生支援センター学生相談では、発達障害等による生活の困難さについての相談のほか、新型コロナ感染症拡大に伴う遠隔授業などの困難を訴える学生などについても心のケアを行う。
主に上記の３点を重視している。

３．教育の方法

まずは、学生の話を傾聴することが第一である。自立して社会に出る直前であり、最後の教育を受ける機会である学生も多い。自ら考え、自分の個性を知り、様々な課題に自力で向かうことと同時に、周囲の力を借りること、それによってより良い結果が得られるということが、理解できるように、傾聴しながら自己を振り返る中で気づかせていく。
方法が分からなかったり、どのように取り組めば良いのかが具体的に描けなかったりするため、成績が伸びない、力がつかない、等のことがないように、すべての授業において、評価のポイントを示すなど細かな指導、支援に取り組んでいる。
特別な支援を要する幼児児童生徒への対応は、学校現場では喫緊の課題である。その理論や実際の支援についての理解に重点を置き、勤務先で応用できるような実践力の育成に努めている。
学生支援センターの学生相談は、予約制のほか、新型コロナ感染症拡大による遠隔授業、大学校内立ち入り規制などに伴い、対面での実施が難しい期間については、オンラインでも実施することとしている。

４．教育の成果

各授業における提出課題、リフレクションにおいて、ポイントを整理して書くことができるような力をつけてきている。
ゼミ生以外の学生も、自ら、進んで質問をしてきたり研究室を訪ねてくるケースも増え、信頼関係を築くことができていると考えている。2021年度の前期授業評価については学生の総合的な満足度は現代教育課題Aでは4.5、特別支援教育総論でも4.5であった。授業の事前に予習課題を与えるなど、当日の授業に主体的に取り組めるような工夫を行ったが、授業評価では、授業アンケートでは授業時間外での学習を行なっていたかという項目の評価が他の項目に比べ若干低い数値となっている。今後は、事前学習とともに事後の学習についてもどのような取り組みをすればよいかなど具体的な方法や内容についても指導支援を行なっていく。
学生支援センターの教育相談にも定期的に顔を見せる学生もいる。オンラインでの相談を可能としたこと、予約なしでも来室を受け付けることなどをアナウンスし、いつでも相談できる体制を作ることができつつある。

５．今後の目標

今後、専門である特別支援教育に関する授業が順次開講していく予定である。
特別支援教育は、すべての教育機関で実施される大切な教育である。それぞれの障害について、正しく理解し、学ぶことが、将来の教育現場で生きて働く力となることを踏まえ、わかりやすい授業を実施する。また、学生相互に意見を交流したり、自ら調べたりする中で、新たな疑問をもったり、それについて調べたり学んだりすることができるよう、具体的な方法を示すなど、学ぶための方略を身につけることができるような授業を実施したい。
学生支線センターの学生相談については、専門の心理士を配置していくことが検討されている。配置後は専門相談員としての担当は譲るが、学生と相談員の橋渡しや、情報の共有等、連携をとりながら、よりよい相談体制について協議し整備していく必要があると考えている。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・LD学会自主シンポジウム「個別の教育支援計画とIEP」発表
・学生支援センター学生相談　（三郷キャンパス）学生７件、教職員　６件（2020年度）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	岡村　季光

１．教育の責任

・担当授業科目
　発達・教育心理学Ａ（初等）／Ｂ（中等），教育相談の理論と方法Ａ（初等）／Ｂ（中等），子ども家庭支援論，基礎ゼミナールⅡ，
　人間教育学ゼミナールⅡ（応用），保育実践演習，卒業研究

・各種学生支援
　2021年度は幼稚園専修2年次生の担任として，翌年度の実習にかかる手続きなど，諸々の事象に対応している。
　また，4年次生のゼミナール所属学生において，進路にかかる指導等を行っている。

２．教育の理念・目的

・自らの教育理念と目的
　奈良学園大学人間教育学部のアドミッションポリシーである「社会の中で一人の人間」として生き抜く力となる豊かな「人間力」を基盤とする，柔軟な「教育力」と高度な「実践力」を備えた「教育者」（広く社会の教育活動にかかわる人材）の養成
・価値観･信念
　大学生は青年期後期という発達段階にあり，かつ成人を迎える者であるという認識に立ち，学生とかかわる。

３．教育の方法

・学生との接し方
　大学生を大人としてかかわる。また，自主性を重んじるとともに学生として果たすべき責任を遂行することを求める。
・授業の工夫（授業の方法，内容等）
　講義系の科目は必ず毎回の授業の見通しを持ってもらうために，必ずレジュメを作成し，PowerPointを用いてできるだけ例を多用しながら授業を進める。
・FD/SD活動等にかかわる内外の研修会への参加
　FD/SDに関する情報は積極的に収集している。
・自らの専門分野の成長
　常に最新の動向をつかむため，心理学系の学会には毎年必ず参加する。

４．教育の成果

・達成できたこと，できなかったこと（達成レベル）
　前年度における定期試験の正答率を基に，毎年授業内容の見直しを行うが，未だ発展途上にある。
・授業アンケートの結果
　各項目について，おおむね学内における平均値を上回った結果であった。

５．今後の目標

・短期的目標
　2021年度前期の結果を受け，特に授業後の復習について充実を図ることを目指す。
・長期的目標
　当該教科における最新の動向も盛り込みながら，授業内容のより一層の充実を図っていく。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・いくつかの科目についてのシラバス
　本学Webサイトに公開されているシラバスを参照のこと。
・各種学生支援の内容
　Active Academyに登録されている指導記録を参照のこと。
・研修会や学会への参加状況
　毎年複数回研修会や学会に参加を行っているが，2021年度は前年度と同様にWebやZoom等での参加であり，対面での参加はできていない。
・いくつかの科目についての授業アンケート等
　本学Webサイトに公開されている授業評価アンケートを参照のこと。

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	川端　咲子

１．教育の責任

主に、国文学に関連する授業を担当。国文学関連では文学史を中心に授業を行う。教職表現力演習に関しては、学生の基礎学力向上のため特に「読む・書く・発言する」ための取り組みを行う。
・基礎ゼミナール（通年）
・教職表現力演習Ⅰ・Ⅱ（通年）
・日本語教育指導法・教材研究（通年）
・国文学入門（前期）
・国文学Ⅰ（後期）国文学Ⅱ（前期）
・国文学特論（前期）
・文学（前期）
・語学・文学総合演習Ⅱ（後期）

２．教育の理念・目的

幅広い視野を持つ人間として社会に出る学生を育てることが教育目的である。そのためには、大学の４年間で広く深い知識を獲得し、獲得した知識をもとに様々な事象の中から問題点を発見し、自ら探求する力を身につける事が重要であると考えている。近年アクティブラーニングの重要性は教育の場における当然のこととなっている。この点について全く意義はない。ただし、しっかりとした知識のインプットがあってこそのアウトプットであるというのが私の価値観であり信念である。

３．教育の方法

（授業の方法）日本文学は古典文学、近代文学、現代文学と区分される。中学高校の教材として扱われるのは圧倒的に近代・現代文学が多いが、授業で取り扱うのは古典文学を中心としている。理由としては以下のことが挙げられる。①自身の専門が古典文学であること。②近代・現代文学に比べて、古典文学の世界を知るためにはより多くの手助けが必要であること。③文学の歴史という点では古典文学の時代は近代・現代文学の時代を遙かに上回る長い期間であること。④高校までの教育を考えた場合、古典文学の方が未知の世界が広がっていること。
一例として、「文学」の授業においては、中学高校の国語教育でも学んだであろう古典文学の教材（『源氏物語』『伊勢物語』『平家物語』など）をベースとしながら、そこから派生した平安時代から江戸時代に至るまでの文学作品の存在の紹介、一つの作品を契機に新たな作品が誕生していく様とその理由を解説する授業を展開した。できるだけ多くの作品を紹介すること、現代語訳を添えた原文を提示すること、作品の成立環境、作者とその周辺環境などの解説を必ず行うようにした。
（内外の研修会）同志社大学古典教材開発研究センター設立記念研究集会「古典教材開発の課題と可能性」（zoom）参加、日本近世文学会シンポジウム2021「デジタル時代の和本リテラシー　古典文学研究と教育の未来」（zoom）参加
（自らの専門分野の成長）古典文学の中では一番新しい時期にある近世文学を専門とする立場として、文学の伝播と受容について考えることが多かった。

４．教育の成果

多くの作品を紹介することで、自分たちが知っている古典文学がすべてではないことは理解できたと思う。またいくつかの作品に対しては現代の人間の思考と似たことがあることに気づいた学生も少なからずいた（授業後の課題での記述より）。ただし授業アンケートの回答からは、多くのことを伝えようとしすぎて、かえって混乱を招いた点が少なからずあったことが窺われた。また、インプットを重視しすぎたためにアウトプットがほとんどできなかったことは大きな問題点であった。

５．今後の目標

2021年前期の授業を終えて。国文学の授業すべてにおいて、知識の獲得と問題点の発見力・探求力の獲得を両立させる方法を探っていくことが今後の課題である。「人間力」を高めるという学科の学習理念に対して日本文学、特に古典文学をどのように活用していくのかを考えていきたい。また昨今「なぜ古典を学ぶのか」という問いとそれに真摯に答えようとする古典文学研究者の活動が、特に近世文学研究界隈では多く見られる。教員を養成する大学の教員としても、近世文学研究者としても「なぜ古典を学ぶのか」という問いに対して古典を学ぶことの必要性を主張できるような授業を考えていかなければならない。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・2021年度前期授業評価アンケート【人間教育学部　共通教育科目】「文学」
・2021年度前期授業評価アンケート【人間教育学部　専門科目】「国文学特論」
・2021年9月12日(日)同志社大学古典教材開発研究センター「第3回　コテキリの会「古典好きの生徒を増やしたい！」」（zoom）参加予定。

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	澁谷　友和

１．教育の責任

１．担当授業科目（前期）
社会科指導法（月２限，火1・2限）　人間教育実践力開発演習Ⅰ（木２限：共同）　教育実習事前事後指導（木３限：共同）
基礎ゼミナールⅡ（金１限：共同）
単独で講義を行っている社会科指導法では，小学校現場でも展開されている個人⇒グループ⇒全体⇒個人の学習形態を取り入れ，主体的・対話的な深い学びの授業スタイルを体験的に学べるように工夫した。
2．各種学生支援
広報委員として，前期は主にオープンキャンパスの業務に取り組んだ。小学校専修分科会に関しては，学生スタッフたちと入念に打ち合わせを行い，学生たちの思いが具体化できるように支援を行った。
また，教員採用試験の模擬授業に関して，個別に研究室を訪ねてきた学生たちに対し，指導案，実際の授業，板書など指導・支援を行った。

２．教育の理念・目的

奈良学園大学の教育理念と，学校現場での教育の指針である学習指導要領に基づき，以下の3点を重視し，教育者となる学生の指導にあたる。
1．授業実践力の育成
2．子どもに寄り添える力の育成
3．予測困難な時代を生き抜くための「主体的」「協働的」に学ぶ力の育成

３．教育の方法

2で示した3つの力を育成するために，講義（主に社会科指導法）の中で，以下の点を工夫しながら展開した。
1．講義方法を習得⇒探究⇒活用という探究型の構成にし，学生が主体的に学ぶ環境を整えた。また内容面では，小学校現場での経験をいかし，学生が実習や新任として現場に立つことを想定した実用的な内容に精選し，即戦力としての実践力育成する講義を展開した。
2．授業中に子どもに寄り添うことを想定し，講義内で机間巡視を重視し，学生一人一人をほめることを心がけ，「ほめる」ことの重要性を体験的に学修させた。
3．協同的に学ぶ環境を作るために，コロナウイルス感染症予防対策を講じながら，講義を個人で考える時間⇒グループ交流の時間⇒全体交流の時間⇒個人でふり返りという流れにし，小学校現場で行われている授業の流れを体験的に学修させた。

４．教育の成果

2021年度授業評価アンケートから，社会科指導法講義の成果を考察する。
1．この授業に積極的に参加していましたか：この項目では，月・火の3コマ平均で4.5以上となっており，学生が主体的に学習に取り組めた結果が出ている。
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか：この項目では，3コマ平均4程度となっており，予習・復習が定着していない。授業の中で特に指示を出していなかったことが原因と考えられる。
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか：この項目では，3コマ平均4.5となっており，内容を小学校現場で取り上げられる内容を中心に行った結果だと思われる。
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか：この項目では，3コマ平均4.6以上となっている。説明の仕方，話し方，資料等，小学校現場ですぐに取り入れられるように「やってみせる」ことを意識して講義を進めた結果だと考える。
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか：この項目では，3コマ平均4.7以上となっており，対面，オンラインに関係なく，学生との対話を心がけながら進めてきた成果だと考えており，ありがたく思う。
総じて，大学全体の平均を上回る成果を出すことができ，転職して初めての講義であったが，まずまずの成果を出せたかと思う。

５．今後の目標

短期的な目標としては，後期の「社会の理解」の授業計画をしっかり立て，まずは大学教員としての一年目を無事に終えられるようにしたいと考えている。また，紀要の投稿期限がせまっているので，研究の成果をきちんとまとめていきたい。
中・長期的には，書籍の原稿を3本抱えているので，一つずつ書き終えていきたい。一つは防災学習をテーマにしているので，この成果を「社会の理解」の講義で活用できればと考えている。また，中学校地理の書籍原稿も初めて書いているが，中学校の様子がわかり，今後の講義の中で小中の連携というテーマで活用できると考えている。
防災学習に関しては，10月に開催される日本教育大学協会の大会でオンライン発表することになっている。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	辻井　直幸

１．教育の責任

〇担当授業名
・音楽科教育法Ⅰ・音楽科教育法Ⅱ・音楽科教育法Ⅲ・音楽科教育法Ⅳ
・器楽演習Ⅰ（鍵盤）・器楽演習Ⅱ（鍵盤）・楽典・作曲基礎・作曲応用
・基礎ゼミナール・人間教育ゼミナール・教育実習事前事後指導・教職実践演習
〇授業外活動
・教員養成のための支援授業（GT）・クラブ活動・行事活動

２．教育の理念・目的

〇音楽教育は人間の心の豊かさを育むものである
・真理探究を日常生活のベースに位置づけるための「価値観」の創造。
・人として豊かに生きる為には「生涯学習」が不可欠であり、それらは人である以上、「信頼関係の上に成り立っている」ということを音楽教育を通して理解していく。(協力の下での自己表現)

３．教育の方法

〇明日の音楽教育を支える人材を養成する
・学生への信頼関係づくりを最優先とし（どれだけ正しいことを教えても聞く耳をもってなければ意味をなさない）まずはレディネスを整える。
・知識技能を活用できる発表の場づくりを常に念頭に置いて授業を展開する。
・受動的な教育姿勢を廃止し、自ら考え積極的に参加する授業形態の工夫をする。
・信頼を得るためには、まずこちらから全面的に信頼することを心掛ける。

４．教育の成果

〇自ら進んで学修する態度が見られ、８割方の学生において能力の伸長と定着が図れた
・一番受講数の多かった「器楽演習」についてアンケート考察をしてみると回答率が100%（22/22名）であり「この授業は総合的に満足できる」と答えた生徒が五段階評価で平均 4.73であり、ほとんどの者（９割以上）が満足いく結果になっている。しかし実際の学習成績（授業内テストや発表）ではトータルとしては８割方の習得をみたものの、毎回の授業での積極的な参加意欲が５割程度の日もあったため、更に「よく分かる授業」の工夫をしていきたい。

５．今後の目標

〇今後は、更なる「信頼しあえる人間関係の構築」を図り、他者と協力し合いながら自己の長所を伸ばしていける教育の環境づくりを目指していく。
・短期的には毎回の授業で一人1発表を進んで行わせ、皆で学修をサポートしていく。
・長期的には生徒自らが独自の「音楽教育メソード」を開発実演する能力を身に着ける。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

〇参考資料
・2021シラバス
・2021年度授業評価前期アンケート「器楽演習」
・2021年度「音楽教育法2.4.」における各個人の課題（学習指導案づくり等）のまとめ
・授業外で行った教育プログラム（GT等）やブレスト法での話し合い活動

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	西江　なお子

１．教育の責任

〇学生に対して何を行っているか

・担当授業科目

家庭科指導法、衣食住の理解、人間教育実践力開発演習Ⅳ、人間教育学ゼミナール（基礎・応用）

・各種学生支援

※人間教育実践力開発演習の主担当として、開発演習担当者と連携を密に図り、各専修・学年に応じた学修のねらいと支援方法を明確にし、実施してきた。特にⅣにおいては教員採用試験突破のみならず、教員に採用された際に活かせる力を身に付けさせるべく、キャリアセンター教職担当教員とも連携を図り、実践力育成に向けての指導を徹底してきた。

※キャリアセンター副センター長として、センター長はじめセンター教職員と連携を密に図りながら、学生の就職支援を行っている。また必要に応じ適宜保護者との連携を図り支援を行い、積極的に学び続ける学生の育成を目指している。特に、人間教育学部として教職志望者に対し教員採用に関する情報を適宜提供するとともに、教員に必要な資質・能力の育成を図るために教育時事や面接指導、授業作りなど個に応じた指導を徹底している。また、今年度から、人間教育学部の全教員が教員採用試験対策に参加し、学生支援ができる体制を整え、夏季教員採用試験対策講座を実施した。

２．教育の理念・目的

○どのような理念･目的等に基づいて行っているか

人間教育学部の学生としての自覚と誇りの育成が、本学生にとって特に重要であるという考えのもと、その実現を目指し教育に携わっている。教育の専門家として必要な知識・技能、資質・能力の向上を目指し、自信を持って子どもと教育的な関係を築くことができるよう担当科目を通して教授し、学生対応している。

３．教育の方法

○どのような方法で２の実現を図ろうとしているか

・学生との接し方

将来教職に就くという自覚の育成を図るため、学生に対して常に教員の視点で思考できるような場面設定を行ったり、仲間でディスカッションできるように授業構成したりしている。また、学修内容の理解度に差が生じた際は適宜個別対応を実施ししたり、資料提示をしたりするなど個に応じた指導を徹底し、教育実習において自信をもって児童対応ができるよう丁寧な指導を心がけている。

・授業の工夫

家庭科指導法：小学校教員として家庭科の指導力育成を図るため、教材研究、指導案作成、授業作りについて課題を課し授業内及び個別に
フィードバックするとともに、模擬授業実施に向けて全学生に個別指導を実施し、実践力育成を行っている。

衣食住の理解：家族・家庭生活、衣食住、消費・環境という家庭分野に関する幅広い知識・技能の育成を目指し、適宜実技やグループワー
クを取り入れながら授業を行っている。

人間教育実践力開発演習Ⅳ：教員に必要な資質・能力であるコミュニケーション力、課題解決力等の能力を向上させるさせるために、教育
課題や時事問題等の情報収集を行い、グループディスカッションを行ったり、教員採用試験に向けて面接や模擬授業などを
実施したりすることを通して、学校現場で活かせる力の育成を図っている。

・FD/SD活動等にかかわる内外の研修会への参加

学内FDに参加し、自身の授業方法やカリキュラム内容の改善・向上を図る努力を行っている。

・自らの専門分野の成長

研究分野である家庭科教育において、所属学会である日本家庭科教育学会では支部役員、日本消費者教育学会は副支部長として研究を進めている。特に日本消費者教育学会では、小学校におけるSDZｓの教材開発に向けてグループ研究を進めるとともに、その研究の過程において得た知見を担当教科である衣食住の理解や家庭科指導法において学生に適宜情報を提供し、ディスカッションしたり、調査したり出来る環境を整えている。

４．教育の成果

・達成できたこと，できなかったこと（達成レベル）

担当の全教科において、「この授業は、総合的にみて満足できるものだったか」、「教員は意欲的に取り組み熱心な指導をしていたか」という問いに9割の学生が「はい」と回答しており、概ね満足度の高い授業を展開することができたと捉えている。その要因として、対面・遠隔にかかわらず、学修への不安を抱く学生への個別対応の徹底をはじめ、グループワーク、調査・発表、指導案作成など教科の特性に応じて工夫して行ったことが考えられる。一方、教職志望ではない学生に対して、指導案作成力や授業力を十分に身に付けさせることが少し課題としてあげられる。

５．今後の目標

○今後どうしたいか

「人間教育学部」として、一人でも多くの学生が教員をめざし高い学習意欲のもと、教員採用試験突破に向けて勉強に取り組む姿勢を育成していくことが、本学部存続には欠かせない。そこで、入学時から教職の魅力を各科目において伝えると共に、学生の教員としての資質・能力の育成を目指して、キャリアセンターと学部が協力し、実践力を身に着けられる授業を継続して行っていきたい。

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	長谷川　栄子

１．教育の責任

（１）担当授業科目
①司書教諭免許取得に係る科目
・学校経営と学校図書館　・学校図書館メディアの構成　・学習指導と学校図書館　・読書と豊かな人間性
②専門科目
・基礎ゼミナールⅡ　・人間教育実践力開発演習Ⅳ　・教育実習事前事後指導（中・高）
・国語科教育法Ⅰ　・言葉の理解　・教職実践演習（中・高）
（２）学生支援
オフィスアワー：勤務時間内（8:30～16:30）で研修日と授業時間以外随時

２．教育の理念・目的

・人の支えになる人や教員を目指す学生を支援するため、実務経験を活かし、他者への思いやりを忘れず、AI時代において生涯にわたって学び続ける人材を育成する。中等国語専修の一員として教職員と連携し、粘り強く前向きな姿勢で職務に取り組む。

３．教育の方法

（１）学生との接し方
・先に挨拶の声を掛け、関係づくりを図る。リフレクションシートから授業中の努力を認め、授業態度や提出物の提出状況から学生の困り感を推察し、相談に乗る。以上の2点を心掛けている。
（２）授業の工夫
・主体的な学修にするために、授業内容や目標を明示し、リフレクションシートの内容を交流して各自の努力を認め、他者からの学びを自覚させている。また、記述力を向上させるためのポイントを示し、レポートが書けるように配慮した。レポートやリフレクション等に対してコメントを付け、個人的にも双方向のやり取りを行っている。そして、授業の事前事後に授業テーマに関連する参考資料を読むことを推奨している。
・対話的な学習にするために、自己学修の時間を取った後にグループでの交流を行い、全体報告し、考えを共有する時間を設定している。多様な言語活動を行い、テクスト、自己、他者との対話が図られるようにした。
・深い学びをめざして、授業で扱ったテーマについてさらに文献で調べ、レポートを書いて自分の考えを表現させるようにしている。
（３）内外の研修会への参加
・学内における研修会には、欠かさず参加し、ICTを活用した協働的な事務作業の在り方や指導法等を模索した。
・学外の研究会において、国語科におけるICTを活用した効果的な指導法を研究している。
（４）専門分野における成長
・諸論文を参考にし、昨年度より授業内容を深め、多角的な視点から講義できるよう努力している。
・小学校、中学校、高等学校の国語科の学習内容の系統性や児童生徒の発達段階を踏まえて講義している。

４．教育の成果

（１）成果
・課題レポートにおける記述ポイントを明確に示し、添削を重ねることを通して、学生たちは、前回よりも成長した自己を発見していた。
（２）課題
・1時間の講義内容に関して、さらに専門的な知識を得、発展的な学修ができるよう複数の参考資料を提供する。
・よりわかりやすい授業内容の説明を目指す。

５．今後の目標

（１）長期的目標
・中等国語専修から教員になる学生を一人でも多く育てられるよう、中学校・高等学校の国語科教育の専門性を深めると共に教員採用試験合格に向けた対策を練る。
（２）短期的目標
・中学校の国語科のデジタル教科書を活用した国語科教育法を研究する。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

（１）シラバス（奈良学園大学HP参照）
・学校経営と学校図書館　・学校図書館メディアの構成　・人間教育実践力開発演習Ⅳ
（２）授業アンケート（別添）
・学校経営と学校図書館　・学校図書館メディアの構成　・人間教育実践力開発演習Ⅳ
（３）学生支援の内容
・進路についての相談　・レポート作成についての相談　・学校ボランティアについての相談　・教育実習における指導案作成
（４）講師依頼
・芦屋市教科等研究部会（小学校国語科）における指導　・奈良県立五條高等学校において―教員の魅力―

2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

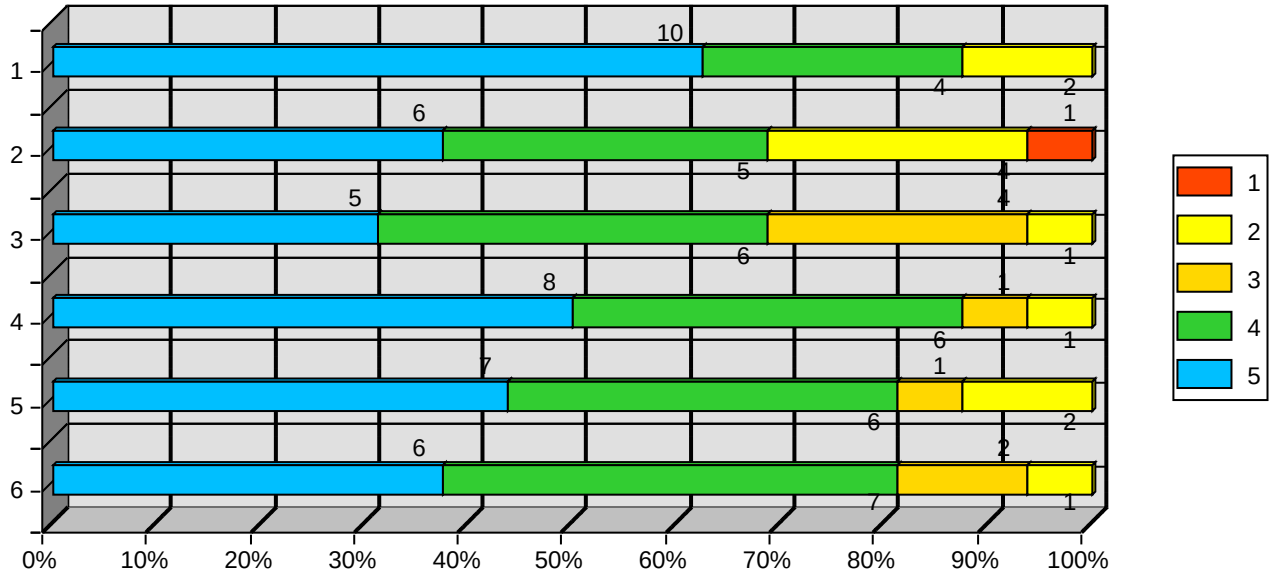
開講年度　　2021年度　　水曜日４時限　　長谷川　栄子

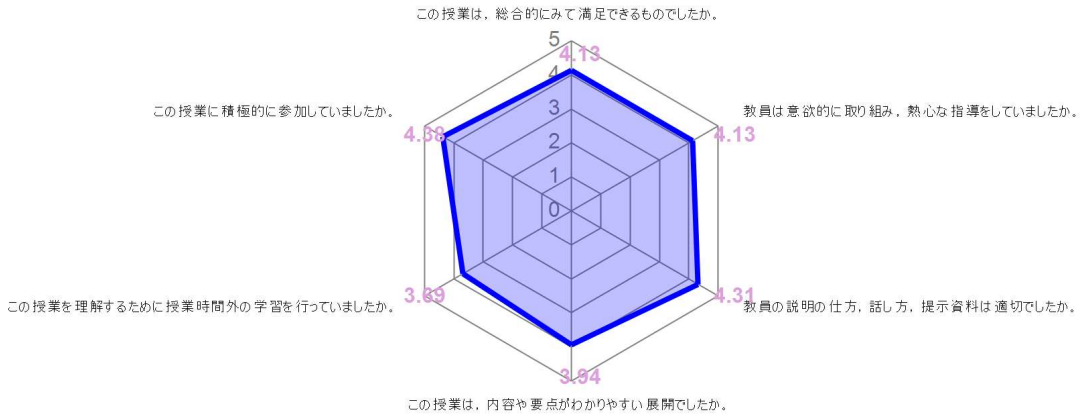
学校経営と学校図書館

アンケート総数　　16 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	10	4	0	2	0	4.38
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	6	5	0	4	1	3.69
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	5	6	4	1	0	3.94
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	8	6	1	1	0	4.31
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	7	6	1	2	0	4.13
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	6	7	2	1	0	4.13





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

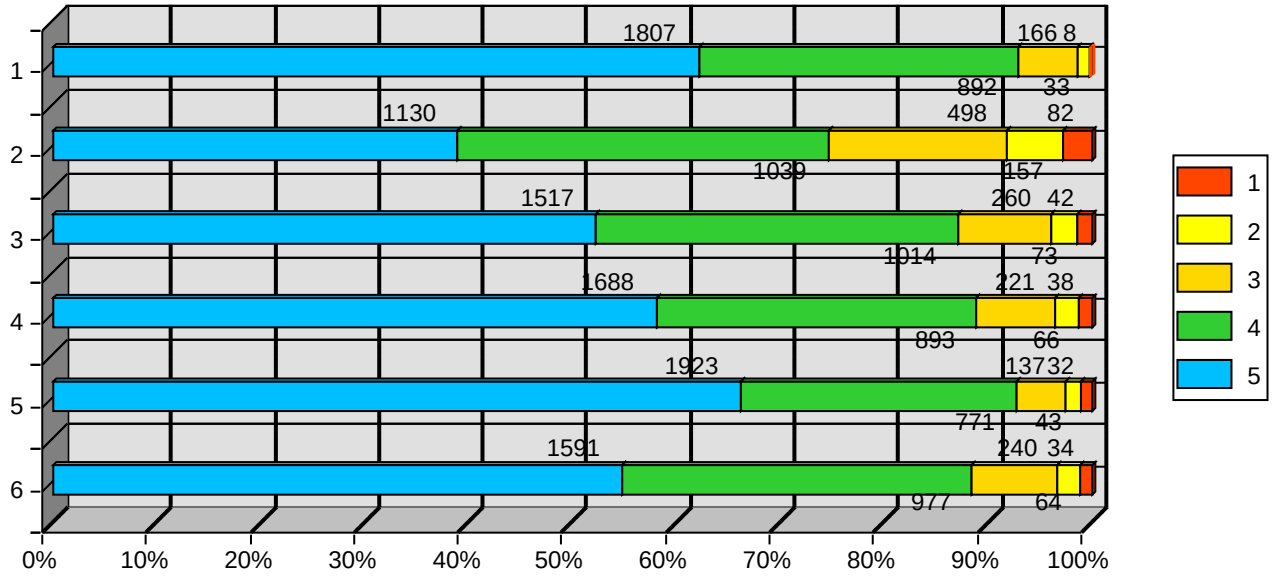
開講年度　　2021年度

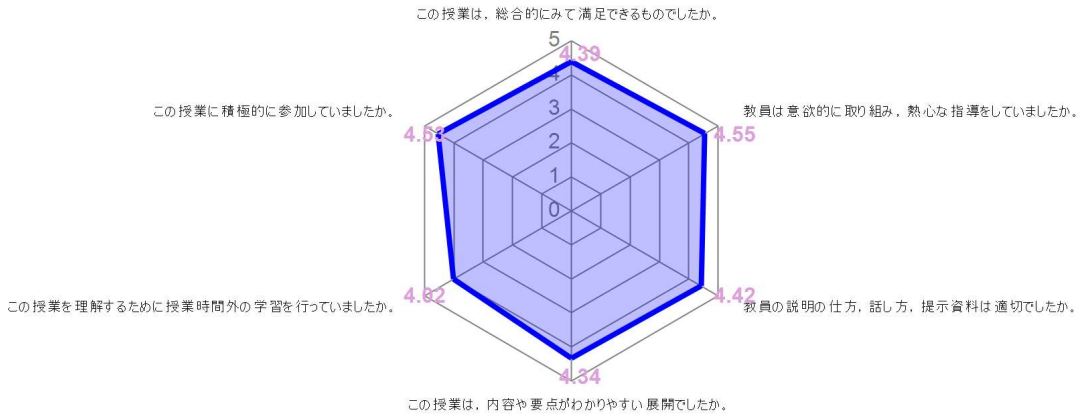
全体結果

アンケート総数　　2906 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	1807	892	166	33	8	4.53
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	1130	1039	498	157	82	4.02
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	1517	1014	260	73	42	4.34
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	1688	893	221	66	38	4.42
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	1923	771	137	43	32	4.55
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	1591	977	240	64	34	4.39





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

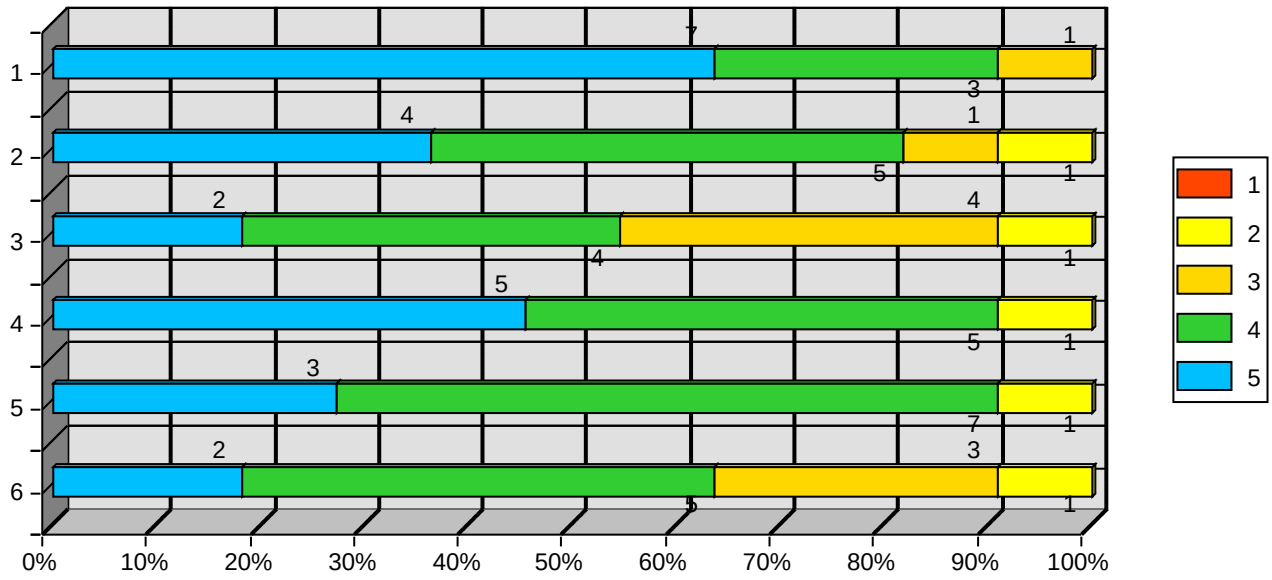
開講年度　　2021年度　　月曜日４時限　　長谷川　栄子

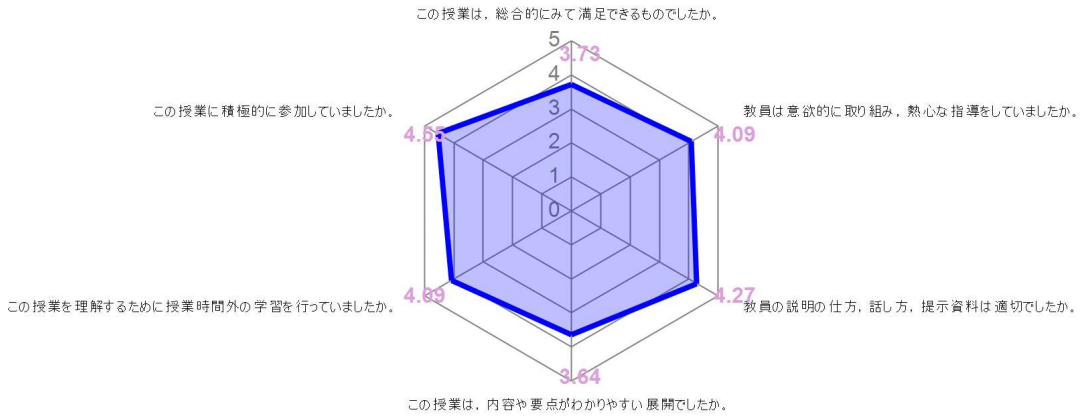
学校図書館メディアの構成

アンケート総数　　11 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	7	3	1	0	0	4.55
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	4	5	1	1	0	4.09
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	2	4	4	1	0	3.64
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	5	5	0	1	0	4.27
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	3	7	0	1	0	4.09
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	2	5	3	1	0	3.73





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

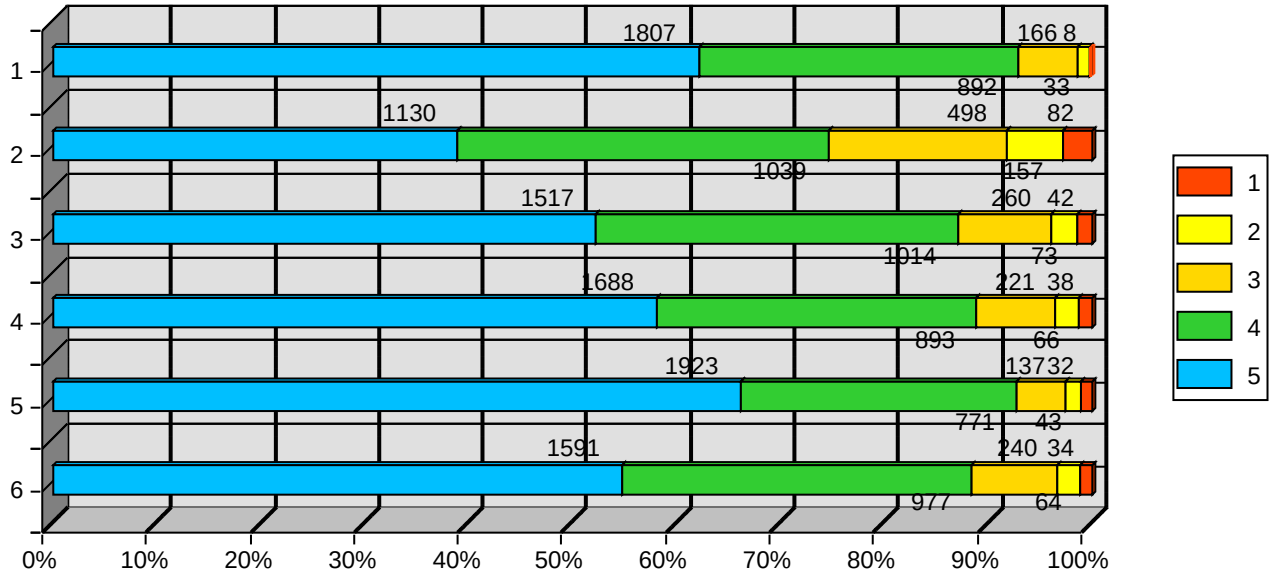
開講年度　　2021年度

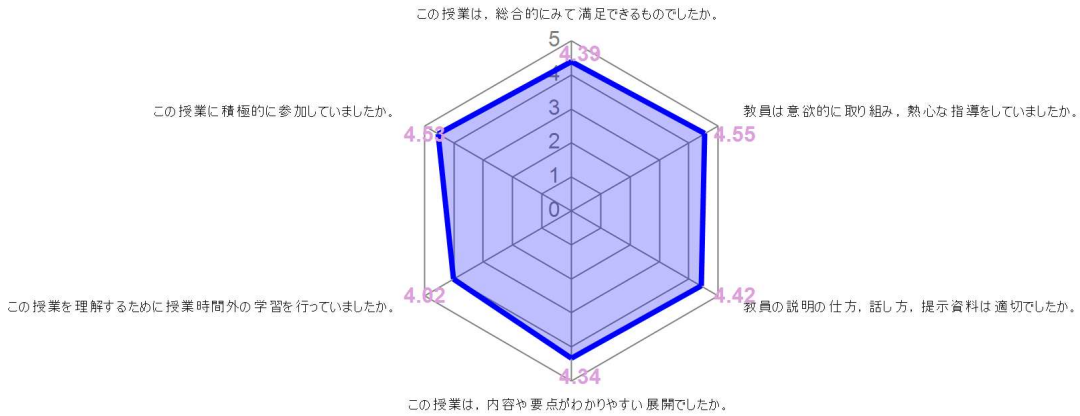
全体結果

アンケート総数　　2906 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	1807	892	166	33	8	4.53
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	1130	1039	498	157	82	4.02
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	1517	1014	260	73	42	4.34
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	1688	893	221	66	38	4.42
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	1923	771	137	43	32	4.55
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	1591	977	240	64	34	4.39





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

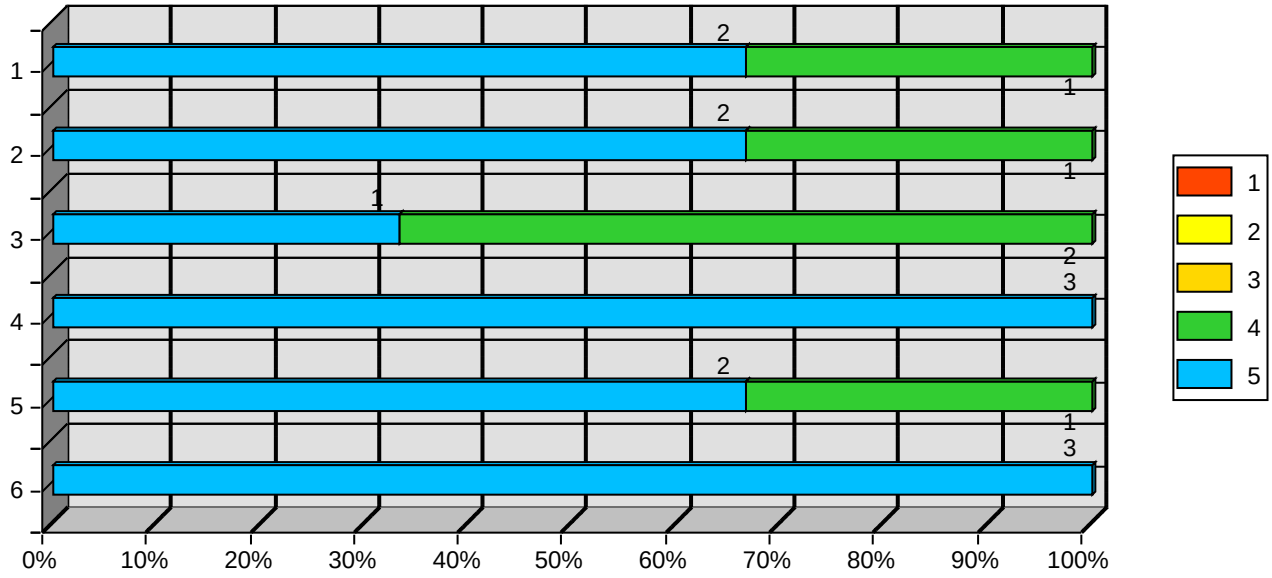
開講年度　　2021年度　　木曜日４時限　　長谷川　栄子

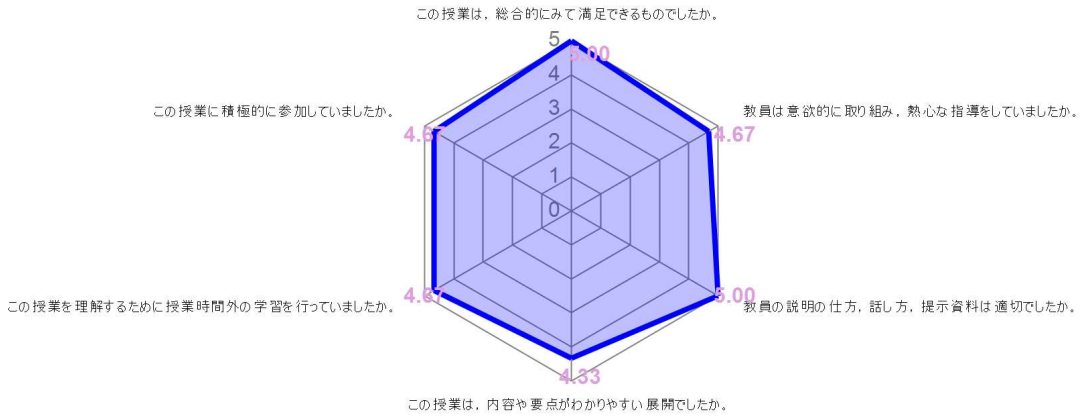
人間教育実践力開発演習Ⅳ

アンケート総数　　３枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	2	1	0	0	0	4.67
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	2	1	0	0	0	4.67
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	1	2	0	0	0	4.33
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	3	0	0	0	0	5
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	2	1	0	0	0	4.67
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	3	0	0	0	0	5





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

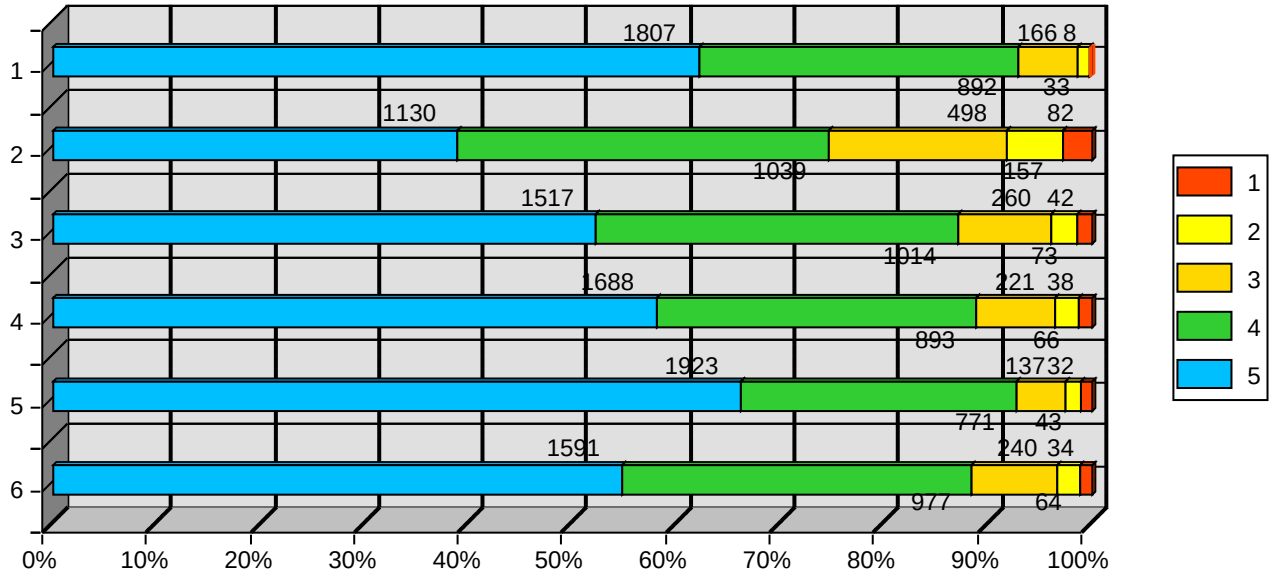
開講年度　　2021年度

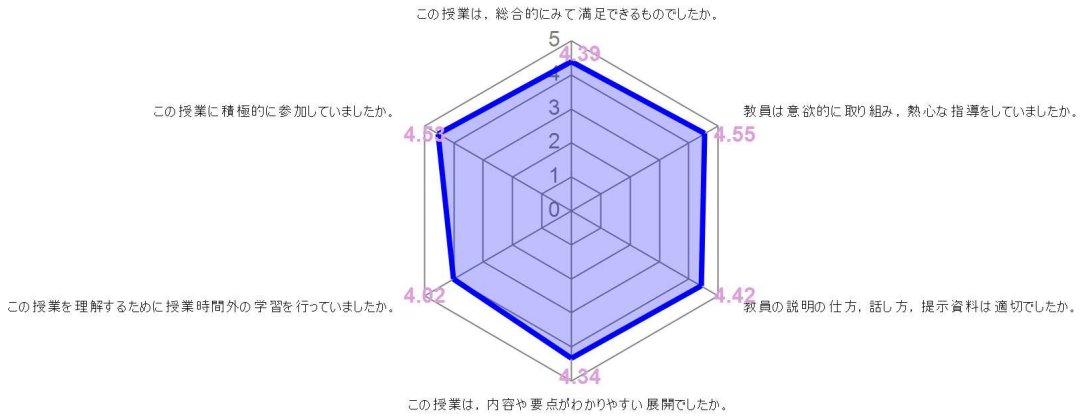
全体結果

アンケート総数　　2906 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	1807	892	166	33	8	4.53
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	1130	1039	498	157	82	4.02
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	1517	1014	260	73	42	4.34
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	1688	893	221	66	38	4.42
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	1923	771	137	43	32	4.55
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	1591	977	240	64	34	4.39





ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	林　悠子

1．教育の責任

人間教育学部幼稚園専修教員として、「子どもと表現（体育）」「子どもと表現の指導法」「人間教育実践力開発演習Ⅰ」「教職実践演習（幼・小）」「人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）」「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」（「教育実習（幼）Ⅰ・Ⅱ」「保育実習Ⅰ・Ⅱ」）を担当し、幼稚園教諭・保育士資格の取得を目指す学生らを指導している。また、小学校専修科目として「運動・健康の理解」、音楽専修科目として「音楽表現ⅠB（リズム&ダンス）」「音楽表現ⅡB（リズム&ダンス）」「身体表現演習Ⅰ」「身体表現演習Ⅱ」「身体表現特殊演習Ⅰ」「身体表現特殊演習Ⅱ」を担当している。また、公務員試験を突破するための基礎学力の向上や専門知識の定着を目的として、本学独自の取り組みである公立幼稚園教諭・保育士を目指す学生に対する支援『GT』講座の幼稚園専修２年次生対象を担当している。

2．教育の理念・目的

本学の教育理念に「現実に立脚した学術の研究と教育を通じて、明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成を目指し、時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をつちかい、誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材を養成する」とあるが、特に学識と実務能力を備えた学生の育成を目指している。また、自身の専門である体育や心理の立場からは、心身共に健全で豊かな人間性を持った学生を育てたいと考える。

3．教育の方法

学識と実務能力を備えるためにはまず基礎的知識の定着が前提であると考える。そのため、まずは教科書や参考資料をよく読み込み、特に重要なことを読み取り内容について要約する力を身につけられるようレジュメの工夫を行っている。また、体育や身体表現の実技では、幼児や小学生の体育として技能的に自身ができることが多いため、考えるよりも体を動かすことが先行しがちになってしまう。さらに、今の学生の特徴として動画など視覚に頼る部分が多いように思われる。その運動がどのような意味を持つのか、どのようなねらいがあるのか、何に気をつけるべきかなど、常に言語化させることに気をつけている。

4．教育の成果

「運動・健康の理解」は後期において小学校専修2クラスと小学校免許取得者の1クラス計3クラスで講義を行っているが、満足度は3.85、4.0．4.17ポイント、わかりやすさや聞きやすさも4.0ポイントから4.57ポイントといずれも高い評価であった（2020年度後期授業評価アンケートより）。

5．今後の目標

新キャンパスのスケールメリットを活かし、幼稚園での実習や授業展開の推進を行いたい。また、幼稚園から高等学校、大学まで揃うため、いずれは発育発達の銃弾的研究を行いたいと考える。

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

「子どもと表現（体育）」「人間教育実践力開発演習Ⅰ」「身体表現演習Ⅰ」シラバス参照

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	原口　忠之

１．教育の責任

１．幾何学基礎　集合論の基礎の習得　毎回の授業で課題を与えることで論理的な思考能力の基礎を固める。
２．幾何学B　　位相数学の基礎の習得　毎回の授業で課題を与えることで位相数学の基礎的な内容の理解を深める
３．教職表現力演習II　現場で使える教材の提供及び基礎的な数学の計算　課題を与えて計算力の向上
４．基礎ゼミナールI　アカデミックスキルの習得　課題の作成方法などの大学での勉強するための基本を学ぶ
５．人間教育ゼミナールI　数学の模擬授業等、教採の問題を解くことで、教育実習等の準備をしている
６．人間教育ゼミナールII　模擬授業、教採の問題を解くことで採用試験に向けて努力している

２．教育の理念・目的

自らの教育理念と目的
数学の教員になって恥ずかしくない学力を養い、現場にでたときに活躍できる学生を育てる。

価値観・信念
教育のニーズも変化するため、それに合わせて臨機応変に対応していく。

３．教育の方法

1.　学生との接し方
研究室は、所要がない限りはオープンにしており、質問の対応に取り組んでいる。また、コミュニケーションをとることで、学生の考え方や、学習意欲がどれくらいあるのかを気にしている。

２．授業の工夫
幾何学の授業はどれも抽象的な内容であり理解が難しいため、できるだけ具体的な例をあげている。また、授業中に具体的な課題に取り組むことで、理解の促進をはかる。

３．FD/SD活動等にかかわる内外の研修会への参加
積極的に参加する。

４．教育の成果

１．達成できたこと，できなかったこと
難しい内容ではあったが、みんな頑張っていたと思う。しかし、数学的な正しい論理解答が少なかった。
２．授業アンケートの結果
幾何学Bは平均が３．６であった。幾何学基礎は平均が４．２くらいであった。

５．今後の目標

短期的目標
授業の向上をはかり、学生の数学的思考力を鍛える。また基礎学力の向上をはかり、教員採用試験に向けて努力する。

超規定目標
教員合格率の向上

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

１．数学道場（１年）の参加率はほぼ全員参加している。

2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

開講年度　　2021年度　　水曜日３時限　　原口　忠之

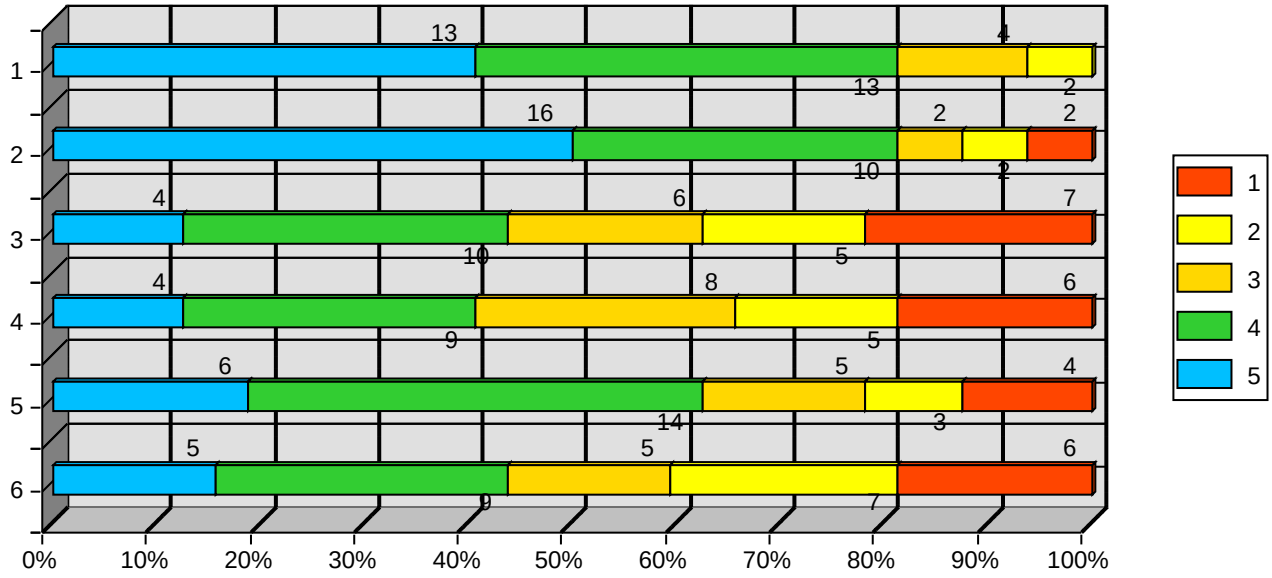
幾何学Ｂ（位相空間）

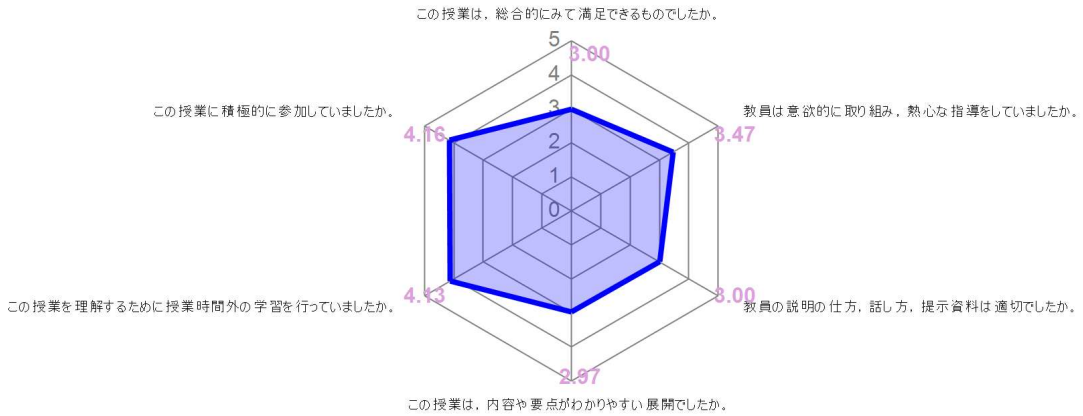
アンケート総数　　32 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

1．この授業に積極的に参加していましたか。
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。

評価	5	4	3	2	1	平均
集計	13	13	4	2	0	4.16
集計	16	10	2	2	2	4.13
集計	4	10	6	5	7	2.97
集計	4	9	8	5	6	3
集計	6	14	5	3	4	3.47
集計	5	9	5	7	6	3





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

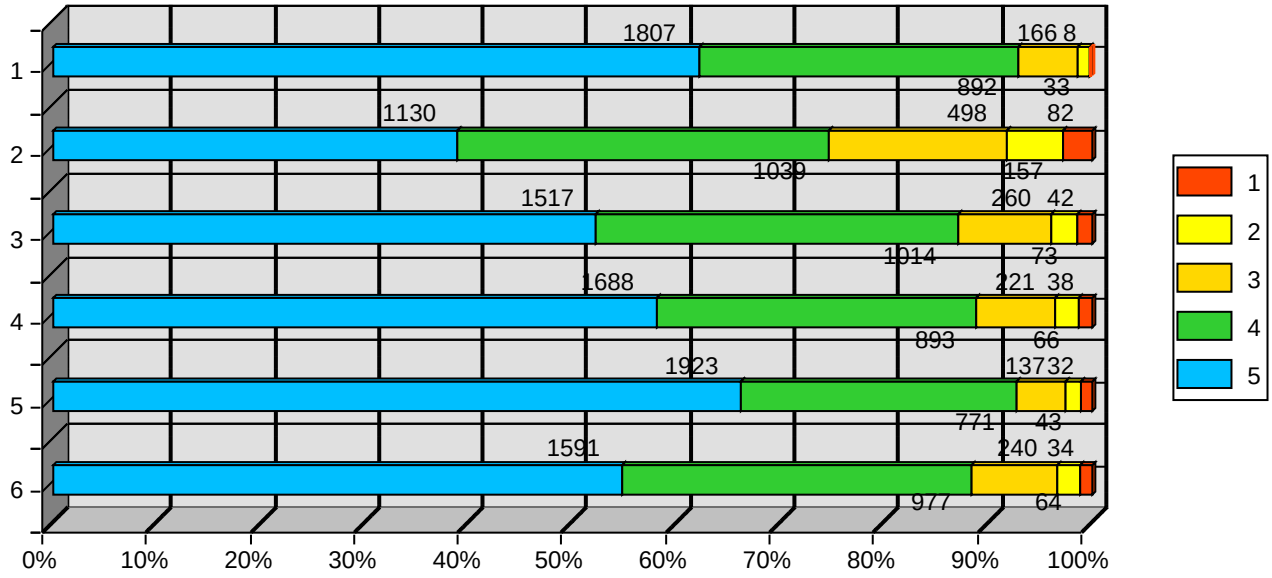
開講年度　　2021年度

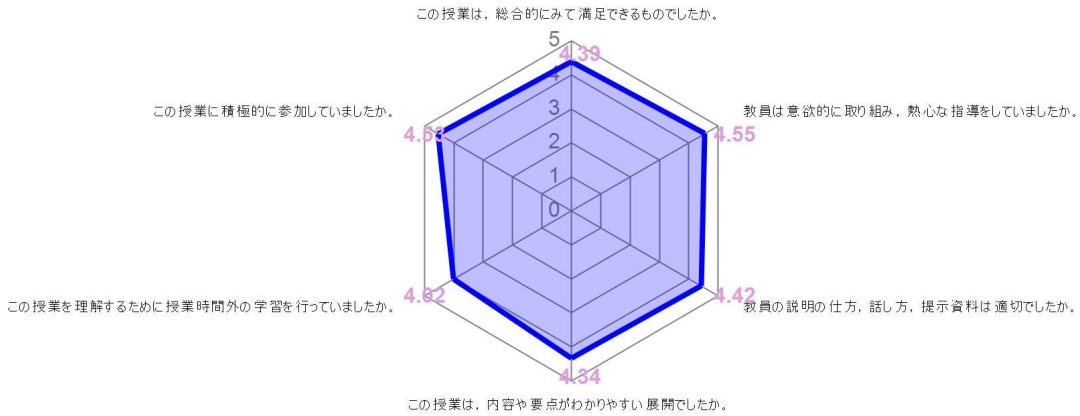
全体結果

アンケート総数　　2906 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	1807	892	166	33	8	4.53
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	1130	1039	498	157	82	4.02
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	1517	1014	260	73	42	4.34
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	1688	893	221	66	38	4.42
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	1923	771	137	43	32	4.55
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	1591	977	240	64	34	4.39





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

開講年度　　2021年度　　水曜日４時限　　原口　忠之

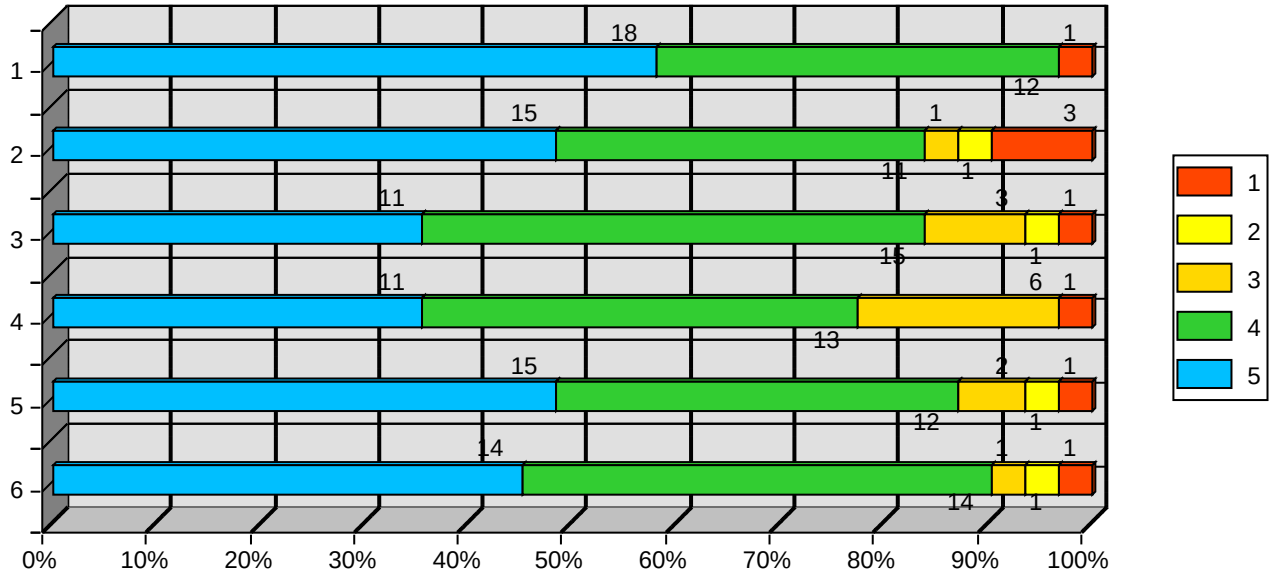
幾何学基礎

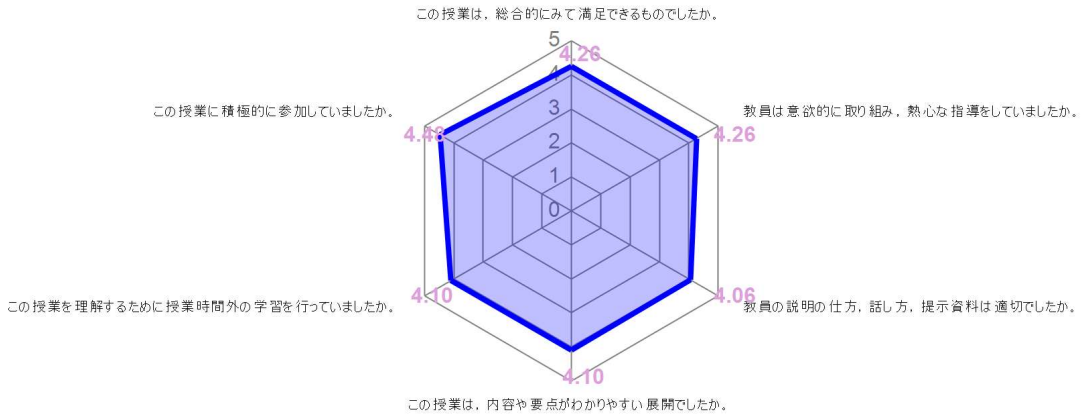
アンケート総数　　31 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

1．この授業に積極的に参加していましたか。
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。

評価	5	4	3	2	1	平均
集計	18	12	0	0	1	4.48
集計	15	11	1	1	3	4.1
集計	11	15	3	1	1	4.1
集計	11	13	6	0	1	4.06
集計	15	12	2	1	1	4.26
集計	14	14	1	1	1	4.26





2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

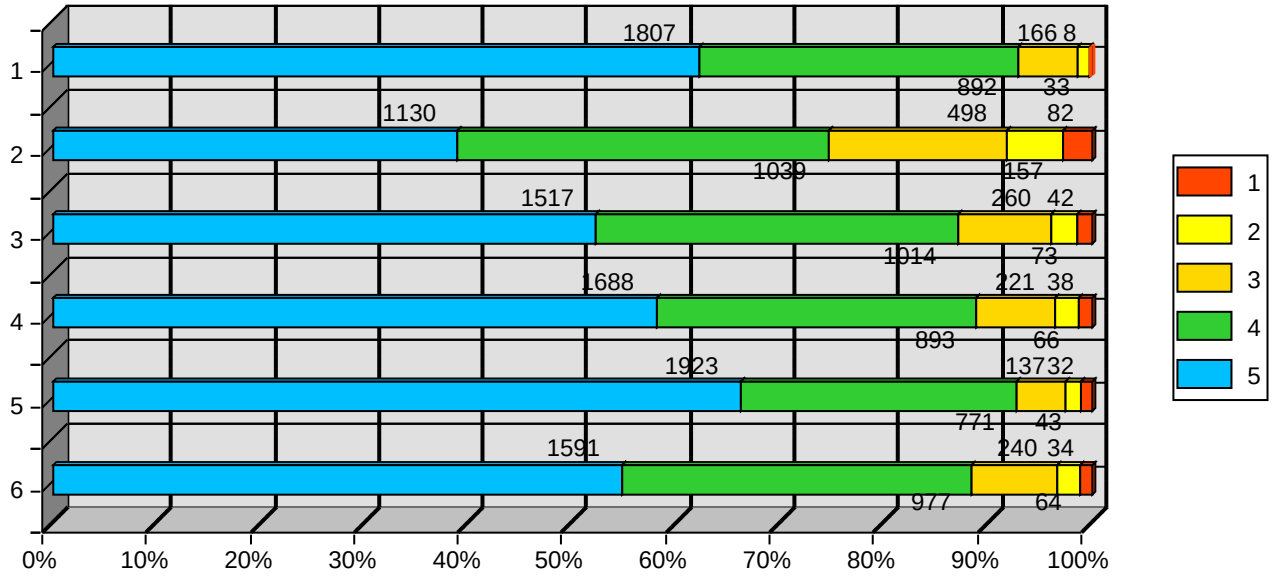
開講年度　　2021年度

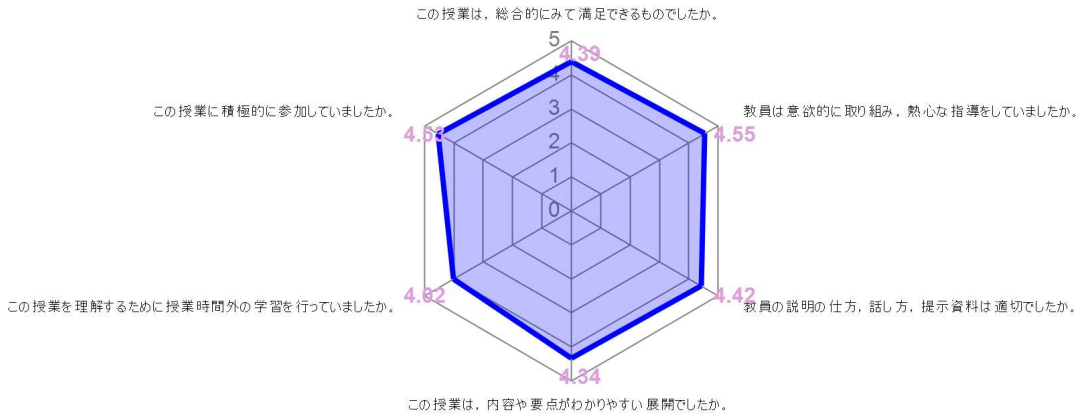
全体結果

アンケート総数　　2906 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

	評価	5	4	3	2	1	平均
1．この授業に積極的に参加していましたか。	集計	1807	892	166	33	8	4.53
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。	集計	1130	1039	498	157	82	4.02
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。	集計	1517	1014	260	73	42	4.34
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。	集計	1688	893	221	66	38	4.42
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。	集計	1923	771	137	43	32	4.55
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。	集計	1591	977	240	64	34	4.39





ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	正木　友則

１．教育の責任

①国語科教育法Ⅱ
　国語科教育法Ⅰを踏まえた上で、実習前の教科指導法であることに鑑み、実践的な課題に焦点を当てます。指導案作成時の相談をはじめ、模擬授業でのフィードバックは、国語科教育法Ⅰでの指導事項を踏まえ、系統的に指導事項を網羅できるように注意しています。また、模擬授業でのフィードバックは、欠点の列挙ではなく、できるだけ学生の良いところを伸ばすことができるように、「どうするともっとよくなるのか」が伝わるように心がけています。
②国語科教育法Ⅲ
　国語科教育法ⅠとⅡを踏まえ、古典教材や文学教材に焦点を当て、国語科の指導方法について学習できるようにしています。
③国語科教育法Ⅳ
　これまでの学習と教育実習での経験を踏まえ、新学習指導要領で求められる資質・能力や国語科における見方・考え方について、文献を基にしながら自分の言葉で説明できる理解に至るよう指導しています。四年生で履修するため、演習発表の機会を多く設定し、主体的に学ぶ姿勢を大切にしています。
④教育実習事前事後指導
　実習前に必要な注意事項、心構えから始まり、国語科の授業づくりについて模擬授業を通して実践的な準備を行います。指導案作成の相談を受け付け、実習で行う授業範囲について丁寧に指導します。また、実習中の実習記録を書く練習になるようにレポート指導を行ったり、実習後のお礼状の書き方まで指導するようにしています。
⑤教職実践演習
　4年間の学びの集大成として、教科の専門性という観点から演習形式で学習します。履修カルテの内容を踏まえながら、教職に就く者としての心構えを持つことができるよう指導します。
⑥人間教育実践力開発演習Ⅱ
　学校支援ボランティアを中心としながら、教職の現場を体験することで昨期に学んだこととつなげ、教育実習や開発演習Ⅲ・Ⅳにつなげることのできるよう振り返りを大切に指導します。体験したことを振り返り、言語化することを大切にします。
⑦人間教育実践力開発演習Ⅲ
　教職を目指す上で求められる時事・教育問題について学習すること、教職で求められる表現力、授業力を形成するため、実践的な学習（論作文や模擬授業）を取り入れます。特に、教員採用試験対策としての論作文の書き方、論作文対策としての知識獲得など、実践力を高めることができるように工夫します。
⑧人間教育学ゼミナール
　自らの興味・関心から問題意識に高め、読書を通して得た理解や知識をプレゼンテーションすることでアカデミックスキルを活用します。自分の問題関心について、「自分ならでは」の発表ということを大切にしています。他者と協働して一つの作品を読み、交流することで新たな解釈や意味の生成をめざします。また、4年次には卒業発表として自らの問題意識に基づいて文献を調べ、15分のプレゼンテーションとしてまとめ、発表します。

２．教育の理念・目的

・人は、善いものでも悪いものでもなく、より善くなろうとしているという村井実の教育観に立ち、どうすれば学生たちが「より善くなろう」とするのかを考えて教育活動を行おうと心がけています。自分が善いと思うこと、他者とともに善いと思うことをじっくりと考えることができる力を持つこと（私自身も）を大切にしています。
・また、善くなろうとした姿を捉えて、褒め、価値づけることを大切にしています。

３．教育の方法

・学生の思いや話をできるだけよく聞き、耳を傾けようとすること。
・例えば、模擬授業時のフィードバックにおいて、「できていないこと」を「こうするとよりよくなるヒントを提供してくれた」と言い換えることができるよう、工夫している。授業例としては、国語科教育法Ⅰ～Ⅳ、教育実習事前事後指導など
・Wordのコメント機能を活用し、論作文や教採のエントリーシートの添削を行っている。

４．教育の成果

・国語科教育法Ⅰ～Ⅲまで、また人間教育実践力開発演習ⅡとⅢの、学年別の系統的な指導ができなかったことを踏まえ、人間教育実践力開発演習Ⅲでは、授業内容を「論作文」に焦点化することができました。昨年度と同様に、継続して、大きな目標や、育っていてほしい学生の像を明確にして、具体的な内容や目標を立て、逆向きに授業を設計する必要があると感じています。
・授業全般として、学生が学習記録として蓄積する場がなかったため、ファイルを導入しポートフォリオのように蓄積できるように試みました。しかし、遠隔授業と対面授業が交互に変わる時に、細かなフィードバックが難しいと感じましたので、後期は修正します。
・昨年度同様、授業内容が「難しい」という授業評価アンケートの回答がありました。オンラインでの模擬授業は未だ難しいところがあります。

５．今後の目標

・大学が育てたい学生像やディプロマ・ポリシーと、科目で育てたい資質・能力の接続化。
・①学習記録、②コマシラバス、③育てたい資質・能力の言語化（可視化）を目指したいと思います。
・「難しい」と言われることをわかりやすいように噛み砕きたい。また、オンライン授業の質の向上を図ります。

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	松岡　克典

１．教育の責任

本学において、主に小学校教諭免許取得にかかわる科目を担当している。特に、公立小学校・国立小学校・私立小学校の教育現場の実務経験を生かし、授業のねらい，指導案作成の仕方や指導の在り方，子どもの様子、保護者の対応など，実践教育の基礎について具体的に指導している。

現在は，人間教育学部の科目として，「算数科指導法」「数の理解」を単独で開講しており，「教育方法・技術論A」「教育方法・技術論B」「基礎ゼミナールⅠ」「人間教育実践力開発演習Ⅰ」「教職実践演習」「教職表現力演習Ⅰ」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」はオムニバスまたは共同で開講している。

専門分野が算数教育であるため，実践に役立つような教材研究の仕方や教師の働きかけについて具体的に伝え，基本的な概念から捉え直すようにし，小学校教員となった場合に基本的な視点から捉える考え方を身に付けさせようとしている。

2021 年度の担当科目

単独：算数科指導法，数の理解

共同：教育方法・技術論A，教育方法・技術論B，基礎ゼミナールⅠ，人間教育実践力開発演習Ⅰ，教職実践演習，教職表現力演習Ⅰ，教育実習Ⅰ，教育実習Ⅱ

２．教育の理念・目的

教育とは人間愛であるという立場で進める。それは，31年間小学校で実践教育を行ってきた経験から大切なことだと学生に伝えたいからである。教師は，担任になると決まった瞬間から，全く知らない子供たちであっても，全力をあげて尽くそうとする。この「人間愛に基づく教育・指導」を，実践でも生かすことができるよう，多くの具体的場面を取り上げ，より望ましい人間愛に基づく指導法について考察していくようにする。

私は、本学の教育活動において、以下の３点を重視している。

1) 小学校教育に関する専門的知識と実践力を身につけること

2) 子どもや家庭、保護者を取り巻く状況など、社会の出来事に関心をもつこと

3) 学びを通した自己の成長を意識すること

３．教育の方法

上述の教育理念を達成するため，例えば1年次後期の必修科目「数の理解」では，次のような授業を行っている。

この科目では，小学校算数科で扱う教育内容の背景や関連内容を中心に扱い，主体的・対話的で深い学びに繋がる授業づくりのための教材研究の手がかりが得られるように，具体的な活動を取り入れながら考察していく。

授業の際は，実際に小学校で使用している教科書や学習指導要領解説の該当ページを示し，書かれている内容の理解や行間をよむということを意識させるようにしている。また，算数科の授業DVD視聴を通して，実際の授業の様子や子どもの考えを具体的に学ぶことができるようにしている。そして，アクティブアカデミーのwebフォルダに授業の内容を掲載し，いつでも授業の振り返りができるようにしている。さらに，毎時間「課題レポート」を提出させ，本時の復習と次時の予習に取り組ませるように工夫している。

現在の教育現場の実態を把握するために，公開授業や研究授業に積極的に参加し，様々な小学校と交流を深めている。

自らの専門分野の成長のために，学会での発表や，論文投稿を行い，研究の成果や方向性を確かめている。

４．教育の成果

2021年度前期「算数科指導法」の授業評価アンケートにおいては、全体的にほぼ平均的な評価と同様の結果であった。授業の一部が対面でなく，zoomによる遠隔授業だった時は，学生とのコミュニケーションを図ることが難しかった。しかし，模擬授業の時には，対面授業になったので，指導にあたっても学生の反応を確認しながら，場に応じた指導ができたという手応えがあった。また，授業時間外の学習の必要性を伝えること，具体的な指示，授業態度に対する指導などが，昨年度と比較して向上した。

対面授業が実施され，学生の個々の学びの様子を把握できるようになったことが大きい。今後も全体と個のさらなる指導方法を身に付けたい。そして，意欲や興味を持続させる工夫をしていきたい。

５．今後の目標

○短期的な目標

・授業担当科目「算数科指導法」の充実

教育者としての表現力についての学生の理解を深め，学生の主体性をさらに引き出す授業を目指したい。

・授業担当科目「数の理解」の学生理解度の向上

算数を学ぶ学生の理解を深め，授業力の基礎となる算数教育を促進したい。

・学生指導の徹底

学修成果の向上につながる学生個々の指導を徹底したい。

○中・長期的な目標

・大学教員としての資質・能力の向上

・奈良学園小学校との連携推進

・算数科授業デザインの開発をテーマとした研究推進

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）
・「教育方法・技術論A」「教育方法・技術論B」の授業を，テーマに関するディスカッションが活発になるようにシラバスを改善する。 ・毎回の授業を振り返り，学生の実態に即した授業内容および方法を検討しながら，緊張感を持って教育改善に取り組んでいる。そして，学生を認める教育にこころがけながら教師養成教員としての自覚および責任感を持って教育に携わっている。また，学生の意欲・態度を引き出す授業となるように努力している。そのためには，学生と授業担当者との信頼関係が重要であると捉え，授業はもちろん授業外においても学生とのラポールを築くように取り組んでいる。 ・毎年，全国算数・数学教育研究大会で研究成果を発表している。2021年度は日本数学教育学会の春季大会とICME14（数学教育世界会議）でポスター発表を行った。 ・科研費を継続取得し，研究推進の充実を図る。

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	山田　明広

１．教育の責任

〇担当授業科目（2021年度）
・漢文学入門　・漢文学Ⅰ　・漢文学Ⅱ　・語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）　・漢文学特論
・人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）　・人間教育学ゼミナールⅡ（応用）　・基礎ゼミナールⅠ
・人間教育実践力開発演習Ⅰ　・教育実習Ⅰ（中・高）　・教育実習Ⅱ（中）
・日本語表現Ⅰ（不開講）　・日本語表現Ⅱ（不開講）

〇各種学生支援
・国語専修４年生教職志願者に対する教員採用試験対策講座（古典、数学、英語）の実施
・公務員試験対策、一般企業のSPI・玉手箱対策の実施
・学生からの相談を受け、適宜、面談等を実施する等。

２．教育の理念・目的

〇教育の理念・信念：
何事にも基礎が重要。基礎の集積が応用となり、さらに自発的学習、ひいては研究へと繋がっていく。

〇教育の目的：
学生に科目に関する専門知識の獲得させるとともに、読解力を習得させ、自ら学び・研究する態度および能力を身に着けさせる。

３．教育の方法

１，まず、漢文の基礎である漢文法・句形を講義形式で丁寧に解説し、演習問題に取り組ませる。解説の際には、ただただ漢文の句形のみを扱うだけでなく、古典文法や現代中国語文法、漢字の特殊な読みおよび意味などにも言及し、できる限り覚えやすくなるように工夫する。また、漢文訓読独特の言い回しを身に着けさせるため、漢文の短文を暗唱させる。毎時間、課題として演習問題を課すとともに、さらに各単元が終わるごとに小テストを実施する。このようにして、漢文の基礎である漢文法・句形を習得させる。
２，次に、故事成語のもととなった文章から、戦国諸子百家の文章、漢詩、歴史、散文、小説などに至るまでの各ジャンルの漢文による文章を順に選んで読んでいく。同時に、関連する思想や文学、歴史的事象についても講義し、知識を身に着けさせる。学生には課題として事前にノートに書き下し文と現代語訳を書かせるとともに、分からない語句の意味を調べさせておく。このようにして、漢文の読解力を養うとともに、漢文読解に必要な知識を身に着けさせる。
３，漢文の読解力がある程度身に着くと、漢文の構造について講義した上で、返り点のみの文章や白文の読解に取り組む。これら1～3を通して、漢文を独力で読解できる能力を養い、ひいては漢文読解を伴う研究を行う能力を身につけさせる。

４．教育の成果

〇達成できたこと、できなかったこと：
　これまでに数名の学生が、教育実習の研究授業で漢文を主とする授業を行うなど漢文の授業を行うことのできる学生は育成できた。しかし、自ら進んで漢文の作品を読んだり漢文の白文を独力で読解しようとしたりするような漢文に興味・関心を持ち進んで学ぼうとする学生はいまだ育成できていない。

５．今後の目標

〇短期的目標
受講生の全員が中高国語科の教育実習に行っても恥ずかしくないぐらいの漢文の知識、読解力を身に着けさせる。
〇長期的目標
できるだけ多くの学生に漢文の白文を独力で読解できる能力を身に着けさせ、高等学校国語科教員採用試験合格者、ひいては漢文を用いた研究を行う研究者となるべく関連の大学院進学する者を輩出させる。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	太田　雄久

１．教育の責任

＜担当授業科目＞

・理科指導法
・自然の理解
・基礎ゼミナールⅡ
・教育実習事前事後指導（小）
・教育実習Ⅰ，Ⅱ（小）
・人間教育実践力開発演習Ⅱ
・人間教育実践力開発演習Ⅳ
・教職実践演習（幼・小）
・人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）

２．教育の理念・目的

卒業後１年目から即戦力として現場で指導ができる教員になるための資質・能力の育成と人間性の向上

３．教育の方法

・学生ファーストという名の甘やかしはしない。必要なことは必ず事前連絡（必要な場合は複数回）を行う。
・理科指導法、自然の理解ではテキストとして使用している『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編』を根拠にしながら小学校理科の授業論や内容論について講義を行う。

４．教育の成果

・先述したテキストの内容を根拠にしながら課題やレポートに取り組む学生が増えてきている。

５．今後の目標

・理科指導法におけるオンラインでの観察、実験等を伴った模擬授業の実施
・小学校理科を核としながら教科横断的な視点で小学校での授業づくりを実践できる学生の育成

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・理科指導法、自然の理解のシラバス
・理科指導法、自然の理解の2021年度前期の授業アンケート

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	岡本　恵太

１．教育の責任

・国語科指導法
・教育社会学A（複数担当）
・教育社会学B（複数担当）
・社会学
・人間教育実践力開発演習Ⅲ（複数担）
・教職表現力演習Ⅱ
・人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）
・人間教育学ゼミナールⅡ（応用）
・卒業研究
・教育実習Ⅰ
・教育実習Ⅱ
・進路相談（教員採用試験対策、面接、模擬授業、小論文指導等）
・履修相談

２．教育の理念・目的

人権教育の理念を基盤として、教師として必要なコミュニケーション力、企画力、行動力、課題解決力などの人間力を培うことを目標としている。そのために、次の３点を特に重視している。
①教育実践に生きるように、具体的な方法や筋道を提示する
国語科指導法、表現力演習Ⅱなど、実践力の育成を目指す授業においては、具体的な手立てや方法を身に付けることができるよう指導する。
②実践に生きる形で、理論や考え方を提示する
社会学や教育社会学などの授業においては、教育現場や実社会における実践に結び付けて学問的なものの見方考え方をつかめるよう留意した。
③学生自身が卒卒業論文やレポートにおいて①②を総合できるようにする。

３．教育の方法

①一人ひとりのニーズに即した教育
学生との対話を重視し、その学生の個別のニーズを把握するとともに、一人ひとりに則した具体的なアドバイスを提示できるように支援する。特に、進路指導においては学生の長所を最大限に生かせるよう働きかける。
②理論と実践の結びつきが「目に見える」授業の工夫
すべての授業でプレゼンテーション資料を提示し、理論的な内容も具体的に把握できるようにした。また、国語科指導法では、理論がどのように実践に生きるかを模擬授業などを通して具体的に明らかにした。社会学においても、実生活と理論との結びつきを強調して学習できるようにした。また、学生相互で互いに表現を評価したり、意見を述べ合う場も大切にした。例えば、表現力演習Ⅱでは、互いの文章を赤ペンで評価し合うなど、具体的な活動を通して学べるような場を設定した。
③FD/SD活動等にかかわる内外の研修会への参加
3校の小学校の校内研究会に講師として参加し、最新の教育動向や現場の先生方の工夫について学び、（情報の保護には十分配慮したうえで）授業に生かすよう心掛けた。

４．教育の成果

前期の授業アンケートでは、担当する授業のすべてにおいて「資料の分かりやすさ」「内容の理解のしやすさ」「学生の積極的な参加」について一定の評価を得ることができた。今後は、授業外の学習を生かせるような場を設定するとともに、授業内でのディスカッションを活性化し、授業の満足度をさらに高めたい。

５．今後の目標

〇長期目標
・研究と授業実践の一体化を図る。特に、国語科の実践研究を充実させて、学生に「授業を構想し、実践することのやりがい」を実感させることができるようにしていく。
・理論と実践の一体化を図る。教育社会学の研究を授業実践に生かせるものにしていく。そのために臨床的な研究を一層充実させる。
〇短期目標
・ゼミの学生が個人研究を充実させ、論文としてまとめることができるよう支援する。教育社会学や表現力演習においても授業の成果をレポートなど目に見える形にできるようにする。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

〇研修会の参加状況（小学校の研修会）
・八尾市立北山本小学校（全員参加の国語科授業づくり）
・三田市立三輪小学校（児童の学ぶ意欲を高める国語科の指導）
・宝塚市立安倉北小学校（説明文指導の充実）
※３で述べたように、プライバシー等には配慮したうえで、現場の課題や課題解決のための具体的な取り組みを授業に生かしている。
〇授業のシラバス
・国語科指導法（sheet２に添付）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	荻布　優子

１．教育の責任

私の教育の責任は、小学校教諭および特別支援学校教諭の養成である。私は横浜市リハビリテーション事業団において障害児の発達アセスメントや保護者支援を担う心理士の職を経て、特別支援教育免許状取得に関する心理学領域の担当教員として2019年度秋に着任した。本学では2020年度より特別支援学校教諭免許状の取得が可能となり、関係する科目の開講は2021年度を予定している。そのため現在は主に教職キャリア形成に関する科目や演習科目を担当している。これまでに担当した科目とその内容は以下のとおりである。

①教職実践演習（2019-2020年度）：通常学級における特別支援教育の考え方・ストレスマネジメントなど
②基礎ゼミナールⅠ（2020年度）：アカデミックスキル（特にプレゼンテーションや研究方法の基礎）の習得
③教職表現力演習Ⅰ（2020年度～）：アカデミックスキル（特にレポート作成や小論文作成）の習得
④教育実習事前事後指導（2020年度）：教育実習に臨むにあたっての知識とスキルの習得、今後の教育実践に活用できる知識とスキルの習得
⑤人間教育学ゼミナールⅠ（2020年度～）：子どもの発達・発達障害や知的障害の認知特性・発達障害児の指導法など

２．教育の理念・目的

私は公認心理師であり、心理学的な観点から教育や学生支援を実践している。青年期における重要な発達課題はアイデンティティの確立であることを前提とし①科学的なものの見方を身に付け根拠に基づいて自身の意見をもつ②柔軟に様々な価値観を受け入れられるしなやかな心をもつ③自律的な学習態度をみにつける、の3点を重要視している。

３．教育の方法

上述の教育の理念・目的の達成のための具体的な方法として、1年次通年科目である教職表現力演習では以下のように授業を行っている。

教職表現力演習Ⅰは教師としての必要な書く力を身に付けることを目的としている。本学は書くことへの苦手意識の高い学生が多い印象を受ける。そこで入学直後の学生に対して教育時事に関する新聞記事を提供し、様々な教育に関する知識をつけ、毎時間その記事（＝事実）に基づいた意見を小論文にまとめる課題に繰り返し取り組ませる。感想や疑問に留まらず自分なりの意見を述べたり根拠を明確にして新たな提案をするよう促し、そのどのような意見も提案も受け止め、意見や提案を文字で表現できたこと自体を肯定的に毎時間フィードバックしている。また書き上げた小論文を学生同士が読み合う時間を設けている。教員を志望する学生に「互いの小論文を評価する」活動として伝えると批判的な感想に偏り何かしら指摘せねばならないという思いに駆られる様子があるため、様々な意見があることを受け止め、自分が取り入れたいと感じたことやよりよくするための提案として肯定的な表現でコメントシートに書き込み交換する活動を繰り返し行い、様々な価値観に触れそれを受け入れるきっかけとなることを目指している。さらに段階的に自ら新聞記事を集め情報を吟味することを事前学習として課すことで主体的に知識を増やし、全ての小論文を添削し必ず具体的な改善策を提案することで各々の目標に合わせて自律的に学習に取り組む態度を育成しようと試みている。

また公認心理師として青年期の発達課題に適切に対応するため、心理系学会へ所属し継続的に研修に参加し、日々の学生支援に役立てている。

４．教育の成果

これまで担当した科目はすべて授業評価アンケートの対象外であり、学生からの客観的評価については不明である。講義中や学生対応の際の学生からの反応をみると、指摘だけでなく具体的な提案があるためより課題への取り組み方がわかりやすい、自分の考えを整理するまで時間をかけて対応があるため納得ができる、様々な提案や考え方の選択肢が示されるためその中から自分に最も適切である方法を納得して選ぶことができる、などの感想を得ている。このことから、様々な価値観を受け入れたうえで自分自身の意見を持つことに、一定の効果を示していると考える。

５．今後の目標

2021年度から特別支援学校教員免許の取得に関わる科目が開講されることから、専門性を生かし、特に関連する心理学領域について児童生徒の実態と関連付けながら学生に障害に関する知識を教授し、正しい知識（＝根拠）を得ることにより偏見や差別をすることなく様々な多様性を当たり前に受け入れられるしなやかな心を持ち合わせた教員養成を実践していきたい。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

大学HP、WEB シラバス参照

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	オチャンテ　カルロス

１．教育の責任

本学担当科目

①外国語の指導（英語、スペイン語）

英語関連科目では４技能を活かした外国語指導を行っている。スペイン語の授業ではロマンス語の世界（言語と文化）を紹介し、日本語との外国語比較を常に行っている。

・英会話I　（150人）
・英会話II　（150人）
・スペイン語会話　（６人）
・スペイン語基礎I　（６人）
・スペイン語基礎II　（４人）

②小学校で外国語（英語）を指導行うための授業

・小学校低学年では話す・聞くの指導、高学年では、読む・書くの外国語指導を行っている。
・外国語の理解　（130人）
・外国語科の指導法・小学校外国語活動の指導法（130人）

③異文化理解。国際理解の指導

・異文化コミュニケーション論　（4人）

④研究及びキャリア（進路）指導

・人間教育学ゼミナールI　（3人）

⑤英会話におけるSA（スチューデント・アシスタント）の活動

・教員を目指す学生をSAとして設け、英語指導力を身につけさせる指導を行っています。
SA活動を通して英語指導に自信が身につけ、後輩へのロールモデルとしての役割を果たしている。

⑥４回生への採用試験、英語対策、ICT指導

・４回生対象に教員採用試験の英語対策講座をEXの形式で行っている。
・４回生対象に採用試験で求められるICT力の指導を行っている。

２．教育の理念・目的

人間教育学部として「人間」または「良い教育者」目指すため、新しい時代において視野の広い学生の育成を授業で目指しています。

今後グローバル社会の中で多言語や他民族においての国際理解、多文化共生への理解（価値観）を深めることを常に意識しながら生活できる学生の育成を目指し、近代社会におけるICT教育の円滑な適応能力の育成を目指している。

３．教育の方法

①指導者が外国籍のため、これまでの経験を活かして、国際理解、多文化、多言語においての多面的な視点で指導を行っている。

外国語として英語指導の関連科目では英語、スペイン語や日本語との比較を常にし、学生の外国語における視野を広げることに
力を入れています。

具体的にそれぞれの言語の特徴（文法や文化など）を用いて外国語の共通点や違いを理解させることによって言語理解だけでなく、
母語である日本語に対しての考え方、理解を見つめ直すことになっている。これらをもって異質への理解を迎えることで異文化への
理解の促進も得られている。

②全ての授業におけるICT教育の取り組み（情報リテラシー）

これまでICT教育を活かして、学生の授業内外で学習などのマネジメントを行ってきました。

授業は全てGoogle ClassroomまたはMicrosoft Teamsで授業資料、課題管理、学生の意見共有などを行っている。現在、世界でこのよう な
プラットフォームを活かすことが近代の風習であり、学生の情報リテラシーの促進が求められる社会としての価値だけでなく、学生の
ニーズ、学習ペースにも大きく貢献していると言われている。授業ではノート作りやメモの取り方を強く推奨しながらもグループワークや
クイズではスマートフォンを有効な使い方に力を入れた授業を行っている。

③アクティブラーニングを活かした学習環境作り

授業ではグループ・ディスカッション、ディベートまたグループ・ワークを活かして、学生の能動的な学習を目指した授業作りを
行っている。これらの取り組みでは学生同士の仲間作り以外に、プレゼンテーション力や意見の出しやすさの環境作りを目指している。

４．教育の成果

① 英語４技能における実践
　履修学生が多い科目では実践できる時間が限られる。そのためリスニングやスピーキングにおいての実践課題としてオンラインでリスニング
　課題（ビデオ＋プリント）を設け、また、スピーキングとして自己録画の提出を求めています。学生はこれらの課題を提出させ（グーグル
　クラスルーム）教師がチェックと評価をスムーズに行うことが可能。学生はペアーや一人で作成した動画では練習を重ねて行ったりすることで
　実践的な英語学習が毎回行うことができた。

②言語の理解を深めることで外国語への好奇心を促すような授業の作り方（外国語指導法）を模擬授業で実践された。
　模擬授業では音声指導を扱い、日本語と英語の音素の違いから英語指導ではフォニックスを取り扱う実践的な指導を行った。
　英語教材における国際理解・異文化理解の要素を理解するために異文化教育の基本を導入し、グローバル社会における
　多言語の実態を理解できた。英語力がない学生は英語関連の科目だけでなくスペイン語の科目でも付いていけない課題があるため今後は
　学習プリントや復習課題をより充実したいと感じる。

③ICTによる資料の最適化、課題の提出率の向上
　授業で取り扱った資料にはビデオや音声を取り扱った。外国語指導するためには音声や顔（口）の様子を確認することが不可欠なため、
　Youtubeでオンデマンド授業を行っている。オンラインでの資料は学生の学習ペースに合わすことが可能にすることで様々なニーズに対応
　が可能になりました。
　課題においてオンラインで提出が可能にした（グーグル・クラスルーム）。授業で取り扱うノートやプリントをオンラインで提出させる
　ことで管理をし易くなるだけでなく、学生が提出しやすい形式になったことでスマートフォンあればいつでも課題を提出ができ評価や
　コメントなども加えることで学生のと授業の外でのコミュニケーションは可能になる。課題の管理は教師だけでなく学生自身も確認が
　取れるので実際に課題の提出率が向上した。全ての学生のパソコンとインターネット環境は整っていない課題であるため、今回の授業で支障は
　なかったが、パソコンを使いこなしている学生とそうでなはない学生の情報リテラシーは今後指導をもっと徹底的に行いたいと感じる。

５．今後の目標

　外国語の実践できる場
　・今後の授業では他大学とのコラボレーションで英語の実施的な場を設けたい。
　・英語学習の場としてエクステンションまたはサークルで英語学習のできる場を設けたい。
　ICT指導の推進
　・今後、教育現場で求められるデジタルリテラシーの育成に繋がるように授業で様々な展開を工夫し、アクティブラーニングとICTを混合した
　　授業作りを目指したい。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

シラバスの添付
・英会話I
・外国語の理解
・小学校外国語活動の指導法・外国語科の指導法

授業評価アンケート結果の添付
・外国語の理解
・外国語科の指導法

講義科目名称： 英会話Ⅰ　　授業コード：21103　22103　51103　52102

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
オチャンテ　カルロス			
火・1 火・2 金・1 金・2			
添付ファイル			
人間教育学部 人間教育学科 カリキュラムマップ.pdf			

授業の目標・概要	日常の生活をはじめとして、学校生活や友人との会話など様々な場面で英語を利用できるよう多様な場面を想定し、会話に必要な文法・語彙にもできるかぎり焦点を当てられるように工夫しながら、自分の意思を正しく相手に伝える力の習得を目指す。また、英米などの文化や習慣にも興味が持てるよう配慮し、相手を理解しようとする態度を養成する。受講生が自信を持って英語を使用し、様々な人とコミュニケーションをとっていくための英会話の基礎編となる授業である。
学習の到達目標	基本的な文法を軸に「読み，書き，聞く，話すの4 技能」のすべての面で，コミュニケーション能力を高める。
授業方法・形式	1. それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。 2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。
授業計画	第1回　Greetings/Introductions （挨拶と自己紹介） 挨拶表現、be動詞・一般動詞の使い方 第2回　Introduction （他己紹介） 現在形を使い、現在の行動・習慣を述べる 第3回　What did you do? （過去の出来事） 過去形を使った表現 第4回　What are you doing? （現在の行動） 進行形・未来を使った表現 第5回　What is it? （物の説明） 助動詞（推量・可能性）を使った表現 第6回　Giving advice （助言する） 助動詞（義務・責任・助言）を使った表現 第7回　Making questions 1 （許可・依頼） 助動詞（質疑応答：許可・依頼・提案の表現） 第8回　Making questions 2 （提案） 助動詞（質疑応答：提案の表現） 第9回　Show and tell （自分の物や経験について） 可算・不可算名詞、冠詞、形容詞を使った表現 第10回　Shopping （買い物） 可算・不可算名詞、代名詞、数量（金額） 第11回　Where is ~? （故郷や学校について） 場所の説明：前置詞、地図を使って 第12回　Where is ~? （街中や建物の中） 場所の説明：前置詞、行き方を伝える 第13回　What’s the matter? （健康・病気について） 助動詞と形容詞 第14回　How do you do that? （やり方・方法について） 動詞と副詞 第15回　Review （復習）
成績評価の基準	授業内の受講態度・小テスト・スピーキングテスト等（50%）、総合的な理解を確認する学期末テスト（50%）に基づいて判断する。
準備学習・復習及び授業時間外の課題	1．各講義における課題をシラバスを通して理解し、中高の教科書や副読本などを活用して復習しておく。 2．各講義後に学んだ英文法・文章について、声に出しながら復習し、わからない部分は文法書等で調べておく。 3．各講義後の復習に時間をかける。
履修上のアドバイス及び留意点	単語と英文法が基礎となって，英会話が成り立ちます。英語基礎力を上げるよう，日々英語に楽しく触れていってください。
教材・教科書	テキスト：授業中に指示する
参考書	『Getting into English』Joseph Cronin（著）、Eric Bray（著）NAN’UN-DO
実務経験のある教員による授業	

講義科目名称： 外国語の理解　　授業コード： 31103　33103

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択
担当教員			
オチャンテ　カルロス			
水・1 水・3			
添付ファイル			
人間教育学部 人間教育学科 カリキュラムマップ.pdf			

授業の目標・概要	まず，英語運用力としてクラスルームイングリッシュやフォニックスなどを扱い，「聞くこと・話すこと〈やり取り・発表〉・読むこと・書くこと」に関する知識を身に付ける。次に，英語の背景知識については，理論を学び，それをアウトプットできるように配慮した主体的・対話的な授業となる。
学習の到達目標	小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用力と英語の背景知識を身に付ける。英語運用力に関しては授業場面を意識すること，英語の背景知識については音声などの基本的知識から第二言語習得，児童文学，異文化理解を学ぶことを目標とする。
授業方法・形式	
授業計画	第1回　外国語の理解とは何か。 自分の英語力を知る（聞くこと・話すこと〈やり取り・発表〉・読むこと・書くこと） 第2回　音声に関する基本的な知識（母音・子音の出し方） 歌・チャンツの指導（聞くこと・話すこと）１ 第3回　音声に関する基本的な知識（英語の発音ルールについて） 歌・チャンツの指導（聞くこと・話すこと）２ 第4回　フォニックスに関する基本的な知識（基礎） クラスルームイングリッシュについて（聞くこと・話すこと）１ 第5回　フォニックスに関する基本的な知識（発展） クラスルームイングリッシュについて（聞くこと・話すこと）２ 第6回　文構造・文法に関する基本的な知識（日本語との違い） 外国語活動・外国語を想定した活動を体験しながらの英語のやり取り（発表１）（聞くこと・話すこと） 第7回　文構造・文法に関する基本的な知識（時制などの外国語で取り扱う文法事項） 外国語活動・外国語を想定した活動を体験しながらの英語のやり取り（発表２）（聞くこと・話すこと） 第8回　語彙に関する基本的な知識 外国語活動・外国語を想定した活動を体験しながらの英語のやり取り（発表３） 第9回　第二言語習得に関する基本的な知識（インプット仮説・アウトプット仮説） 絵本の読み聞かせ（聞くこと・話すこと・読むこと）１ 第10回　第二言語習得に関する基本的な知識（発達理論） 絵本の読み聞かせ（聞くこと・話すこと・読むこと）２ 第11回　児童文学に関する基本的な知識 絵本の読み聞かせ（聞くこと・話すこと・読むこと）３ 第12回　異文化理解に関する基本的な知識 自己紹介・地域紹介・学校紹介等の発表（話すこと） 第13回　異文化コミュニケーションに関する基本的な知識 目的に応じたALTとの会話について（話すこと） 第14回　正書法に関する基本的な知識 板書における英語の正しい表記（書くこと） 第15回　外国語の理解に関するまとめ 「聞くこと・話すこと〈やり取り・発表〉・読むこと・書くこと」とは何か。
成績評価の基準	小レポート・小テスト(40%)、授業内発表(20%)、定期試験(40%)を総合的に判断する。
準備学習・復習及び授業時間外の課題	
履修上のアドバイス及び留意点	
教材・教科書	随時プリント配布
参考書	授業内で紹介
実務経験のある教員による授業	

講義科目名称： 小学校外国語活動の指導法　　授業コード：22157　23159

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
オチャンテ　カルロス			
火・2 火・3			
添付ファイル			
人間教育学部 人間教育学科 カリキュラムマップ.pdf			

授業の目標・概要	実践研究の授業の視聴や第二言語習得の理論，指導技術についての解説を聞き，「主体的・対話的で深い学び」を目指した外国語の授業について学習する。次に、学習指導案を作成しそれに基づいた模擬授業を行うことにより英語授業の実践力を身に付ける。さらに、授業後は，振り返りとして，質疑応答と指導助言の時間を設け工夫されていた点や改善点などについて全体で討議する。
学習の到達目標	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の授業実践に必要な知識の理解を深め，評価を含めた基本的な指導技術・指導案作成力・英語授業力を身に付ける。さらに，多種多様な児童の状況に合わせた外国語指導について考え，中学校への学びの基礎を作ることを意識する。
授業方法・形式	
授業計画	第1回　外国語科教育の目標と内容 学習指導要領の総則及び外国語活動・外国語の目標、内容などを基に学習指導要領のポイントについて 第2回　小学校の役割と児童への対応 小・中・高等学校の連携と小学校の役割、児童や学校の多様性への対応について 第3回　児童期の第二言語習得の特徴１ 言語使用を通した言語習得，児童の発達段階を踏まえた質のいいインプット等について 第4回　児童期の第二言語習得の特徴2 コミュニケーションの目的，音声から文字へと進むプロセス，国語教育との連携等について 第5回　児童期の第二言語習得の特徴を生かした授業のDVD視聴とディスカッション 第6回　英語での語りかけ DVD視聴と実践練習 第7回　児童の発話の引き出し方，児童とのやり取りの進め方 DVD視聴と実践練習 第8回　文字言語との出会わせ方，読む活動・書く活動への導き方 絵本を用いた実践練習と板書の仕方 第9回　学習指導要領に基づいた学習指導計画と評価 学習指導計画の作成上の留意事項や単元指導計画、学習指導案の作成について 第10回　主教材と補助教材の選定 題材の選定，教材研究，ICT等の活用について 第11回　ティームティーチング ALTとのティームティーチングによる指導の在り方 第12回　模擬授業（中学年） 第13回　模擬授業（高学年） 第14回　模擬授業（振り返り） 第15回　主体的・対話的で深い学びに向けた外国語指導科についてのまとめ 外国語教育の実践的な指導をめざす観点からの振り返り
成績評価の基準	小レポートと小テスト(30%)、指導案作成・模擬授業(30%)、定期試験（40%)を総合的に評価する。
準備学習・復習及び授業時間外の課題	
履修上のアドバイス及び留意点	
教材・教科書	文部科学省「小学校学習指導要領」、「小学校学習指導要領解説」「外国語活動編」「外国語編」（平成29年告示）
参考書	授業内で随時紹介
実務経験のある教員による授業	

2020年度　　授業評価アンケート(集計表)

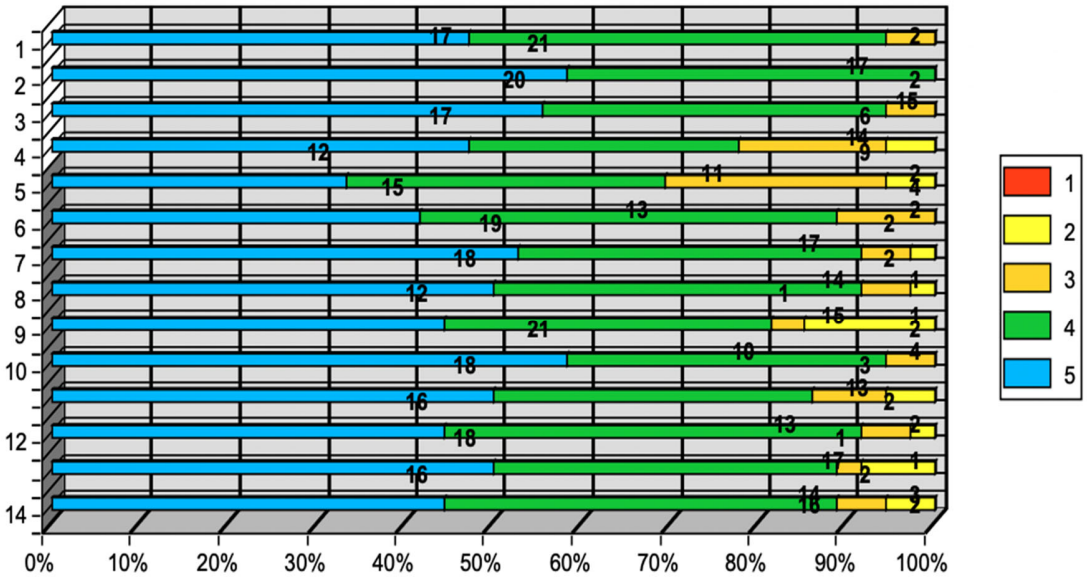
開講年度　　2020年度　　水曜日１時限　　オチャンテ　カルロス

外国語の理解

アンケート総数　　36 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:あまりそう思わない	2:そう思わない	1:

	評価	5	4	3	2	1	平均
1 . (1)この授業に対する受講意識は高かった。	集計	17	17	2	0	0	4.42
2 . (2)この授業を受けるにあたって、受講マナーを守っていた。	集計	21	15	0	0	0	4.58
3 . (3)この授業を理解するために授業時間外の学修（予習・復習・宿題・レポー	集計	20	14	2	0	0	4.5
4 . (4)授業の目標、内容評価法などを示したシラバス（講義要項）は、この授業	集計	17	11	6	2	0	4.19
5 . (5)この授業は自分にとって難しかった。	集計	12	13	9	2	0	3.97
6 . (6)この授業で提示された資料はわかりやすかった。	集計	15	17	4	0	0	4.31
7 . (7)この授業の先生の説明は分かりやすかった。	集計	19	14	2	1	0	4.42
8 . (8)この授業の話し方は聞き取りやすかった。	集計	18	15	2	1	0	4.39
9 . (9)この授業は学生の理解度を確認しながら進めていた。 ※オンデマンド授	集計	12	10	1	4	0	4.11
10 . (10)この授業は集中して取組むことができた。	集計	21	13	2	0	0	4.53
11 . (11)この授業は授業以外の学修（予習・復習・宿題・レポート・自主的な課	集計	18	13	3	2	0	4.31
12 . (12)この科目に対する教員の熱意や意欲が感じられた。	集計	16	17	2	1	0	4.33
13 . (13)この授業の教員は授業時間を有効に使っていた。	集計	18	14	1	3	0	4.31
14 . (14)この授業は総合的にみて満足のいくものだった。	集計	16	16	2	2	0	4.28



2020年度　　授業評価アンケート(集計表)

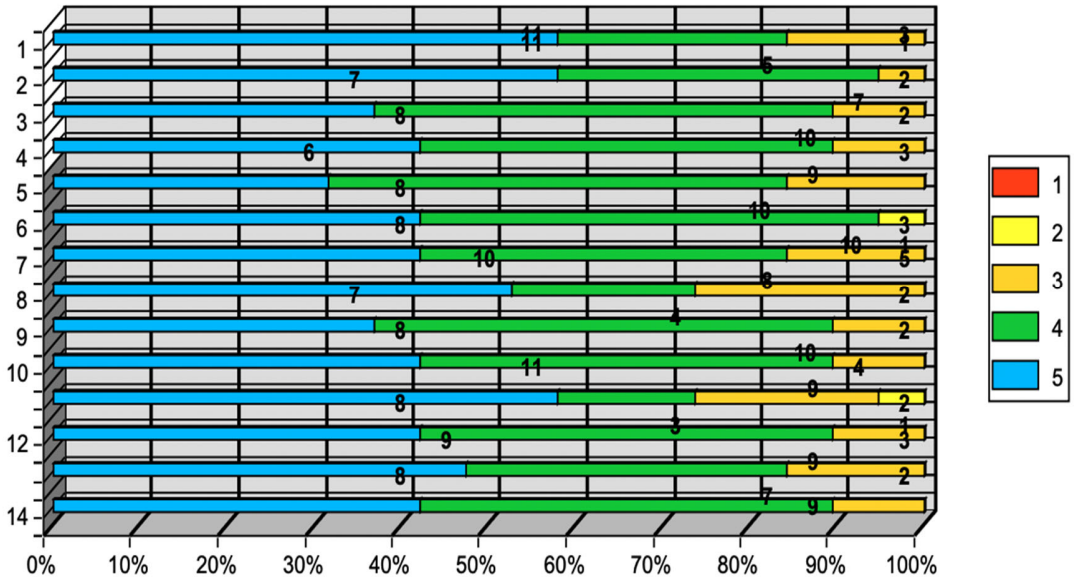
開講年度　2020年度　　火曜日2時限　　オチャンテ　カルロス

外国語科指導法

アンケート総数　19 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:あまりそう思わない	2:そう思わない	1:

	評価	5	4	3	2	1	平均
1 . (1)この授業に対する受講意識は高かった。	集計	11	5	3	0	0	4.42
2 . (2)この授業を受けるにあたって、受講マナーを守っていた。	集計	11	7	1	0	0	4.53
3 . (3)この授業を理解するために授業時間外の学修(予習・復習・宿題・レポー	集計	7	10	2	0	0	4.26
4 . (4)授業の目標、内容評価法などを示したシラバス(講義要項)は、この授業	集計	8	9	2	0	0	4.32
5 . (5)この授業は自分にとって難しかった。	集計	6	10	3	0	0	4.16
6 . (6)この授業で提示された資料はわかりやすかった。	集計	8	10	0	1	0	4.32
7 . (7)この授業の先生の説明は分かりやすかった。	集計	8	8	3	0	0	4.26
8 . (8)この授業の話し方は聞き取りやすかった。	集計	10	4	5	0	0	4.26
9 . (9)この授業は学生の理解度を確認しながら進めていた。 ※オンデマンド授	集計	7	10	2	0	0	4.26
10 . (10)この授業は集中して取組むことができた。	集計	8	9	2	0	0	4.32
11 . (11)この授業は授業以外の学修(予習・復習・宿題・レポート・自主的な課	集計	11	3	4	1	0	4.26
12 . (12)この科目に対する教員の熱意や意欲が感じられた。	集計	8	9	2	0	0	4.32
13 . (13)この授業の教員は授業時間を有効に使っていた。	集計	9	7	3	0	0	4.32
14 . (14)この授業は総合的にみて満足のいくものだった。	集計	8	9	2	0	0	4.32



2020年度　　授業評価アンケート(集計表)

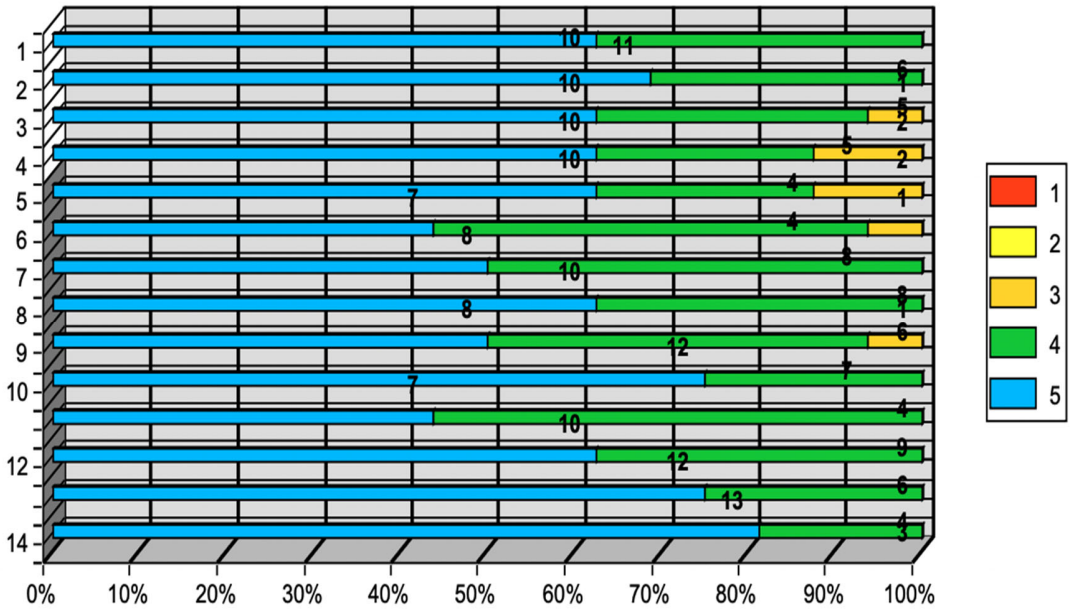
開講年度　2020年度　　火曜日3時限　　オチャンテ　カルロス

外国語科指導法

アンケート総数　16 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:あまりそう思わない	2:そう思わない	1:

	評価	5	4	3	2	1	平均
1 . (1)この授業に対する受講意識は高かった。	集計	10	6	0	0	0	4.63
2 . (2)この授業を受けるにあたって、受講マナーを守っていた。	集計	11	5	0	0	0	4.69
3 . (3)この授業を理解するために授業時間外の学修(予習・復習・宿題・レポー	集計	10	5	1	0	0	4.56
4 . (4)授業の目標、内容評価法などを示したシラバス(講義要項)は、この授業	集計	10	4	2	0	0	4.5
5 . (5)この授業は自分にとって難しかった。	集計	10	4	2	0	0	4.5
6 . (6)この授業で提示された資料はわかりやすかった。	集計	7	8	1	0	0	4.38
7 . (7)この授業の先生の説明は分かりやすかった。	集計	8	8	0	0	0	4.5
8 . (8)この授業の話し方は聞き取りやすかった。	集計	10	6	0	0	0	4.63
9 . (9)この授業は学生の理解度を確認しながら進めていた。 ※オンデマンド授	集計	8	7	1	0	0	4.44
10 . (10)この授業は集中して取組むことができた。	集計	12	4	0	0	0	4.75
11 . (11)この授業は授業以外の学修(予習・復習・宿題・レポート・自主的な課	集計	7	9	0	0	0	4.44
12 . (12)この科目に対する教員の熱意や意欲が感じられた。	集計	10	6	0	0	0	4.63
13 . (13)この授業の教員は授業時間を有効に使っていた。	集計	12	4	0	0	0	4.75
14 . (14)この授業は総合的にみて満足のいくものだった。	集計	13	3	0	0	0	4.81



2021年度　　授業評価アンケート(集計表)

開講年度　2021年度　　金曜日1時限　　オチャンテ　カルロス

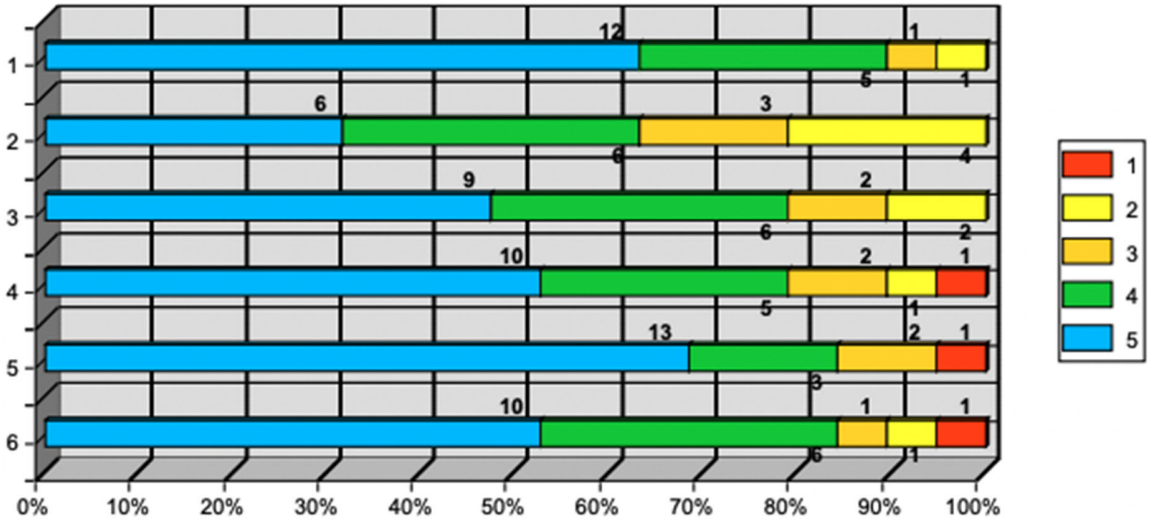
英会話Ⅰ

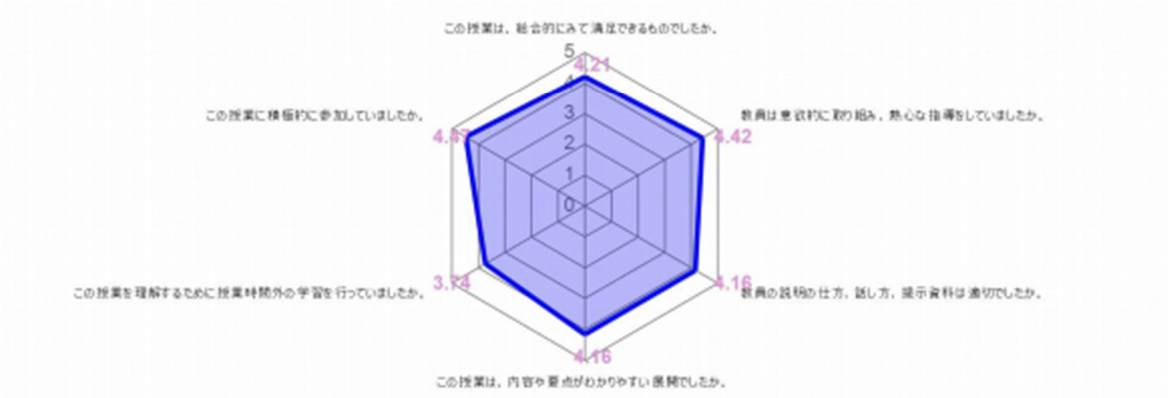
アンケート総数　19 枚

5段階評価	5:そう思う	4:ややそう思う	3:どちらともいえない	2:あまりそう思わない	1:そう思わない

1．この授業に積極的に参加していましたか。
2．この授業を理解するために授業時間外の学習を行っていましたか。
3．この授業は，内容や要点がわかりやすい展開でしたか。
4．教員の説明の仕方，話し方，提示資料は適切でしたか。
5．教員は意欲的に取り組み，熱心な指導をしていましたか。
6．この授業は，総合的にみて満足できるものでしたか。

評価	5	4	3	2	1	平均
集計	12	5	1	1	0	4.47
集計	6	6	3	4	0	3.74
集計	9	6	2	2	0	4.16
集計	10	5	2	1	1	4.16
集計	13	3	2	0	1	4.42
集計	10	6	1	1	1	4.21





ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	高橋　千香子

１．教育の責任

保育士資格および幼稚園教諭免許取得にかかわる科目を担当している。臨床心理士として児童家庭相談に従事していた経験を生かし、子どもの心理発達、保育相談、子育て支援などを学ぶ科目を主に担当している。令和２年度に単独で担当した専門科目は、「保育相談支援」、「保育の心理学Ⅱ」、「臨床心理（保健医療学部リハビリテーション学科専門科目）」である。また、専門演習科目の「保育実践演習」「教育実践演習（幼）」を複数で担当している。この他、本学独自に設定された専門演習科目の「基礎ゼミナールⅡ」、「人間教育実践力開発演習Ⅱ」、「教職表現力演習Ⅱ」を担当し、アカデミック・スキルの他、保育者として必要な表現力や学校支援ボランティアを通した対応力、総合力としての保育実践力を育成している。

学生支援では、幼稚園専修の2回生担任（「基礎ゼミナールⅡ」担当）として、学習面や生活面へのサポートや相談等に応じている。また、臨床心理士および公認心理師有資格者として、本学の学生相談室カウンセラーを担当している。主な担当は登美ヶ丘キャンパスの保健医療学部学生であるが、必要に応じて三郷キャンパスの人間教育学部学生の相談にも対応している。

２．教育の理念・目的

まず、本学の教育理念にある「誠実で協調性のある、心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材」を育成したいと考えている。具体的には、一人一人の子どもや保護者と専門家として誠実に向き合い、さまざまな体験の中で喜びだけでなく苦しみにも共感し、発達促進的に関わり、共に成長していける保育者を養成したい。また、良い時も悪い時も自らの状況を受け止められる心の柔軟性をもった人になってほしいと考える。そのために、生涯を通して、変化を怖れず、学び続けることのできる人材を育成したいと考えている。

３．教育の方法

学生とはつねに誠実に向き合い、学生の話を良く聞くことを心がけている。授業では教授内容が学生にきちんと伝わっているか、学生の視点を持ちながらすすめるようにしている。学生に伝わる言葉を考え、質問に対しては丁寧に応答するとともに、学生自らが考え、答えを導き出すことができるよう心がけている。パワーポイントや資料についても、見やすさを考えて作成している。

授業における工夫としては、「保育の心理学Ⅱ」や「保育相談支援」では、保育における子どもの遊びや生活の場面、保護者からの親子関係についての相談の場面等の事例をもとに、保育者として適切な理解と関わりのあり方について全員で考える事例学習を重視している。まず、自分がその立場だったらどのように感じ、考えて行動するかを各自で考え、文章にした後、隣同士やグループでディスカッションし、最後に全体に向けて発表する。この方法により、他者の多様な考えを知り、自らの考えと照らし合わせることで、保育者としての思考力や対応力を高めることができると考えている。カウンセリングを学ぶ単元では、３人一組になり、ロールプレイを通して「相談者」「保育者」「観察者」を体験し、振り返ることを通してメタ認知を賦活させ、自己理解を深めるとともに実践力につながるよう工夫している。このように、授業では思考することや対話を通した学びを重視している。

また、臨床心理士・公認心理師として自らのスキルの維持向上に努めるため、大学教員の傍ら子ども家庭相談の臨床実践を継続している。学会やセミナー、複数の定期的な研究会や勉強会に参加し、自ら学び続けることを実践している。

４．教育の成果

「保育相談支援」「保育の心理学Ⅱ」の授業評価アンケート（5点満点）では、「授業の資料は分かりやすかった」は各々4.67と4.5、「先生の説明は分かりやすかった」「話し方は聞き取りやすかった」は4.73と4.58、「学生の理解度を確認しながらすすめていた」は4.67と4.58という結果で概ね高得点であり、教育方法についてはほぼ達成できたと考えている。授業の総合的満足度は「保育相談支援」は4.67、「保育の心理学Ⅱ」は4.67、「臨床心理」は4.45であった。一方、今年度はコロナの影響でほぼ遠隔授業となり、学生同士がディスカッションする時間を十分取ることができなかった。対話による学習をどのようにすすめていくか、今後の課題である。

５．今後の目標

短期的目標は、事例学習において、テキストや資料に掲載された事例だけでなく、昨今の保育現場でよく出会う、時代の変化に即した事例をより多くリサーチし、学生に提示したいと考える。また自らの臨床実践の経験を、より学生に伝わるように話すにはどうすればよいか、教員としての表現力を高めていきたいと思う。

長期的目標としては、保育現場の求める保育者の資質や能力、およびそれらの養成方法を研究し、授業内容や学生支援に生かしていきたいと考えている。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・シラバス、授業評価アンケート　（アクティブアカデミー内にあるため添付は省略します）
・登美ヶ丘キャンパス学生相談室の案内（令和2年度、学生に向けて発信した内容）
・学会、セミナー、研究会、勉強会への参加状況・・・令和2年度は、学会は中止となった。セミナー１回、継続研究会10回、継続勉強会6回参加（案内の文書等はなし）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	西川　弘展

１．教育の責任

経済学を専攻する教員として、旧・経済学部およびビジネス学部において、「マクロ経済学」、「公共経済学」、「経済変動論」、「経済学史」、「基礎数学I・II」等の授業を担当してきた。人間教育学部および保健医療学部では、「社会科学の基礎」を担当してきた。今後、人間教育学部では、「基礎ゼミナールI」、「教職表現力演習」の副担任として、教育にあたることになっている。

またこの間、他大学（近畿大学、天理大学、龍谷大学、大阪市立大学、大阪府立大学）で非常勤講師等として経済学関連の授業を担当し、他大学においても教育に従事してきた。このことは、個々の学生の多様性に柔軟に対応する力を高めるのに役立っている。

２．教育の理念・目的

教育活動では、大学での学問的実践を通じて、卒業後の社会生活において、ときには必要な知識を適切に探しながら参照し、社会の仕組みを理解しつつ、身の回りの課題について自分なりに考えて、困難を切り開いて行けるような柔軟で確かな力を養って欲しいと考えている。

そのために、（１）現実的・実践的課題などと関連付けながら、それぞれの科目への受講者の関心を引き出すこと、（２）それぞれの科目の基礎的な重要事項を習得すること、その上で（３）受講者なりに知識を取り込んで学んだ知識を活用できるようなること、の３点を重視してきた。これら３点に重点を置いたのは、関心がなければ主体的に学習を行うことができず、関心を持っていても基礎的なことを学ばなければ肝心なところに到達できず、また知識を活用して初めて意味のある学びに到達できるという理由による。

（１）については学問の成り立ちをよく知り学問の課題と限界を知るとともに、教養を深めることに役立ち、（２）と（３）については、単に正解や模範解答を丸暗記するのではなく、たとえばわかるまでテキストを読んだり、他の資料に当たったり、友人や教員に質問したり議論をするという形で、学問に取り組みながら自分なりの理解に到達することで、受講者一人一人の今後の力につながってくると考えている。

３．教育の方法

授業は、板書中心で補足資料を配布しながら行っていたが、昨今のIT環境の整備に合わせ、パワーポイントやファイル共有システムなどを利用して、学修機会を拡大させ、学修効果を高める工夫をしている。また時に授業内容と関連する視聴覚教材を用いて実践的な事例を示すことがある。また学問の成立や学問の変革に寄与した人物や歴史的背景についても詳しく紹介するように努めている。

授業で行う事項については、わかりやすい事例を示しながら、できるだけ細かく分解して一つずつ教え、次に分解された諸要素を総合して把握できるように工夫している。また授業後に授業内レポートの提出を求めたり小テストを行うことで基礎知識の習得が段階的になされるよう配慮している。さらに教科書ないし参考文献を指定し、教科書の要点を端的に明示して、自学自習に役立てられるように配慮している。

課題を示して、それについてグループ・ワーク（議論・共同作業）を行ってもらい、それらの成果に対し、到達点と改善点、今後取り組むべき課題を示すようにしている。学生指導については、提出物等への継続的なフィードバックを心がけ、各自の到達点を客観的に示すとともに、今後の学習の留意点を具体的にアドバイスするようにしている。

成績評価は、学習の取り組み状況を示す平常点、期末レポートないし期末試験などを考慮して、客観的かつ総合的に行っている。

４．教育の成果

授業評価アンケートにおける満足度は、概ね「とても満足している」「満足している」となっていると認識している。
また担当している授業に関しての自習時間についても１時間～２時間の範囲で概ね確保されていると認識している。

こうした中で、受講者は、自学自習と組み合わせることで、受講前に比べ知識と理解が大きく深まったとの声を寄せてきている。また、新しい内容を学べて刺激になったとか、内容がわかりやすい、今後も学修を続けたいという声も多い。

他方、私が行っている授業を不親切であるとして、自学自習での知識の習得に不安を感じ、いっそう網羅的体系的で懇切丁寧な一方的な授業を要望する声があったり、模範解答そのものを求める声が寄せられることがある。こうした声は、一面では、学問の本質である一定の通説は存在しても模範解答がないこと、ここからここまでという範囲が明確に定められていないことへの理解不足にあると考えられる。大学での学問の特性や本質、および学問実践の有効性を具体的に説明し、受講者のこうした不安や不満を丁寧に解消させながら、各自の自立した学修へつなげていくことが、今後の課題である。

５．今後の目標

短期的目標・長期的目標
担当科目である「社会科学の基礎」でも取り扱ったが、たとえばJ.S.ミルは主著の『経済学原理』で教育について異例とも言える分量で包括的に議論している。他方で、現代では人的資本論を中核とした教育経済学という分野が存在している。長期的・歴史的な観点から人間の解放を標榜したJ.S.ミルの『自由論』ともつながる伝統的経済学で取り扱われてきた教育論は、宇沢弘文が提唱した現代の社会的共通資本論の源流でもあり、人的資本論を中核とする教育経済学との間には大きな隔たりがある。こうした問題を認識しつつ、社会と人間に対する深い理解に根ざしながら、教育の社会的・人間的役割について、考えられるような授業内容を構想したい。

数学コースの学生に対しては、数学の応用事例としての経済理論ないし経済モデルに則して、学問の中でもとりわけ論理的厳密性を徹底して重視する数学は、学問として普遍的な価値を持っていること、それゆえ経済学は、理論の首尾一貫性・論理的整合性を確認するために数学がよく用いられることを伝えるながら、数学の意義を確認した上で、数学学習へのモチベーションが高められるような授業内容を構想したい。

長期的目標
教員養成課程の教員として継続的に研鑽を重ねていきたい。

- **必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）**

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	前田　綾子

１．教育の責任

〇子どもと言葉
〇子どもと言葉の指導法
〇基礎ゼミナールⅠ
〇教職表現力演習Ⅰ
〇人間教育学ゼミナール（基礎）
〇人間教育学ゼミナール（応用）
〇保育所実習指導ⅠⅡ
〇保育者論
〇保育実践演習
〇保育実習・保育士採用試験個別指導

２．教育の理念・目的

〇保育現場に出たときに即戦力となる理論と実践力をもつ保育者を育成する。
〇子どもを権利の主体者として尊重する人権感覚を養う。
〇学生一人一人の人権を尊重し、認めながら指導を行うことで学生の自己肯定感を育む。

３．教育の方法

〇自分の保育現場にいたときの体験や実際の子どもや保護者の姿を具体的に伝えながら教科の授業を行い、学生が保育の現場をイメージしながら学べるようにする。
〇できるだけ学生に話しかけるようにして、コミュニケーションをとり、何かあったときに相談できるような関係を一人一人と築く。
〇学生の発表に対して共感や肯定の言葉をかける。
〇学生の反応を見ながら応答的に授業をする

４．教育の成果

〇担当している1年次生やゼミ生とはいい関係が築けつつある。
〇学生から、指導の希望を言いやすいように言葉をかけてきたことで、個別指導の希望が昨年度より多くあり、それに対して丁寧な指導を心がけて実施できている。
〇コロナの影響で、学生同士が話し合ったり、協同で作業に取り組むといった内容を授業に入れられず、講義が中心になってしまった。

５．今後の目標

〇学生の学ぶ意欲を引き出す。
〇コロナの問題はあるが、学生自ら答えを導き出すようなグループでのアクティブラーニングで学生同士の学びあいを取り入れる。
〇視覚教材を使うなど授業の工夫をする。
〇よい保育者を育てられる幼稚園専修にする。

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	森瀬　智子

１．教育の責任

①合唱Ⅰ　②合唱Ⅱ　③西洋の音楽史と理解　④諸民族の音楽　⑤声楽実技Ⅰ　⑥声楽実技Ⅱ　⑦声楽演奏法演習Ⅲ
⑧声楽演奏法演習Ⅳ　⇒　音楽専修科目、中等免許科目
⑨音楽の理解　⑩音楽科指導法　⇒　小学校免許科目
⑪子どもと表現の指導法（オムニバス）　⑫子どもと表現（音楽）　⇒幼稚園免許、保育士資格
⑬人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）　⇒卒業必修科目
・学生支援⇒　ZOOM期間中の昼休み補習講義毎週3～4日（音楽の理解）、対面期間中の昼休み週1回補習講義（音楽の理解）、2年生以上の音楽専修希望者への授業外個別レッスンと講義、希望者（小学校専修、幼稚園専修）への授業外ピアノレッスン、夏休み小学校専修学生（希望者）2次試験に向けての弾き歌いレッスン（対面とZOOM）、夏休み音楽専修学生（希望者）への声楽レッスン。

２．教育の理念・目的

自分で考えて行動できる自律した音楽を通して社会に貢献できる人材の育成、幼児・児童・生徒があこがれるロールモデルになる教員の養成を理念としている。元来、音楽とは楽しく、また人の心を癒してくれるものでもある。教員が音楽に親しみ音楽の素晴らしさを身をもって伝えることで、子どもは音楽を楽しいものだと感じ、自ら様々な音を試し、音楽に触れようとする。そのことによって自分を表現することもでき、認められることによって自己肯定感も高まる。そのような経験が生涯音楽に親しむ基盤となり、また音楽によってそれぞれの生活を豊かにすることにも繋がっていく。

３．教育の方法

２の実現のために、学生の自律のために、まず学生に「自分が今何をする時か考えて行動する」ということを中学生にこれまで問い続けたことで生徒が変容していったことを伝える。また、学生にもこれを問い続ける。
・ロールモデルとなる教員養成のために、学びたいと学生が望めば、惜しみなく自分が得てきた音楽教育の技を伝えるし、音楽技能を高めたいと望めば、レッスンも幼・小・中専修問わずに行うことを伝えている。また、あこがれがあこがれを生むため、いかに子どもと音楽を一緒にすることが楽しいか、ということも伝えるようにしている。
・学生同士であこがれがあこがれを生むように、学び合い、刺激し合う関係性を育めるよう、協同学習を柱とした授業を紹介、展開している。　・方法としては、研究を進めている深い学びに通じる一人ひとりが役割分担をもった協同学習の手法を主として授業を行っている。　・春休みも学生の依頼により、学び合い、刺激し合う合唱の指導を見せるために手本となる中学校を訪問する予定であったが、今回は日程が非常事態宣言下になってしまい、後日訪問となった。
・FD/SDにおいては学内研修に参加している。また、過去学外の研修に参加したことも授業に活かしている。
・専門分野においては、コロナ禍で従来のような声楽、合唱活動ができにくく、アンケートによるコロナ禍の歌唱分析が主になってしまった。

４．教育の成果

前期の科目『音楽の理解』では、学生の入学時での音楽の理解の差を昨年度から感じていたため、対面時は学生の授業予定から週1回しか補習が行えなかったが、遠隔では移動が必要ないため、その時期は約40分間週3日～4日の補習を行った。その結果、補習に休まず参加した学生は継続して音楽に触れることで理解も深まった。初回の授業では音符について理解できていなかった学生が、最後には科目の達成目標である両手で自作の簡易伴奏で『ふじ山』を弾き歌いできるまでになった。このことによって今まで音楽に触れていなかった学生も、本人にその気があり、丁寧に取り組むと、半年でもそこまで力をつけることができるということが明らかになった。また、対面では、遠隔時の授業での学生の音楽の理解度から、全てのグループができるだけ同じ力になるようにグループ分けをし、協同学習が効果的に進める工夫を行った。学生のリフレクションからは、4人で協同して課題を進めていくため、楽しんで課題解決ができ理解を深めることができた等の記述が見られた。
講義形式である『西洋の音楽史と理論』では映像を視聴して考える等は自分ごととして集中して学習できたようである。しかし、協同学習の手法を使った授業を視聴したり、その手法を伝えることはできたが、協同学習は個人が役割分担をもち、話し合い、課題を解決する方法であるため、授業の進度と計画の関係から、対面時に協同で学習を進めることはできなかった。

５．今後の目標

音楽科の協同学習の手法を学生にもっと学びたい、と意欲を持たせる為に、学生が興味をもった小学校音楽で使う常時活動の言葉と同じくらいの頻度で学生に協同学習について話をし、紹介していく必要がある。効果が見えてくると、学生も自律して授業時間外にも学修に取り組むことが増えると考える。・短期的には学生のレベルに合わせたポップスを用いた協同学習の単元を用いて興味をひく授業を実際学生に体験させ、身近で楽しいものだと感じさせ学習の自律を目指す。・長期的には特に音楽専修の学生においては、2年次の諸民族の音楽や西洋の音楽史と理論において、またゼミでも協同学習の手法で学習を進めた後、その手法を用いた学生があこがれるような中学校の授業見学の場を設定する。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

前期の音楽専修（2年17名）＋小学校専修（1名）での計18名の講義授業『西洋の音楽史と理論』
前期の小学校専修（43名）音楽専修（1年15名）での計58名の授業『音楽の理解』
のアンケート結果のシートを添付

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	加奥　満紀子

１．教育の責任

（担当授業科目）
〇授業に合った丁寧な教材準備　　〇常行態度・マナーの徹底
〇一人一人に分かる、楽しい授業
〇一人一人の授業の理解の把握・確認　〇分からないことに対して丁寧に答える
〇授業に臨む声の出し方・間の取り方
〇板書の仕方
〇教師の一方的な授業にならないように学生同士で話しあう場や意見をしっかりと言える時間を確保する
（各種学生支援）
〇自分の思いが先行せず、学生の思いをしっかりと受け止める。

２．教育の理念・目的

〇幼児教育の大切さ・必要性を伝える。
〇人を育てることの受容性を伝える。

３．教育の方法

〇３８年間の実見経験を活かし、具体的に学生に伝えいく。
〇授業評価アンケートを真摯に受け止め反省し、改善してく。

４．教育の成果

〇課題レポートの感想などから、今までの経験から伝えた思いを感じ取っていることが伺えた。

５．今後の目標

〇実務経験から学生にたくさんのことを伝えていきたい。
〇一方的な授業にならず、学生の思いや意見を取り入れ共に学んでいく授業にしていきたい。

• 必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

ティーティングポートフォリオ

学部・学科	人間教育学部・人間教育学科	氏名	間井谷　容代

１．教育の責任

・子どもと健康の指導法　　・子どもと健康
・子どもと環境の指導法　　・子どもと環境
・保育所実習指導Ⅰ　　・保育所実習指導Ⅱ
・保育実践演習　　・基礎ゼミナールⅠ
・教育実習事前事後指導（幼）・教職表現力演習Ⅱ
・障害児保育

２．教育の理念・目的

・明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成を目指し、時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をつちかい、誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材を育成する。
・学生各々が、保育現場で必要な実務能力を発揮できるように基本的な専門知識と技術を身に付け、常にその保育をする意味や子どもの行動の意味を理解できる学生を育成する。

３．教育の方法

・学生と教員という立場に距離があっても、話せる雰囲気がもてるように心がける。学生の困り感に気付けるように、努める。
・授業では、講義だけでは、理解できない実践内容もあるため、できるだけ具体的な事例をあげ、イメージが持てるように努める。また、時々は動画等も取り入れて指導をする。
・専門として学会での口頭発表を聴き、論文集、教材となる書物を読むことで、専門教科の知識を得ることができた。また今後、もっと深く授業展開ができるように努めていきたい。

４．教育の成果

・授業では、リモートになることで予定通りに進めることが難しく、ロールプレーや、グループワークが十分にすることができなかった。
・シラバス通りに展開できないこともあったが、動画教材を通して、分析の方法や子どもから見る視点等を、具体的に伝えることができた。
・パワーポイントのスライドの背景により分かりづらい内容があったとコメントにあった。今後気を付けたい。

５．今後の目標

・教材を作る上で、学生にわかりやすい教材を提供するように心がけ作成していきたいと考える。
・専門教科については、年々指導内容に変化がある。それに合わせて対応ができるように自分自身の研究を進め、今後の指導に繋がるようにスキルアップに努める。

・　必要に応じて根拠資料を添付（シラバス，授業評価アンケート等）

・就任したところであるため、特段学生と関わることはないが、授業中には、随時授業内容の質問や相談に応じている。